

令和5年度【県北版】学校教育指導の重点

幸せを紡ぐ県北の教育



福島県教育庁県北教育事務所

目 次

◇ 未来に踏み出す力強い一歩のために	1
--------------------	---

戦略1 学校教育指導の重点全体構想

◇ 学校教育指導の重点全体構想「幸せを紡ぐ県北の教育」	2
(1) 令和4年度を振り返って	3
(2) 令和5年度の重点	
○ 確かな学力	10
○ 豊かな心	14
○ 健やかな体	18
○ つながる幼児教育	20
○ みんなでつくる特別支援教育	22



戦略2 各教科等の指導の重点

(1) 令和4年度の要請訪問等を振り返って	24
(2) 各教科等の指導の重点の見方	30
○ 国語	32
○ 社会	34
○ 算数、数学	36
○ 理科	38
○ 幼児教育、生活	40
○ 音楽	42
○ 図画工作、美術	44
○ 体育、保健体育	46
○ 家庭、技術・家庭	48
○ 外国語(英語)	50
○ 特別の教科 道徳	52
○ 外国語活動	54
○ 総合的な学習の時間	56
○ 特別活動	58
(3) 特別支援教育	60



戦略3 各種教育の指導の重点 (◎は県北の重要課題)

◎ 生徒指導	65
◎ キャリア教育	68
◎ 情報教育	70
○ 図書館教育	72
○ 環境教育	73
○ へき地・小規模学校教育	74
○ 国際理解教育	75
○ 健康教育	76
○ 防災教育	77
○ 放射線教育	78
○ 人権教育	79
○ 主権者教育	80



〈資料〉	
○ 幼児教育と小学校教育の「育ち」と「学び」をつなぐために	81
○ 高等学校、そしてその先の未来へ	82
○ 特別支援教育「交流及び共同学習」に取り組む際に	86



〈付録〉	
○ これが今の私	
○ 私の授業プラス日記	
○ 私の授業レシビシート	

未来に踏み出す力強い一歩のために

県北教育事務所では、令和4年度より指導の重点スローガンを「幸せを紡ぐ県北の教育」とし、要請訪問や各種研修会を通して、日々の授業の改善及び充実、校内研修の活性化に向けた取組を推進してきました。ここには、子ども一人一人の幸せと社会全体の幸せを実現すべく、学校と家庭、地域と一体になって、子どもたちの学びの糸を紡ぎ、太く、強くしていきたいとの思いを込めています。

この3年間、コロナ禍において教育活動は様々な制約を受けてきました。しかし、そのような状況でも、市町村教育委員会や校長先生方のリーダーシップの下、「子どもの学びを止めない」という先生方の強い意志と愛情ある指導により、子どもたちが力強くひたむきに学習や諸活動に励む姿がありました。「あれ、何だろう？」と新しい出会いに心が動き出す子ども、「どうすればいいかな？」「いいこと思いついた！」と目を輝かせながら本気で考える子ども、「みんなと考えたら分かった！」「もっとやってみたい！」と振り返る子ども・・・目にしてきた子どもたちの姿の中に、子ども自身の手で学びの糸が紡がれていることを感じることができました。皆様の御尽力に感謝するとともに敬意を表します。

さて、第7次福島県総合教育計画（2022～2030年度）の中に、本県の教育の柱として挙げている「学びの変革」の視点と、これまでの振り返りから、特に「県北のみんなで取り組みたいこと」として、三つのキーワードを挙げました。

一つ目は「根拠」です。各教科等の各授業においても「根拠」を明らかにしながら考え、自分の考えを整理し伝えることを大事にしていきたいということです。

二つ目は「共有」です。友達の考えや思いに耳を傾け、自分の考えを伝える活動を通して、互いの考えのよさや新たな考えに気付いていくこと。さらに、「共有」したことを、自分自身の学びに生かすことへつなげたいということです。

三つ目は今年度も重点としてきた「振り返り」です。先生方の「振り返り」への意識が高まり、多くの授業の中に位置付けられるようになりました。さらに、「振り返り」の視点を明らかにし、それぞれの「振り返り」を共有しながら充実させていきたいということです。みんなに認められ、自分のよさへの気付きにもつながる「振り返り」の時間は、子どもたちにとって大事な時間となるはずです。

本資料は、要請訪問等で先生方から多く出された悩みを受け、その解決のヒントになればという思いから作成しました。子どもたちが歩んでいく未来は、予測困難な社会であると言われていきます。急激な社会の変化の中でも、力強く一歩を踏み出せる子どもたちであってほしいと考えます。自分の人生をたくましく切り拓いていくために必要な力を育成するために、ぜひ、本資料を、参考資料「これが私の『スタンダード』—私の授業を支える言葉—」と併せて活用し、日々の授業の改善・充実に御尽力いただければ幸いです。

子どもたちを真ん中にしながら、共に学びの糸を紡いでいきましょう。

子どもたちが未来に踏み出す力強い一歩のために。

令和5年2月
福島県教育庁県北教育事務所長

学校教育指導の重点全体構想



〈初任者研修：初任者による学級会〉

〈初任者の振り返りより〉

4月に採用されてから今日まで、様々な研修に参加させていただき、たくさんの方の事を学び、吸収してきた。慌ただしい日々の中で、学級経営、教材研究、授業、部活動等もこなしながらの研修は、正直大変だと思うこともあった。しかし、同じ初任者の方と話をしたり、考えを共有したり、悩みを相談したりすると心に余裕がもてて、明日への活力になっていたと思う。「ひまわり組」の仲間と共に、これからも残りの研修をがんばっていききたい。

子どもたちへの愛情をもって、子どもたちの成長を見守っていききたい。

こんな授業がしたい

こんな学級をつくりたい

こんな先生になりたい



〈話し合いで決定したR4初任者組のマーク〉



幸せを紡ぐ県北の教育



授業づくりの5つのポイント

- ① 単元をつくる・授業をつくる
- ② 教材との出会い・学習課題の把握
- ③ 追究・解決 <計画・方向付け・見通し>
<個での追究・解決>
- ④ 追究・解決
<ペアやグループ・学級全体での話し合い>

- ⑤ **まとめ**
振り返り・新たな学び
- 子どもの思いを生かした「まとめ」
 - 学びの自覚を促す確かな「振り返り」

🔑「根拠」・「共有」・「振り返り」を意識！



確かな学力

- 資質・能力を確実に育成する授業づくり
 - ・「授業スタンダード」の活用
 - ・個別最適できめ細かな指導
- 主体的な学びをつくる学習習慣の確立
 - ・「家庭学習スタンダード」の自校化
 - ・読書活動の推進
- 組織的な学力向上策の推進
 - ・「学力向上グランドデザイン」の実効的推進
 - ・機能的なR-PDCAサイクルの構築
 - ・校内研修の充実、「互見授業」の推進

自己マネジメント力の育成 ～家庭学習を支える4つの取組～

- ① 共通理解を図った指導
 - 家庭学習の手引きの自校化
 - ② 授業と家庭学習の関連付け
 - 復習と予習の関連を図る宿題
 - ③ 学習内容・方法の指導
 - 「調べ・考え・書く」活用型の宿題
 - ④ 協力・連携体制の構築
 - 小学校間、小中学校間での共通理解
- ※ →R(自分を知る)→P(計画する)→D(自ら学習する)→C(確かめる)→A(見直す)→R…
- ※ 自己マネジメント力=自分で学習や生活を改善する力

🔑「振り返り」で「学びの連続」を自覚！

豊かな心

- 心に響く道徳教育の推進
 - ・指導内容の重点化と実効性のある別業へ
 - ・「自己を見つめる」授業づくり
 - ・保護者や地域と連携した道徳教育の推進
- ひとと関わる豊かな体験活動の充実
 - ・地域の人や異年齢集団等との交流活動
 - ・特別活動を要としたキャリア教育
- 子ども理解に基づく生徒指導の充実
 - ・積極的な生徒指導
 - ・いじめ、不登校の未然防止・早期発見
 - ・教育相談の充実(SC、SSW等との連携)
 - ・情報モラルに関する指導

目標に向かって協力し、
粘り強く取り組む集団

温かな学級 学習集団

教師と子どもが信頼し合い、
何でも言い合える集団

互いのよさや成長を認め合い、
違いを理解し合える集団

健やかな体

- 進んで運動に取り組む態度の育成
 - ・共生の視点を踏まえた運動の楽しみ方の工夫
 - ・子ども一人一人の運動量の確保
- 体力向上のための組織的な取組
 - ・体力向上推進計画の改善
 - ・体育的活動の充実と環境整備
- 健康・安全な生活への指導の充実
 - ・保健・安全指導(感染症への対応)
 - ・望ましい食習慣を育成する食育
 - ・自ら考え行動できる放射線・防災教育

つながる幼児教育

- 発達の時期に適した指導計画の作成
 - ・生活や発達の連続性
 - ・家庭・地域・小学校との連携
- 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開
 - ・教材の工夫と環境の構成
 - ・試行錯誤や考える過程の重視
- よさや可能性を見取る評価の工夫・活用
 - ・幼児理解に基づく子どもの実態把握
 - ・見取りに基づく情報交換・意見交換
- スタートカリキュラムのマネジメント
 - ・子どもの姿・指導の在り方を幼小で共有

みんなでつくる 特別支援教育

- 全教職員による支援体制の充実
 - ・コーディネーターを中心とする支援体制
 - ・校内研修の活性化
 - ・ユニバーサルデザインの視点を生かす指導
 - ・交流及び共同学習の推進
- インクルーシブ教育システムの推進
 - ・教育的ニーズに応じた指導の充実
 - ・合意形成の過程を大切に
「合理的配慮」「個別的教育支援計画」
「個別の指導計画」
 - ・自立と社会参加に向けた教育の充実

家庭や地域社会、関係機関との連携

- ・家庭の教育力向上を図るPTA活動の充実
- ・地域全体で子どもを育てる地域学校協働活動の推進
- ・地域人材、NPO、企業、公民館、図書館等を活用した活動の推進



戦略I

学校教育指導の重点全体構想

(1) 令和4年度を振り返って




「令和4年度 県北教育事務所学校教育指導の重点事項」の中に示した「学級・学習集団づくり」と「豊かなところ」「健やかな体」「つながる幼児教育」「特別支援教育の充実」について、以下のように成果と課題をまとめました。このことを踏まえ、P10～P23に「令和5年度の重点」について示しました。併せてお読みください。各学校や先生方一人一人の取組のヒントになれば、幸いです。

また、「私の戦略」の欄（下掲）は、これまでの自身の指導を振り返った上で、令和5年度の取組の目標を記す等、自由に御活用ください。



私の「強み」って何だろう。
これまでの自分の指導を、振り返りながら考えてみようかな。

学級・学習集団づくり 「認め合い・励まし合い・磨き合い」

安心して学べる集団	
<input type="checkbox"/> 強み <input type="checkbox"/> チェック! 	「間違っても大丈夫」「みんなに聞いてもらえた」と感じるような温かい雰囲気のある授業が多く見られ、みんなで学ぶ楽しさを実感していた。また、友達の方に体を向けて意見を最後まで聴いたり、相手を意識して自分の考えを話したりするなど共に学び合うことを大切にする学校が増えてきている。今後も、「授業」と「学級づくり」を両輪とし、互いに認め合える学級集団づくりを継続したい。
学級活動の充実・自己有用感	
<input type="checkbox"/> 強み <input type="checkbox"/> チェック! 	学級活動(1)の「合意形成」を通して、互いのよさや違いを理解させ、集団活動の意義について気付かせていこうとする学校が増えてきた。さらに、小中学校の連接や、学年の積み重ねを共有して指導にあたりたい。また、子どもが互いに協力し認め合う中で、自他のよさや可能性に気づき、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し、自信をもてるように、振り返りを重視した一連の活動の工夫が大切である。
目標に向けての取組・自己肯定感	
<input type="checkbox"/> 強み <input type="checkbox"/> チェック! 	教育目標を踏まえて学級目標を掲げ、よりよい集団を一人一人の手でつくろうとしている学級が多い。機会を捉えて生活面や学習面の具体的な場面で目標を振り返らせたい。また、結果ばかりだけでなく、そこに至るまでの努力の過程も含め、よいところを教師が積極的に称賛することで、子どもに学級の一員としてさらに高め合っていこうとする意識をもたせることが大切である。



令和5年度 私の戦略（自分の思い・願い）



豊かな心

「自己を見つめる」道徳の授業づくり

□強み

アンケート結果や共通体験等を生かした導入により、ねらいとする道徳的価値に対する子どもの問題意識を高め、学びを自分事にしようとする授業が多く見られた。

□強み

発達段階に応じて、友達と意見交流したり、様々な登場人物の立場で考えたり、気持ちの変化の理由について考えたりする等、子どもが多様な価値観に触れながら考えることができる場を意図的に設定する授業が多く見られた。さらに、担任以外の教師や家庭・地域の人材等と連携することにより、子どもの心により一層響く授業づくりを目指していきたい。

□チェック!



子ども一人一人が実感を伴いながら考えを深め、道徳科のねらいに迫るために、まずは「『自己を見つめる』時間」をつくることが欠かせない。子どもが、「あの時は〇〇〇と考えて、□□□したな。」と、ねらいとする道徳的価値に関わるこれまでの具体的な経験を想起し、それらを基に「今思うと…」あるいは、「だから…」と、その子ならではの实感をもって考えを深めることを、一層充実させたい。

□チェック!



1人1台端末等を活用した様々な試みが見られる。効果的な「見える化」ではあるが、自分の思いや考え、経験等を個人が特定される形で学級全体に知られることに抵抗感をもつ子どもも存在する。内面的な資質である道徳性を養うという道徳科の特質と、目の前の子どもの実態に応じた効果的な活用を目指したい。

生徒指導の充実

□強み

スペシャルサポートルームの取組のよさを生かし、不登校の子どもへの対応や学習機会の確保、教育相談体制の強化や組織的対応を行っている学校が増えてきている。

□強み

小・中学校が連携し、児童生徒の情報共有を行うことで、きめ細かな支援を行い、中1ギャップの解消に努める学校が増えてきている。

□強み

SCによる全員面接を取り入れることで相談することに慣れさせるとともに、不登校・いじめの早期発見に効果を上げている学校が増えてきている。

□チェック!



全国学力学習状況調査質問紙調査より、(7)「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問では、全国比小学校-1.7ポイント、中学校-3.8ポイントであり、自己肯定感の低さに課題が見られる。今後も、子どもが努力しようとする気持ちを受け止め、小さなことも認め、励ましていきたい。

□チェック!



不登校児童生徒の出現率は年々増加している状況である。今後も、不登校の要因となるいじめへの対応については、積極的・正確な認知(いじめ見逃しゼロ)のもと、一人一人に寄り添って早期に、組織的な対応を継続していくことが必要である。

他者と関わる学習

□強み

コロナ禍においても、異年齢活動や地域人材を活用した学習などを取り入れ、他者とよりよく生きる子どもを育成しようとする学校が多く見られた。学校の実態に応じて工夫を凝らし、学習の充実につなげている。その取組を、今後も継続していきたい。

□チェック!



児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を着実に身に付けていくことができるよう、まずは特別活動をキャリア教育の要として機能させていきたい。



令和5年度 私の戦略（自分の思い・願い）



健やかな体

共生の立場に立った指導方法の工夫

強み

体育・保健体育の授業では、各種運動の特性に触れながら、子ども同士
の多様な関わりを大切にした授業が多く見られた。

チェック!



さらに、生涯体育につなげるためにも、運動に対する本時ならではの見
方・考え方を働かせられるようにし、子ども自身の力に合った場やルール
のもとで、より多くの成功体験を味わわせたい。

運動量の確保

強み

子ども一人一人が十分に運動できる時間を確保しつつ、グループや学級
全体での言語活動の場面を意図的にバランスよく設定している授業が多く
見られた。また、高めたい体力要素が効果的に高まるよう、準備運動や補
強運動を計画的に指導する学校が多くなってきた。

食育指導の充実

強み

養護教諭や栄養教諭、医師等との連携を図り、子どもの健康課題（「肥
満」「う歯」「食」等）の解決に向けた授業や講演等により食育の啓発が図
られた。今後も、養護教諭や栄養教諭等の専門性が生かされるような授業
づくりを継続していくとともに、子どもの健康マネジメント能力育成のため
に、「自分手帳」の活用を推進していきたい。

チェック!



感染症予防

強み

各学校において、共通理解のもとに感染拡大防止対策（換気の徹底、健
康観察の徹底、基本的な感染症対策の徹底）を講じて教育活動を実施して
いた。特に、基本的な感染症対策の徹底では、十分な睡眠、適度な運動、
バランスの取れた食事などについて抵抗力を高められるような指導を行っ
ていた。




令和5年度 私の戦略（自分の思い・願い）




つながる幼児教育

[幼稚園等]


発達の時期にふさわしい連続性のある活動

<input type="checkbox"/> 強み	長期的、短期的に見通しをもった指導計画を作成し、目の前の子どもの姿と照らし合わせながらPDCAサイクルを働かせ、期案、週案等で具体的な手立てを記して保育に当たっていた。
<input type="checkbox"/> チェック! 	子どもの思いや気付きを共有する場を意図的に設定し、次の活動への意欲を高めていけるよう、活動ごとにねらいに応じた視点での「振り返り」を実践していきたい。


多様な体験・試行錯誤の重視

<input type="checkbox"/> 強み	子どもの実態や季節等に合った環境が整えられ、子どもがそれらに主体的に関わり、考えたり、試行錯誤したりする姿が見られた。
<input type="checkbox"/> チェック! 	遊びの中で子どもたちの考える力を育むために、「なぜ」「どのようにして」という理由等を引き出す言葉掛けを工夫することで、遊びの中で気付きを自覚的な学びにつなげたい。

幼児理解と見取りの共有


<input type="checkbox"/> 強み	日々の記録に写真や付箋を使うなどして、子どもの姿を累積し、自園全体で共有することで、幼児理解に努めていた。
<input type="checkbox"/> チェック! 	子どもの姿を基に全体で共有したことを、保育者自身の省察、保育の質の改善、小学校教育への引継に生かしていきたい。

小学校教育との接続

<input type="checkbox"/> チェック! 	幼稚園等から積極的に小学校と連携を図りたい。また、個別に支援が必要な子どもの「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」について、幼小の引継を確実に言い、切れ目のない指導・支援につなげる必要がある。
---	--

[小学校]

幼児教育との接続

<input type="checkbox"/> チェック! 	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手がかりに、幼小間で無理なく、スムーズな接続ができるよう、幼稚園等で行われているアプローチカリキュラムを理解したい。そして、幼小がつながるスタートカリキュラムの作成と実施が今後さらに求められる。
---	--

まずは、子どもの姿を共有することが大切です。



令和5年度 私の戦略(自分の思い・願い)



小学校にも幼稚園のお便りが掲示されています。互いの様子を受け止めながら指導に生かすことができます。

みんなでつくる特別支援教育



クラスに3人くらい支援が必要な子どもがいます。どのような支援をしたらいいのですか？

知的発達に遅れはなくても、学習面や行動面に著しく困難を示す子どもへの支援を検討するため、LD、ADHD、高機能自閉症の三つについて文部科学省が調査しました。その結果から、通常学級に通う公立小中学校の児童生徒の8.8%に発達障がいの可能性のあることが分かりました。



環境づくりが大切ですね。ユニバーサルデザインの視点での学級経営、授業づくりを基盤とし、その上で個別の教育支援計画を作成して指導・支援に当たることが必要です。

どんな支援が必要なのか、学校全体で共通理解をもって取り組むことが大切です。ケース会議等で個別の教育支援計画を活用し、切れ目なく支援を引継ぐことで、子どもたちは安心して学ぶことができるようになります。



交流及び共同学習の充実

強み

経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ、交流及び共同学習を実施する学校が多い。

チェック！



教科のねらいを明確にして取り組むことが大切である。また、支援を必要とする子どもの実態や学習上の困難さ、目標や手立て、かかわり方について交流学級の教員と共有し、交流学習を進めたい。

【本誌 P 86 参照】

本人・保護者との合意形成

強み

子どもの障がいからくる困難さを的確に見取り、「個別の指導計画」が作成され、「学習指導要領 自立活動編」に基づいて、具体的な指導内容が設定されている授業が多く見られた。

チェック！



「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の活用には、本人・保護者との合意形成が重要であり、障がいの実態や家庭環境等、困難な部分に関しての直接的な表現、文言等に配慮する必要がある。傾聴・共感・受容の三つの態度、カウンセリングマインドをもって、本人・保護者と共に相談しながら作成していくことを大切にしたい。

【参考資料①参照】

ユニバーサルデザインの視点

強み

支援学級においては、ユニバーサルデザインの視点で学級経営、授業づくりを行い、その上で個別の支援が提供され、安心感をもって授業に取り組む子どもの姿が多く見られた。通常学級でも、同様の取組を行う学校が増えている。

チェック！



特別支援教育は環境づくりが重要である。教室のきまりやルールを「見える化（可視化）」し、自治的で、子どもが安心して過ごすことができる教室環境づくりや「分からない、できない」を素直に言える柔らかく、温かな学級、人的環境づくりを大切にしたい。

【参考資料②参照】

個に応じた教材の工夫

強み

個に応じた教材や手順表を手がかりに、主体的に課題解決に取り組む子どもたちの姿を多く見ることができた。

チェック!



障がいやその程度により、対応は一律ではなく、子ども一人一人の実態から考えることが大切である。しかし、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行わず、指導や手立てを工夫していくことを大切にしたい。

【参考資料③参照】

【参考資料】

- ① 「すぐ調べられる、活用できる資料！ 小・中学校、高等学校における
インクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック〔2020年版〕
教育相談等の力を高めるコーディネートアイデア（例）」
「令和5年度【県北版】学校教育指導の重点 幸せを紡ぐ県北の教育」P61
各学校における合理的配慮の提供プロセス(例)参照】
- ② 「令和4年度版【ふくしまの「授業スタンダード」解説】これが私の「スタンダード」
ー私の授業を支える言葉ー」 P6、7
「2022年度版 子どもたちの未来へつなぐヒント集～切れ目のない支援を目指して～」P1、2
すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために～ユニバーサルデザインの視点から～
- ③ 「令和4年度版【ふくしまの「授業スタンダード」解説】これが私の「スタンダード」
ー私の授業を支える言葉ー」 P8、9
学びの困難さに応じた指導の工夫！



特別支援教育センターHPから
コーディネートハンドブック



県北教育事務所のHPから
これが私の「スタンダード」



県北教育事務所のHPから
子どもたちの未来へつなぐヒント集

令和5年度 私の戦略（自分の思い・願い）



(2) 令和5年度の重点

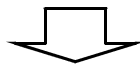
確かな学力

【目指す子どもの姿】

自分の学習を振り返り、「こうやったらできた」（達成感）、「もっとやってみよう」（次時の期待）という思いをもって学びを自己マネジメントできる子ども

【県北域内の子どもの実態】

- 友達との協働学習を通して互いに学び合う姿勢が育っている。
- 家庭においても自分の計画に基づいて学習を進めることができる。
- 学習習慣は身に付いてきているが、学習内容や学習時間の設定については与えられたものをこなす消極的な姿が見られる。



【令和5年度の指導の重点】

学びの「振り返り」の徹底
～ 「根拠」を基にみんなで「共有」～

学習指導要領の改訂では、変化の激しい社会において、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会にいかそうとする「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となる子どもたちに確実に育むことが求められている。

様々な教育活動の中で、対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせるなど、画一的な一方通行の授業等から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していくことが必要である。また、探究的な学びと、各教科の中での主体的・対話的で深い学びを往還することで、「学び」や「学力」等について、学校、家庭、地域が連携し、誰一人取り残さない「福島ならではの」教育を進めていくことが大切である。

1 資質・能力を確実に育成する授業づくり

○ ふくしまの「授業スタンダード」の活用

- ・ 単元の目標の把握、子どもの実態の把握、教材の価値の把握を進め、単元全体を見通した指導計画、評価計画を立てる。
- ・ 授業における教材との出会いを大切に、「問い」や「思い・願い」を引き出す工夫を行う。
- ・ 解決の見通しや活動の計画を立てる段階を重視し、子どもが主体的に自力解決に取り組むことができるようにする。特に、目指す子どもの姿に照らして個の学びを適切に見取り、「主体的・対話的で深い学び」を促す指導を重視する。
- ・ 対話的な学びを重視する。特に、ペアやグループによる活動では、思考を可視化する工夫、考えが深まる教師のコーディネートの実践を図る。その際、考えの根拠を明らかにしたり、考えを共有したりする活動を重視する。
- ・ 「何を学んだのか」「どのように学んだのか」の視点で子ども自身が自覚的に学びを振り返る場面とともに、家庭学習や次の授業への課題意識をもたせる。また、児童生徒の振り返りを通して、教師自身も本時の授業を振り返ることができるようにする。

○ 個別最適できめ細かな指導

- ・ 一人一人の学習状況を的確に見取るとともに、見方・考え方を働かせた姿を明確にし、「深い学び」へ導くためのコーディネートを行う。
- ・ 課題の見られる単元において習熟度別指導やTTなどを効果的に取り入れるなど、少人数教育のよさを生かした指導方法を工夫・改善する。



2 主体的な学びをつくる学習習慣の確立

- 「家庭学習スタンダード」の自校化
 - ・ 学習習慣や生活習慣の確立に向け、保護者と共通理解を図りながら、学校及び家庭における学びの連続性をもたせる。
 - ・ 家庭学習の目標の設定や実施、振り返りなどの R-PDCA サイクルを通して、子どもに「自己マネジメント力」を身に付けさせる。
- 読書活動の推進
 - ・ 司書教諭等を中心に、学校全体で協力体制をとりながら、子どもや教員のニーズに応じた図書の充実を図り、読書活動が充実する魅力ある図書環境をつくる。また、発達の段階や学校の実態に応じた子どもによる読み聞かせや図書紹介などの読書活動を積極的に推進する。

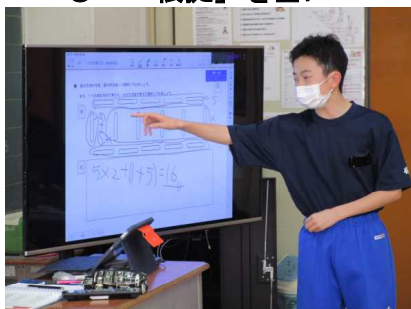


3 組織的な学力向上策の推進

- 「学力向上グランドデザイン」の実効的推進
 - ・ 課題解決に向けた具体的な手立てやそれを具現化する場面や時期、評価の指標や方法を位置付けるなど、グランドデザインを実効的なものとし、学校全体として組織的に推進する。
- 学力調査等の結果を踏まえた、機能的なR-PDCAサイクルの構築
 - ・ 各評価用テスト、「ふくしま活用力育成シート」等を活用したショートスパンの R-PDCA サイクルと、「全国学力・学習状況調査」及び「ふくしま学力調査」の結果を活用したロングスパンの R-PDCA サイクルを機能させ、全校体制での取組を進める。
- 校内研修の充実、「互見授業」の推進
 - ・ 学校課題を明確にし、全教員が共通の目指す子どもの姿をもちながら指導実践することで、主体的な研修が進められるように工夫する。
 - ・ 深めたい指導の工夫を焦点化して授業を参観し、授業改善への取組が日常的、継続的に行われるように授業研究会の在り方などを工夫する。

県北力（県北域内の輝く姿）

○ 「根拠」を基に



〈中学1年生数学科〉
「上下に正方形と同じ数の棒があるので…」自分がどのようにして式をつくったのか、図を使い、根拠を基に自分の考えを説明しています。



〈小学2年生図工科〉
「ここを広げた方が丈夫になるよ」根拠を基に、さらによくなる工夫を伝えています。

○ みんなで「共有」



〈小学5年生体育科〉
「フリーの仲間パスを出そう」、「空いているスペースを探そう」ゲームに勝つために攻守のポイントをみんなで共有する姿が見られました。



〈小学3年生理科〉
「本当に太鼓は震えないのかな？」ある児童の発言から「問い」を共有し、解決へと向かう子どもたちの姿が見られました。

ふくしま学力調査において伸びの大きかった学校への聞き取りから(県北)

自分の考えを表現する活動

「書く」「話す」

- 自分の考えを書かせることで、考えがまとまり、整理したりできる。
→ 「書く」ことは考えること
- 全教育活動を通して、行っている。目的意識・相手意識を必ずもたせる。→必要感
- 式と言葉で説明を書かせる。
- 「どうしてそう考えたの?」「説明できる?」と問うことで、自分の言葉でもう一度説明させる。
- ふさわしい言葉、文のねじれや誤字脱字は根気よく徹底して指導してきた。
→ 言葉の力の高まりが表現する際の自信になる。人の使う言葉に対しても関心をもつようになる。
- 全国学調や定着確認シート、活用力育成シート等を使って文章を「書く」時間を取る。→必ず添削

「共有」を基盤とした課題解決

- 子ども同士で解決する時間を取る。
- 相手の言葉を否定せずに受けとめ、反応(再生、質問、感想等)を返す双方向のやりとりを大事にする。
→ 学級活動の経験が生かされる。
- 分からないことを友達に聞いたり、分かることを友達に説明したりする。
→ 友達の考えは自分の考えを深めてくれるもの。
一緒に分かるようになろうとする思いが高まる。
- 考えの根拠や理由を意識して話し合う。
→ 「どこから」「どうして」を明らかにしながら話す、聞く。
→ 話し合ったことを基に、自分の考えを再構築する。

授業とつなげる「家庭学習」

- 自主学習を全校で取り組む。(自己マネジメント力)
→ 中学校の取組例や友達の良い取組を紹介
- 授業と関連させる。(まとめ直す、もっと知りたいことを調べる、予習に取り組む)
- 一人一人に合わせて、分かるまで。

自己の学びを見つめる「振り返り」

子どもも、先生も

- (まとめと振り返りは分けて)視点を明確にして、自分の言葉で振り返りを書かせる。
→ 自分ができるように学んだのか自覚させる。
コメントを書いたり、称賛の声かけをしたり、個の学びを見取って指導、支援を生かす。
- 振り返りには新たな「気づき」が書かれていることがある。それを拾って他の子どもたちにも広げる。
→ はじめは「分からなかった…」くらいしか書けなかったが、どんな視点で書けばよいか分かり、進んで書けるようになった。
→ 次の学習、他教科につなげる。
- 振り返りの時間は、子どもたちが分かっているかどうかを知るために、絶対に必要なもの。絶対に書かせたいので、ここから授業を考えている。

児童質問紙から

Q: 学級は落ち着いて学習する様子でしたか。
* だれもひとりぼっちにしない。
* みんなで高め合おう。

子どもたちはすごい。私の考えを超えた考えも出てくるんです。

私たちが学校が楽しくないと、子どもたちも楽しくない。

どうしてできなかったんだろう。くやしい! (自分の指導を反省)

こんなことやってみただけど、どうかな?

全校で! 取り組む 分析、課題

Q: 先生(友達)はよいところを認めてくれましたか。

必ずほめる!
がんばった、できるように
なった姿を価値付け

続ける!

大事なことをしっかりと

Q: 学級での生活は楽しかったですか。
* 失敗をおそれずやってみよう。

子どもたち、学校にとって今何が必要なのか全職員で考えを出し合いました。

つなげる!

子ども同士、学習

Q: : 理解していないところや間違えたところについて分かるまで教えてくれましたか。

「自ら考え行動する、共に考える子ども」を育てるためには、先生自身から。

子どもへの愛情と情熱をもち、共に学び合う教師集団(先生方の声より)



豊かな心

〔目指す子どもの姿〕

自分の強みを自覚した上で、自他のよさや違いを認め、共によりよい生活をつくろうとする子ども

〔県北域内の子どもの実態〕

- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる子どもが多い。
- 道徳科では、振り返りの発問を設定しない授業が多いため、「自己を見つめる」機会が少ない。
- 「自分にはよいところがある」と思っている子どもが、県、全国に比べて少ない傾向にある。
- 不登校の子どもが増加している。



〔令和5年度の指導の重点〕

「振り返り」をする機会の積み重ね
～一人一人のよさを、適時称賛する教師集団へ～



1 心に響く道徳教育の推進

- **指導内容の重点化と実効性のある別葉へ**
 - ・ 校長の明確な方針の下、道徳教育推進教師を中心としながら、全教職員が共通理解を図り、協力して道徳教育を推進する。
 - ・ 子どもや学校、地域の実態を踏まえ、「どのような子どもを育てたいか」を明確にする。その上で、学校における重点目標を設定するとともに、指導内容の重点化（重点内容項目の設定）を図る。
 - ・ 「別葉」の作成にあたっては、各学校において設定した重点内容項目を中心に作成する。また、各教科等における道徳教育の指導の「内容と時期」が明確になるよう、そして、年間を通して効果的に活用できるよう工夫する。
 - ・ 主題の設定と教材の配列を工夫し、「自校ならでは」の指導計画の具現化を図る。作成にあたっては、「ふくしま道徳教育資料集」等の地域素材及び「コロナウイルス感染症に係るいじめ未然防止に向けた教材」（義務教育課 HP）を積極的に位置付け、活用する。
- **「自己を見つめる」授業づくり**
 - ・ 道徳科の授業においては、道徳的価値の理解にとどまることなく、自己を見つめ、具体的な体験を想起する等、子ども自身が実感を伴いながら考えを深めることができるような手立てを工夫する。
 - ・ 評価の視点や方法、評価のために収集する資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通理解し、子どもの成長を受け止めて認め、励ます評価について共通実践を図る。また、評価について保護者に説明する機会を設けることで、家庭と連携した道徳教育の効果的な推進が図れるように努める。
- **保護者や地域と連携した道徳教育の推進**
 - ・ 保護者や地域の人たちが授業を参観する機会を設けるとともに、参加したり協力したりするような指導体制を工夫することで、各校の道徳教育の目標の具現化を図る。

2 ひとと関わる豊かな体験活動の充実

- **地域の人や異年齢集団等との交流活動**
 - ・ 集団宿泊活動、文化芸術体験活動や地域と連携した奉仕体験活動、自然体験活動等の充実を図るとともに、活動の成果を各教科の指導等に生かすことで、自己の生き方についての考えを広げたり深めたりする機会とする。
 - ・ 地域の大人や子ども、高齢者、障がいのある人たち等と触れ合う機会の充実を図ることで心を耕し、思いやりや郷土愛、規範意識等を育む。

○ **特別活動を要としたキャリア教育**

- ・ 児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を着実に身に付けていくことができるよう、まずは、特別活動を要として機能させることで、キャリア教育の充実を図る。

3 子ども理解に基づく生徒指導の充実

○ **自己指導能力の育成**

- ・ 学校生活のあらゆる場面で、実践上の4つの視点（自己存在感の感受、共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全安心な風土の醸成）を常に意識した学級経営を行い、児童生徒一人一人の自己指導能力の育成に努める。

○ **いじめ、不登校の未然防止・早期発見**

- ・ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、積極的にいじめ認知に努める。
- ・ 「新たな不登校を出さない」という意識を全教職員で共有し、日常の観察や対話による実態把握に努め、不登校の未然防止や早期発見、早期対応、早期解決に努める。
- ・ 不登校の状態にある子どもへの支援について、長期的・短期的な視点を持ち、チームでの対応の充実を図る。
- ・ スペシャルサポーターチームの取組のよさを生かし、不登校の子どもへの対応や学習機会の確保、教育相談体制の強化を行う。

○ **教育相談の充実（SC、SSW等との連携）**

- ・ 子どもとの信頼関係の醸成に努め、教員一人一人がカウンセリングマインドをもって相談支援にあたるとともに、教員間の連携を深めるなど校内支援体制の確立に努める。
- ・ SCやSSW、外部関係機関と連携しながら、チームとして個に応じた支援ができるように、校内のコーディネート力の向上を図る。

○ **情報モラルに関する指導**

- ・ 子どもの発達段階に応じて「5つの内容」（P70参照）をもれなく扱えるよう教育課程を編成し、教育活動全体を通して指導する。また、家庭との連携を図りながら、具体的な指導を行う。
- ・ SNSの適切な利用方法について、外部講師などを効果的に活用し、情報社会における行動に伴う責任と危険性についての理解を促す。

県北力（県北域内の輝く姿）

○ **学年を超えた交流で紡ぐ温かな心（中学校の合唱コンクールを通して）**

1年生の思い

最後の養護祭、感謝の思いを出しましょう！

【の4-団】

〈感謝の気持ちを1年生から3年生へ〉

〈合唱コンクールの前に〉
 1年生にとって、初めて迎える「合唱コンクール」は、不安がいっぱいです。そんなある日、3年生の合唱を聴かせてもらうことになりました。
 3年生の息の合った合唱を聴いて、1年生の心が震えました。そして、感謝の気持ちを3年生に届けました。すると、今度は3年生から応援メッセージが届きました。メッセージを読み、練習を繰り返すうちに、1年生の不安は少しずつ減っていきました。

〈合唱コンクールの後に〉
 合唱コンクールが終わると、頑張った1年生を称えるメッセージが、3年生から再び届きました。そんな3年生の姿に、1年生は強い憧れを抱きました。

3年生の思い

○ 一番大切なのは“楽しく歌うこと”です。クラス全体がそういう意識をもって歌えば、最高の合唱になると思います。

○ 今までの練習を信じて、クラスのみみんなを信じて、お互い頑張りましょう。

〈3年生から1年生へ向けた応援メッセージ〉

〈合唱コンクール後に3年生から再び届いたメッセージ〉

○ 「自己を見つめる」授業づくり



道徳科の授業では、子どもが「自己を見つめる」ことが大切だと言われていますが、うまくいきません。「自己を見つめる」って、どういうことですか。

学習指導要領解説には、「自己を見つめる」ことについて、次のように書いてあります。



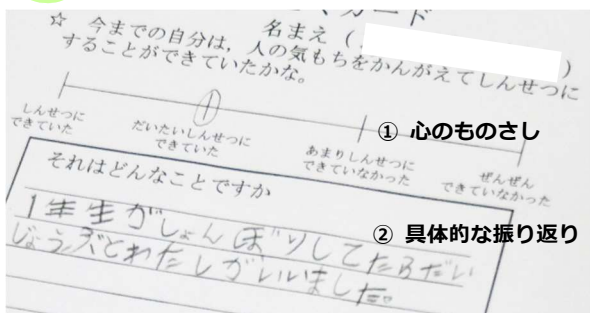
自己を見つめるとは、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めることである。

(小学校学習指導要領解説P18)

一見、自己を見つめているようでも、先生が求めている答えのようなものに近づけようとしていたり、決意表明をしたりすることが、道徳科のゴールになっていませんか。「自己を見つめる」ことを大切にしている授業を紹介しましょう。



1 「心のものさし」を手掛かりに、具体的に「自己を見つめる」授業



〈小学校 第2学年「思いやり、親切」の授業より〉
 T: どうして1年生に声を掛けようと思ったの?
 C: 学校探検の時に、1年生が一人でしょんぼりしていたからです。
 T: 仲良しの友達じゃないから、声を掛けにくかったんじゃない?
 C: 私がしょんぼりしていた時に、友達に声を掛けられて嬉しかったから、迷わず声を掛けました。
 T: 声を掛けられた1年生は、どんな様子でしたか?
 C: につこりしていました。
 T: 今、その時のことをどう思いますか?
 C: あの時親切にしてよかった。自分って最高な人だなんて思います!
 T: みなさんも、親切にしてよかったと思ったことはありませんか?

- ① 心のものさしに、今の自分を位置付ける。
- ② 位置付けた理由について、具体的に振り返る。

2 「体験の振り返り」を手掛かりに、具体的に「自己を見つめる」授業



ねらいとする価値につながる経験を想起しやすいように、写真や作文等を提示しています。その時の気持ちや、そのように行動した理由等について、子どもから具体的に引き出していきます。

学校生活等で、「**共通に体験している場面**」を取り上げて振り返ると、その時の思いや考えが共有しやすくなります。

「**個が体験した場面**」を取り上げた時も、友達の思いや考え方を聞きながら、「自分はどうかだったかな」と、具体的に振り返る子どもの姿が見られます。

写真や作文等の提示による「体験の振り返り」を手掛かりに、確かに「自己を見つめる」ことができていると感じています。



これまでの自分

← 今の自分 →

これからの自分

根拠

1年生が転んだときに声を掛けようと思ったけれど、遊びたくて通り過ぎてしまったな。1年生は、あの後どうしたんだろう…。



あの時の自分は、自分のことばかり考えていました。だから、これからは相手の気持ちをもう少し考えられるように気付けたいです。

実感

考えの根拠となる「これまで」を見つめさせていなかった。



相手の気持ちを考えることは大切だということが分かりました。自分の思いではなく、相手の思いを優先して考える人になりたいです。

実感?



自分のよさや課題と向き合っていないから、考えを十分に深められなかったのですね。

道徳的価値が、**自分にとって**どのような意味があるものなのか、また、どのように生かしていけるものなのかと自己内対話することが大切です。そのため、これまでの自分の経験を振り返ることが欠かせません。



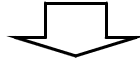
健やかな体

〔目指す子どもの姿〕

自己の生活習慣を振り返り、健康課題に気付き、進んで運動したり、望ましい食習慣を身に付けたりする子ども

〔県北域内の子どもの実態〕

- 令和4年度の体力テストの結果は全体的に昨年度よりも下回っている。
- 朝食摂取率は県平均と同等であるが、昨年度よりも下回っている。
- 肥満出現率は県・他管内と比較すると下回っているが全国と比較すると高くなっている。



〔令和5年度の指導の重点〕

体力向上と肥満防止を「振り返り」から

～仲間と楽しく運動、バランスのよい食事～

1 進んで運動に取り組む態度の育成

○ 共生の視点を踏まえた運動の楽しみ方の工夫

- ・ 共生の視点を踏まえ、体力や技能の程度、性別や障がいの有無に関わらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるようにする。
- ・ 運動技能の習得や向上など、子どもが自分の変容などに気付き、自己の成長を実感できる振り返りの時間を設定する。
- ・ 各種の運動（種目）を通し、その運動（種目）自体がもつ楽しさを十分に味わわせる指導を実践する。
- ・ 運動に対する見方・考え方を焦点化し、子ども自身の力に合った場やルールのもとで、より多くの成功体験を味わえるようにする。
- ・ グループ等での話し合いなどを通して「思考力、判断力、表現力等」を育て、それらに基づいた運動実践を通して新たな考えをもたせたり、理解を深めさせたりする場面を多く設定する。
- ・ 子どもが身に付けたり向上させたりした「動き」などが、実生活にも役立つことを気付かせることで実践意欲を高める。

○ 子ども一人一人の運動量の確保

- ・ 言語活動の場面を設定しながらも、実際に運動する時間を十分に確保する。
- ・ 「順番待ちの時間をできるだけ少なくする」など、授業1単位時間（小学校45分、中学校50分）の限られた中で、子ども一人一人が一定の運動量を確保できるようにするための工夫をする。また、「移動の際は走るようにする」など、同じ場面でも、より運動負荷が増す工夫にも留意する。ただし、発達の段階を考慮し、過重な負荷にならないよう注意する。

2 体力向上のための組織的な取組

○ 体力向上推進計画の改善

- ・ 「体力向上推進計画書」の作成にあたっては、子どもが主体的に体力向上に取り組む態度が育成されるよう内容を吟味し、自校の課題等を明確にした具体的で実効性のある計画書にする。
- ・ 自分手帳を活用し、体力テストに向けた意欲付けを行う。（例 体力テストの過去の記録の振り返りと目標設定）

○ **体育的活動の充実と環境整備**

- ・ 「授業以外の体育的活動」を充実させるため、体育主任を核として、全教職員の役割分担を明確にし、協力して取り組む。
- ・ 子どもが意欲的・主体的に運動に取り組めるよう自分手帳を活用し、目標のめたせ方や自己の変容が自覚できる振り返り活動に工夫を加える。
- ・ 子どもが進んで運動に取り組み、体力の向上を図ることができる運動場(屋外・屋内)の場の設定を工夫する。

3 健康・安全な生活への指導の充実

○ **保健・安全指導（感染症への対応）**

- ・ 子どもを取り巻く身近な健康課題に着目し、課題を解決したり、その解決方法を身に付けさせたりする。
- ・ 感染拡大防止策（換気の徹底、健康観察の徹底、基本的な感染対策の徹底）を図る。
- ・ 身近に起こった出来事から、その発生要因や防止策について理解させ、安全な生活を営む資質や能力を育てる。

○ **望ましい食習慣を育成する食育**

- ・ 食育推進コーディネーターを中心に学校給食(給食指導)を活用するとともに、家庭や地域と連携を図るなどして、食に関する指導を効果的に推進する。
- ・ 子どもの健康課題(「肥満」、「う歯」等)の解決に向け、規則正しい食事と栄養のバランスがとれた食事、年齢・発達段階や身体活動に適した食事の大切さを理解させる。
- ・ 地域の行事や地域の人々との関わりを通し、身近な食材や地域の食文化に関心をもち、郷土食や行事食を味わい、地域の気候や風土に根ざした食文化を理解させる。
- ・ 自分手帳を活用し食習慣を見直す。(例 記入日を設けた食生活の振り返り・家庭との連携等)

○ **自ら考え行動できる放射線・防災教育**

- ・ 自他の生命を守り、安全を確保できる力を育成するため、子どもが主体的に学び、知識や技術を身に付けるだけにとどまらず、その知識や技術を生かすことができるようにする。
- ・ 地域や関係機関と連携し、防災訓練などの体験や実習を通し、実践力を高める指導を工夫する。

県北力（県北域内の輝く姿）

○ **自分手帳の活用（食習慣の振り返り）**



自分手帳に記録を蓄積し、ポートフォリオとして振り返りに活用したり、授業の教材として活用したりしている学校がありました。



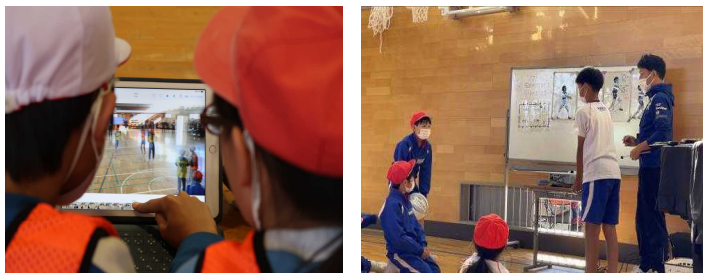
タブレットを使って自分の動きを客観視したり、友達とアドバイスし合ったりして、みんなが楽しめる体育の授業づくりをしています。

○ **運動の日常化**



体育館に入る時にジャンプハイタッチができるように工夫しました。遊びをとおして運動の日常化を図っています。

○ **授業の充実**



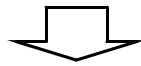
つながる幼児教育

〔目指す子どもの姿〕

幼児期に身に付けた力を、小学校でも安心して十分に発揮する子ども

〔県北域内の実態〕

- 接続期カリキュラム（小：スタートカリキュラム、幼：アプローチカリキュラム）が整備されている。
- 幼稚園等では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基にした各年齢における目指す子どもの姿を設定し、計画に基づく子どもの姿を視点として日々の指導改善を図っている。
- 毎年変わる子どもの実態に応じた、実効性のある接続期カリキュラムにしていく必要がある。



〔令和5年度の指導の重点〕

幼児期からの「育ち」と「学び」をつなぐ
～幼小で共につくる接続期カリキュラムへ～



1 発達の時期に適した指導計画の作成

- **生活や発達の連続性**
 - ・ 子どもの実態及び子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を工夫する。特に、短期的な指導計画においては、子どもの意識や興味・関心の連続性のある活動を設定する。
- **家庭・地域・小学校との連携**
 - ・ 家庭や地域など、集団生活の中で、子ども同士や身近な人との関わりが深まる活動を充実させる。小学校教師との意見交換や合同の研修の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共有し、小学校教育への円滑な接続を図る。

2 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の展開

- **教材の工夫と環境の構成**
 - ・ 子どもの発達の実情や興味・関心等を踏まえながら、多様な体験ができる教材を工夫したり、環境を構成したりする。
- **試行錯誤や考える過程の重視**
 - ・ 遊びを通して試行錯誤したり、考えたりする過程を十分に受け止め、子どもが身近な環境に主体的に関われるようにする。また、遊びが連続・発展する教師の関わりを工夫する。

3 よさや可能性を見取る評価の工夫・活用

- **幼児理解に基づく子どもの実態把握**
 - ・ 指導の過程を振り返りながら幼児理解を進め、子ども一人一人のよさや可能性を把握し、指導の改善に生かす。
- **見取りに基づく情報交換・意見交換**
 - ・ 保育を通して見取った子ども一人一人の状況を、「目指す子どもの姿」に照らして教師相互に情報交換・意見交換し、次の指導の改善を図る。

子どもを真ん中にした「架け橋プログラム」を実現したいですね。



4 スタートカリキュラムのマネジメント

子どもの姿が出発点

PLAN

3月末までに 校内組織を立ち上げて準備しよう



- 意義、考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解し、保護者へ説明する。
- 幼稚園・保育所等への訪問や教職員との意見交換、要録等から子どもの実態をつかみ、指導や支援、子どものよさを小学校につなぐ。
- スタートカリキュラムを編成する。

子どもを知ろう！～園に行ってみよう～

園では、子どもの主体性を大切にしています。生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、4月からの授業につながるポイントをたくさん知ることができます。



ACTION

時期を捉えて、反省・検証・改善しよう

- 長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの子どもへの指導に改善点を生かす。
- スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料をデータベース化し、共有する。
- 1月から3月にかけて、次年度のスタートカリキュラムの改善を図る。

【改善の例】

- 次年度のカリキュラム編成に向けて、幼稚園・保育所等の教職員との合同研修を改革する。



Do

4月から 全校で協力体制を組みスタートカリキュラムに取り組もう

- 学級担任だけでなく、全教職員で協力体制を組み、見守り、育てる。
- 発達の特性を生かし、具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫する。
- 環境構成を工夫し、安心感がもてるようにする。

【協力体制の例】

- 入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう、学校全体で時間割を調整する。そうすることで、他学年の担任も間接的にスタートカリキュラムに協力することができる。

保護者に伝えよう！～学級便り・懇談会～

子どもが興味・関心をもって学習に取り組む様子を保護者にエピソードで語りましょう。活動を通して、主体的に学ぶ姿を保護者にも理解してもらうことは、保護者の意識の変容につながります。

CHECK

子どもの姿・指導の在り方を語り合おう

- 取組がねらいに沿っているか、子どもの姿で日々評価する。
- 学年会などで、子どもの成長する指導方法について情報交換する。
- スタートカリキュラム作成委員会や職員会議などで、実施状況を共有する。

園の先生に 参観してもらおう！

参観後、子どもの姿や指導の在り方について気が付いたことを話し合しましょう。園での様子と比較することで、子どもの成長を実感することができます。

県北力（県北域内の輝く姿）



小学校の算数の授業を見学しました。昨年まで一緒に過ごしていた1年生の姿を見て学校へ行くのが楽しみになりました。

<幼保小の先生が協働していくために>

「保育参観、授業参観等、合同協議が行える場」の設定
→ 互いの教育の内容や方法についての相互理解が重要
<協議の視点の例>

- ① 幼児にどのような力が育ちつつあるかについて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手がかりに見取り考える。
- ② 育ちつつある姿が、小学校の教育のどのような場面につながるかを考える。
- ③ 園の先生や小学校の先生の子どもに対する関わりについて、大切にしていることを共有する。

子どもたちのために大人が立場の違いを超えて「自分事として連携・協働」していくことが大切ですね。



みんなで作る特別支援教育

〔目指す学校の姿〕

「個別の教育支援計画」等を活用することで、障がいのある子どもたちに切れ目のない支援ができる学校。

〔県北域内の学校の実態〕

特別支援学級における「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成率は100%である。通常学級での作成率も上がってきている。子どもの実態に応じて絶えず計画を見直し、子どもを支え、関係機関等とつながるツールとしての活用が求められる。



〔令和5年度の重点〕

「個別の教育支援計画」の活用の推進

～全ての子どもに安心した学びを～

1 全教職員による支援体制の充実

○ コーディネーターを中心とする支援体制

- ・ 管理職のリーダーシップのもと、特別支援教育コーディネーターを中心に、校（園）内委員会やケース会議等を実施して具体的な支援策を検討する。さらに、特別支援教育支援員を含めた教職員の間で役割分担を明確にして支援策を実践するとともに、定期的な評価や見直しを行う。

○ 校内研修の活性化

- ・ 特別支援教育に関する研修受講者による伝達講習や演習の実施、インターネットによる研修、外部講師を活用するなどして、障がい特性や必要な支援等を理解し、全教職員の特別支援教育に関する基礎的な資質・能力の向上を図る。

○ ユニバーサルデザインの視点を生かす指導

- ・ 「支援を必要とする子どもにとって分かりやすい授業は、全ての子どもにとっても分かりやすい授業である」ことを意識し、通常の学級においても落ち着いた教室環境の整備、学習目標・学習課題の設定、発問や板書の仕方など、具体的な指導の工夫を行う。
- ・ 支援を必要とする子どもの特性の理解と個別の支援、全ての子どもが互いの特性を理解し合い、助け合ってともに成長しようとする集団づくりをバランスよく行う。

○ 交流及び共同学習の推進

- ・ 障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に活動する機会を意図的に設定することで、社会性や豊かな人間性を育てる。その際、担任間の共通理解、校内の学習支援体制を整え、一人一人に必要な合理的配慮を提供し、双方の子どもにどのような教育効果があるのかを明確にした上で実施する。

2 インクルーシブ教育システムの推進

○ 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

- ・ 子ども一人一人の教育的ニーズを3つの観点（①障がいの状態等、②特別な指導内容、③教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容）を踏まえて整理し、自立と社会参加を見据え、その時点で最も適切な教育の提供に努める。
- ・ 子どもの障がいの状態や特性等を十分に考慮し、育成を目指す資質・能力を育むため、障がいの特性等に応じた指導上の配慮を充実するとともに、コンピュータ等の情報機器（ICT機器）の活用等を図る。
- ・ 発達障がいを含む多様な障がいに応じた指導を行うため、自立活動の充実に努める。

○ **合意形成の過程を大切にした「合理的配慮」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」**

- 子どもを支え、本人や保護者、学校、関係機関等とつなぐツールとしての活用を踏まえ、「個別の教育支援計画」を作成する。本人、保護者から必要な配慮の意思を丁寧に聴いたり、複数の教職員、関係機関（医療、保健、福祉等）と連携したりして、教育的ニーズを把握し、学校から必要な配慮を提案、建設的に話し合うことが大切である。どのような場面で考えられるのか、両者が合意した上で合理的配慮を提供する。
- 各教科等の年間指導計画や「個別の教育支援計画」の内容を踏まえ、子どもの「よいところ、できるところ」や特性を的確に把握し、自立活動や各教科等の指導目標や内容、支援方法を明確にした「個別の指導計画」を作成する。さらに実践・評価・改善を繰り返し、加筆、修正をして活用する。
- 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、資料P88～P89「特別な支援を必要とする子どもに関する進学時の引継について（例）」を参考に、入学・進級時に担任間、学校間等で確実に引継ぎ、切れ目なく支援が受けられるよう活用する。

○ **自立と社会参加に向けた教育の充実**

- 卒業後の視点を大切にしたカリキュラム・マネジメントを組織的・計画的に行う。
- 幼稚園・小学校・中学校段階から社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる態度・能力を身に付けることができるように、家庭や地域、関係機関等との連携を図りながら特別活動を要としたキャリア教育の充実に努める。

<参考文献等>

- ※ 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン（平成29年3月 文部科学省）
- ※ 障がいのある子供の教育支援の手引き～子供たちの一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月 文部科学省）

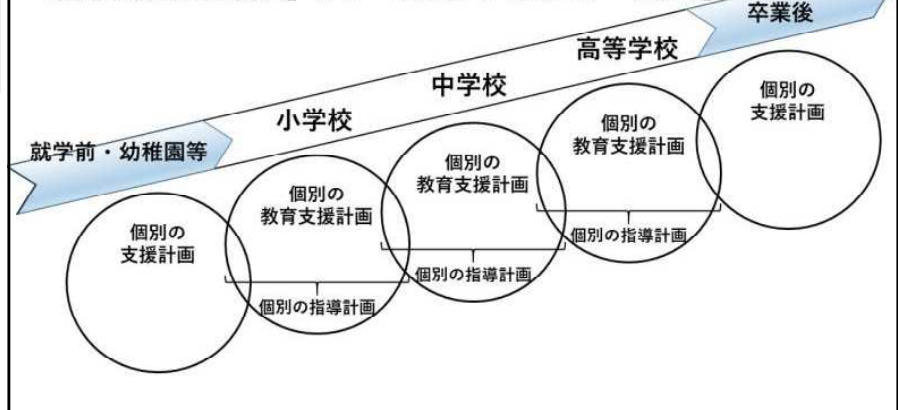
県北カ（県北域内の輝く姿）

子どもたちを支え、学校や関係機関等とつなぐツールとして本人や保護者と相談し、合意形成を図りながら作成することが大切です。



地域で共に学び、共に生きる教育の推進

「個別の教育支援計画」をツールとして「支える・つなぐ」



「個別の教育支援計画」の活用例

- 学校間引継（就学前「個別の支援計画」・相談支援ファイル⇒小学校）
- 進級時引継（担任⇒担任）
- 校内生徒指導委員会・職員会議
- 合理的配慮申請の根拠資料として（受験時）
- 専門家との情報共有（SC、SSW、医師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等）
- 関係機関との連携（療育機関、放課後等デイサービスなどの事業所、学童クラブ等）



作成プロセス例

- アンケート・面談
- 家庭訪問・教育相談
- 校内委員会での検討
- 本人・保護者との合意形成**
- 校内での共通理解
- 関係機関との情報共有
- 年度途中の見直し
- 年度末の見直し・引継

本人・保護者が関係機関等との連携で活用することも、切れ目のない支援の提供につながります。



支援をつなぐツールとして、本人・保護者も持っていて、活用することも大切なのです。



各教科等の指導の重点



子どもが見ている世界
教師が見ている世界
近づいてつくる時間

〈学級・授業づくりセミナー講師の言葉より〉

子どもたちが、自分の言葉で意見が言えるようにするためには、教師が子どもの考えをしっかりと最後まで聞くことが大事であると思った。子どもが、自分の考えや思いを言えるような授業の展開を考えていきたい。

子ども同士がつながっているのに、教師の一言で雰囲気が変わってしまうことがある。話し合い活動を充実させるためには、教師がどのタイミングで加わるかが大事であると思った。

道徳だけでなく、あらゆる教科でゆさぶることは大事です。「この授業のここ！」という場面でゆさぶり、問い返してできる授業に日々努めているところです。



戦略2

各教科等の指導の重点

(1) 令和4年度の要請訪問等を振り返って

県北教育事務所では、先生方と事務所をつなぐ架け橋として、「【県北版】学校教育指導の重点」を作成し、「『授業スタンダード』に基づく授業づくりの5つのポイント」を示しています。また、その実現のために参考としていただく具体的資料として、「これが私の『スタンダード』ー私の授業を支える言葉ー」や「教材研究のとびら」を作成しています。「県北授業レシピ」では、実際に見られた「深い学びにつながる授業のポイント」について具体的に紹介しています。(県北教育事務所HP参照)

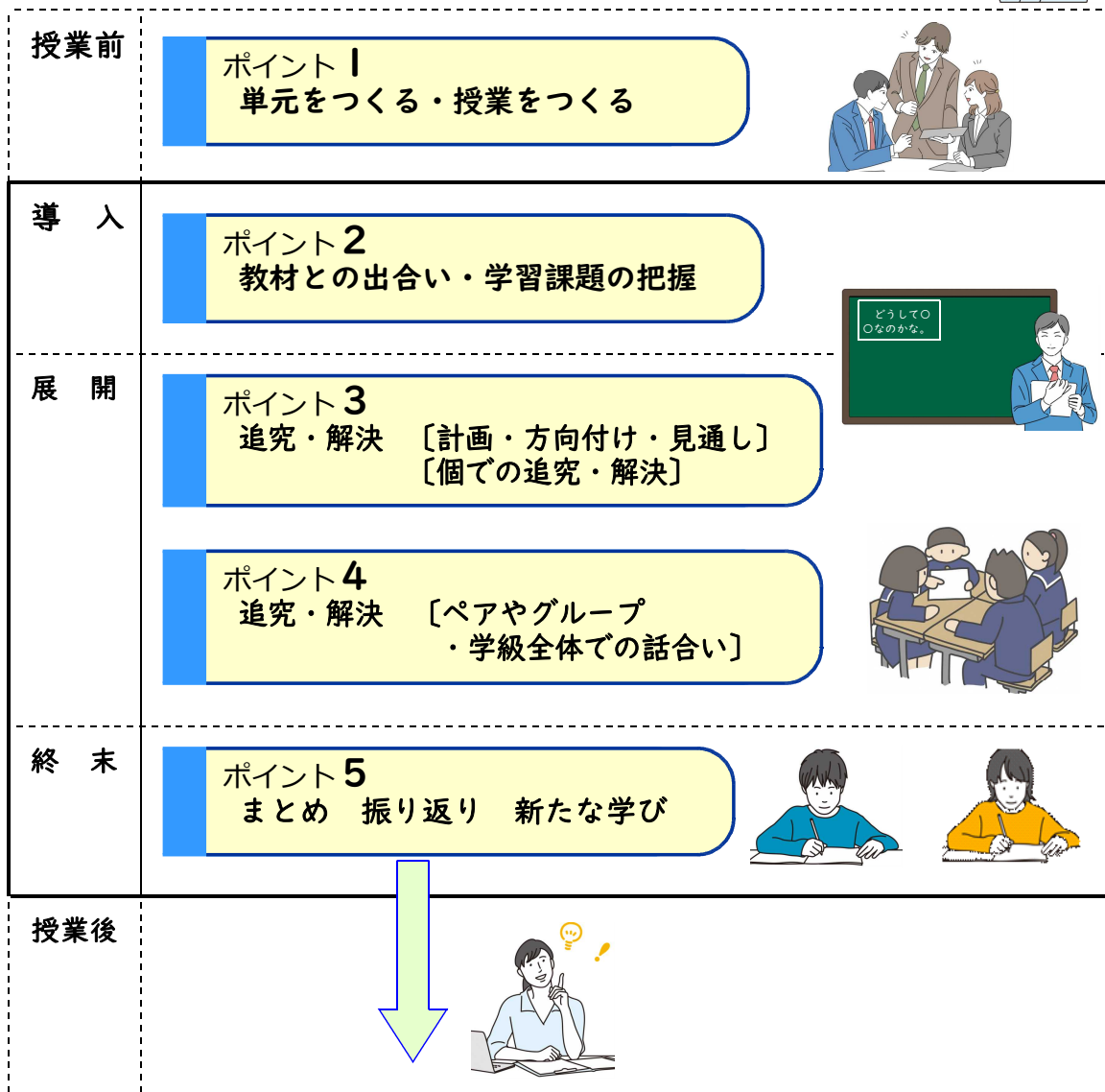
令和4年度の要請訪問等の際には、まとめ・振り返りにあたるポイント5に力を入れて指導・助言を行いました。ここでは、共通の指標である5つのポイントに照らして振り返り、成果と課題について以下のようにまとめました。

授業づくりのポイントごとの成果と課題を読んで、授業改善のヒントをつかんでいただき、日々の指導にさらに磨きをかけていただければ幸いです。



〔主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して〕

自身の授業を見つめた時、どのポイントが気になりますか？




ポイント1 単元をつくる・授業をつくる




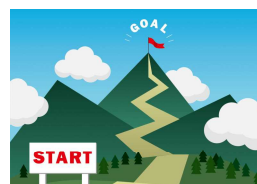
単元も授業もゴールから。
到達点を明確にしよう。

ゴールからの単元づくり

<input type="checkbox"/> 強み	単元のゴールの共有や振り返りの大切さについて、教師も子どもも意識を高めている学校が増えてきている。
<input type="checkbox"/> チェック! 	学習指導要領解説を基に、身に付けさせたい資質・能力を明確にした上で、単元のゴールにおける子どもの姿を具体的に描くことから始めたい。単元全体を見通した「各時間の位置付け」も、明確にしておく必要がある。

ゴールからの授業づくり

<input type="checkbox"/> 強み	単元全体を見通した本時の位置付けが明確で、ゴールにおける子どもの姿を具体的に描いている授業では、子どもが主体的に学ぶ姿が見られた。
<input type="checkbox"/> チェック! 	本時のねらいに沿ったまとめや振り返りの言葉などを事前に吟味し、本時ならではのゴールをより明確にしたい。




ポイント2 教材との出会い・学習課題の把握


ゴールにつながる問いを引き出す教材との出会い

<input type="checkbox"/> 強み	既習事項の想起、具体物や1人1台端末等による提示（映像、写真、絵図、アンケート結果等）により、子どもの気付きや問いを引き出す授業が見られた。さらに、本時のゴールにつながる問いを子どもとのやり取りの中で意図的に引き出すことを意識したい。
-----------------------------	---

ゴールを見据えた問いの焦点化と共有

<input type="checkbox"/> チェック! 	子どもの問いや思い・願いを引き出し、本時におけるゴールの姿につながるように、子どもとのやり取りの中で焦点を絞っていくようにする。さらに、絞られた問いを共有することで、「みんなの問い」にすることが大切である。
---	---

子どもとつくるゴールに向かう学習課題

<input type="checkbox"/> 強み	子どもの振り返りや、子どもから引き出した気付きや問いを基に、学習課題を設定する授業が増えてきている。
<input type="checkbox"/> チェック! 	教師から一方的に学習課題を提示するのではなく、「今日の学習課題はどうする？」等と子どもに投げかけ、「学ばせたいこと」と「学びたいこと」を擦り合わせたい。子どもの言葉を基に、教師と子どもと一緒に学習課題を設定する意識を大切にしたい。

子ども自身の問い
にすることが、大切
なんだね！





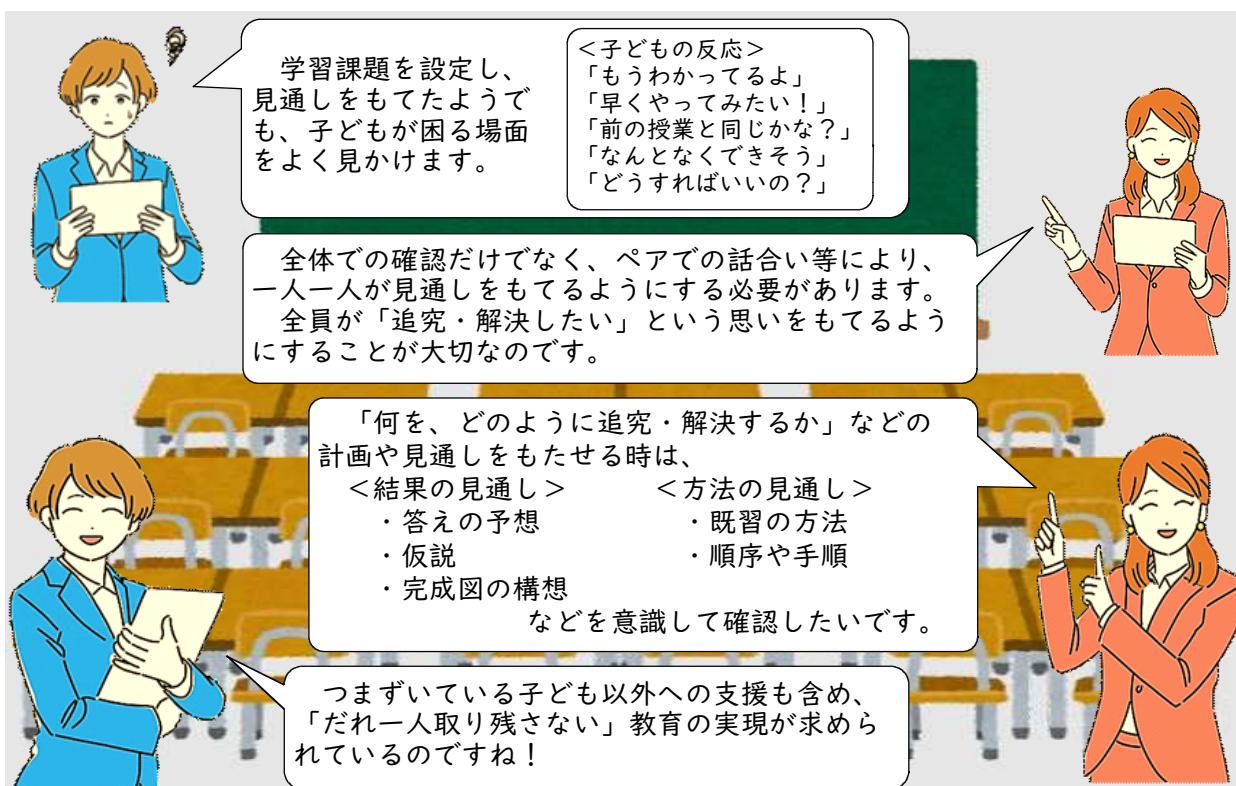
令和5年度 私の戦略（自分の思い・願い）



ポイント3
追究・解決

〔計画・方向付け・見通し〕
〔個での追究・解決〕

解決への見通しの共有	
□強み	既習事項や生活経験等を基に、「結果の見通し」と「方法の見通し」をもたせる場面を設定することで、解決への意欲を高めようとする授業が見られた。
□チェック! 	本時で働かせたい見方・考え方へつながる問い返しやゆさぶりにより焦点化を図るとともに、共有する場面を充実させることで、一人一人が「できそうだ」と思える解決への見通しを確実にもてるようにしたい。
個の考えのめたせ方	
□強み	自分の考えを書く時間を大切にした授業が多く見られた。短時間であっても近くの友達と交流することで、新たな気づきを得たり、自分の考えに自信をもったりする子どもの姿も見られた。交流の後には再度自分の考えを整理する時間を取ることが大切である。
視点を明確にした見取り	
□チェック! 	本時にこそ働かせたい見方・考え方が明確であると、ゴールにつながる見取りが可能になる。子どもの言葉や表情等、実際の子どもの姿を見取り、どう支援し、どう次につなげていくのかを具体的に教師がもっていたい。



学習課題を設定し、見通しをもてたようでも、子どもが困る場面をよく見かけます。

<子どもの反応>
 「もうわかってるよ」
 「早くやってみよう!」
 「前の授業と同じかな?」
 「なんとなくできそう」
 「どうすればいいの?」

全体での確認だけでなく、ペアでの話し合い等により、一人一人が見通しをもてるようにする必要があります。全員が「追究・解決したい」という思いをもてるようにすることが大切なのです。


「何を、どのように追究・解決するか」などの計画や見通しをもたせる時は、

<結果の見通し>	<方法の見通し>
・ 答えの予想	・ 既習の方法
・ 仮説	・ 順序や手順
・ 完成図の構想	

などを意識して確認したいです。



つまりいている子ども以外への支援も含め、「だれ一人取り残さない」教育の実現が求められているのですね!

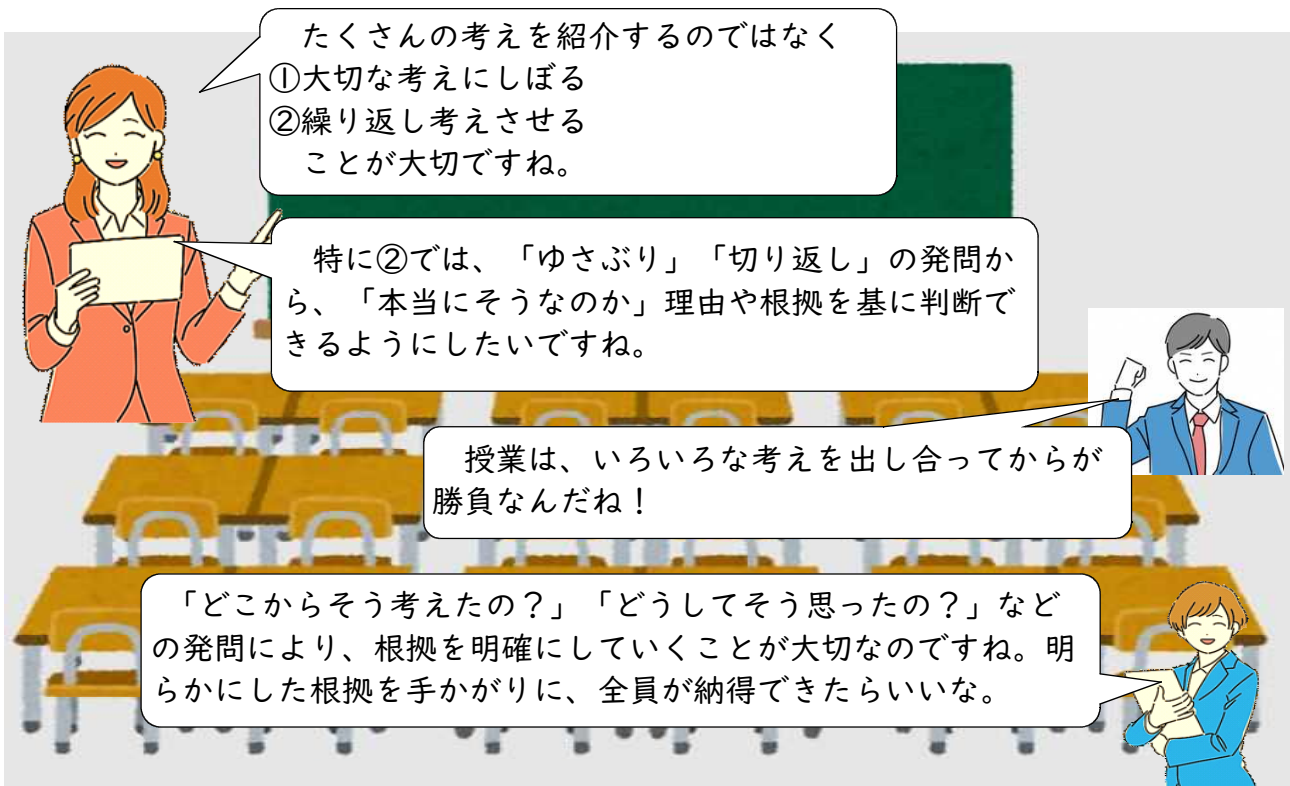
令和5年度 私の戦略（自分の思い・願い）




ポイント4

追究・解決 [ペアやグループ・学級全体での話し合い]

ICTを活用した思考の可視化と共有	
□強み	1人1台端末等を効果的に活用する授業が増え、考えの可視化や共有を図ることができている。また、自分の考えの変容に気付かせる等の使い方の工夫も見られた。さらに、教師の意図に応じて1人1台端末等とノートを使い分けている授業も多く見られた。
ゴールに向かう教師のコーディネート	
□強み	子どもの考えを見取り、意図的指名により共有を図る授業が多く見られた。子どもの考えを引き出し、言葉を拾ってつなぐ意識が高くなってきた。
□チェック! 	教師と子どもの1対1のやり取りが続く授業も見られる。子ども同士をつなぎ、子ども自身が思考、判断し、友達と共に解決へ向かう楽しさを感じることができるようにしたい。
根拠のある深い学びへ向かう話し合い	
□チェック! 	多様な考えを出し合って話し合いが終わってしまう授業も見られる。考えを深めるためには、「本時で働かせたい見方・考え方」につながるゆさぶりや切り返しの発問を準備しておくことが求められる。さらに、それらの発問を効果的に投げかけ、考えの根拠に着目させながら「本当にそうなのか」について、繰り返し考える場を設定することが大切である。







令和5年度 私の戦略 (自分の思い・願い)



ポイント5

まとめ 振り返り・新たな学び

<p>【まとめ】子どもの言葉によるまとめづくり</p>	
<p><input type="checkbox"/> 強み</p>	<p>学習課題（ねらい）や学習の流れ、見方・考え方に関わるキーワードが分かる構造的な板書をもとに、子どもの言葉をつなげてまとめをつくる授業が見られた。</p>
<p><input type="checkbox"/> チェック！ </p>	<p>「何を学習したか」という「まとめ」と、「どのように学習してきたか」という「わたし」が主語になる「振り返り」を分けて考え、それぞれの時間を確保する必要がある。</p>
<p>【振り返り】学びの自覚を促す確かな「振り返り」</p>	
<p><input type="checkbox"/> 強み</p>	<p>「振り返り」の視点を教師と子どもの「合い言葉」として全校で設定し（例：次頁参照）、小学校低学年から着実に取り組んでいる学校が見られた。また、継続することで、「振り返り」の質や子どもの追究意欲が高まり、学力向上につながっている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 強み</p>	<p>「振り返り」を共有することで、友達や自分の考えのよさに気付いたり、認められたりすることから、子どもが「振り返り」の時間を楽しみにしている授業が見られた。</p>
<p><input type="checkbox"/> チェック！ </p>	<p>子どもが学びを自覚したり、自己変容を感じ取ったりするために十分な「振り返り」の時間を確保したい。今後も、子ども自身の言葉で書くことができるように、子どもを信じ、任せ、粘り強く指導していきたい。</p>
<p><input type="checkbox"/> チェック！ </p>	<p>子どもに書かせたい、本時ならでの「振り返り」の言葉を教師が書き出し、ゴールにおける子どもの姿を具体的に想定しておきたい。授業では、実際に子どもの「振り返り」を価値付けることで、学びの自覚をいっそう促していきたい。</p>
<p>【新たな学び】学びの連続を自覚した自己マネジメント力の育成</p>	
<p><input type="checkbox"/> 強み</p>	<p>子どもの頑張りを認め、価値付けるために、一人一人の「振り返り」の言葉にコメントを入れ、次時の指導に生かしていこうとしている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 強み</p>	<p>「振り返り」の「こんなことをやってみたい」という願いや「これはどうなっているんだろう」という新たな問いを、次時以降の導入で取り上げ、学習課題を設定する授業が見られた。</p>
<p><input type="checkbox"/> チェック！ </p>	<p>「振り返り」を積み重ねることで、自分のよさを実感させ学び続ける態度を育てていきたい。また、「振り返り」を手がかりに、授業と授業、授業と家庭学習をつなぎ、子どもに学びの連続性を自覚させることで自己マネジメント力の向上を図りたい。</p>

まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもが本時で「何」を学んだか、学習した内容を整理し確認する。 ◇ 学習課題と正対する。 (学習課題とまとめの整合性を図る。)

振り返り
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもが本時で「どのように」学んだのか、学びの過程を見つめ直す。振り返ることで、学びを自分事とする。 ◇ 主語は、「わたし」「ぼく」になる。

これが私の「スタンダード」より抜粋
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/531068.pdf>



[図：振り返りの視点例]

な 何を学んだのか
し 知った、わかった、できた
とも 友達のいいなと思った
も もっと知りたい、思った感想

- ㉞ いいね! : 自分・友達の学びのよさ
- ㉟ わかった! : 問題解決のポイント
- ㊀ しりたい! : これからの自分



- ㉞ わかったこと・できるようになったこと
- ㉟ たのしかったこと
- ㊀ がんばったこと
- ㊁ したいこと(これからの学習や生活の中で)



振り返りのさしすせそ!

- ㉞ さすが、〇〇さん!
- ㊀ しまった! わかった!
- ㉟ すごい! ★★とはこういうこと。
- ㊁ せいりすると、こうなる。
- ㊂ そうだったのか、きづいた。

- ① わかったこと、できるようになったこと
- ② 自分でがんばったこと
- ③ 友達ががんばったこと
- ④ これからの学習や生活に生かしたいこと

振り返りの視点の頭文字から「合い言葉」を作っているんですね。



振り返る視点を①～④の中から選んだり、振り返りキーと名付けた振り返りの視点である「キー」を選んだり、まを絞って全校で振り返りを行っているんですね。



振り返りキー

ふり返りを書こう!

ふり返りはみんなの成長記録。今日の自分の「学び」を文で表してみよう。
 ふり返りには次のような「キー」があるよ。今日は、どの「キー」を使おうかな?

- みかたキー: 〇〇に目を付けると、～の見方で
- ひらめキー: …と比べて、まとめると…、…とつなげて
- なかまキー: 〇〇さんの意見を聞いて…、〇〇さんは…と考えたから
- のびたキー: 〇〇ができるようになりました。前と比べて…
- はてなキー: 〇〇にぎもんをもちました、わからないのは…
- みらいキー: これからは、～してみよう、次の時間は～をしたい

県北域内の学校で「合い言葉」を作っている学校や全校で取り組んでいる学校を見つけました!



令和5年度 私の戦略 (自分の思い・願い)

自分の学校(学級)で振り返りの「合い言葉」をつくってみませんか?



(2) 各教科等の指導の重点の見方

令和4年度の要請訪問等の振り返りから、見えてきた主な内容は以下のとおりです。

- ◆ 子どもが学びを自覚したり、自己変容を感じ取ったりするために十分な「振り返り」の時間を確保し、一層学びがいを感じさせたい。
- ◆ どの教科等の授業でも、子どもが単元のゴール、本時のゴールにたどり着くためには「根拠を明確にして書く」「根拠を説明する」「根拠を基に考察する」場を設定することが大切である。

そこで、本章では、ゴールの姿「**まとめ 振り返り・新たな学び**」(ポイント5)に焦点を当てました。

県の「指導の重点事項」「努力事項」も参照され、御活用いただきたいと思ひます。

【「授業スタンダード」に基づく授業づくりの5つのポイント】※□は令和5年度の重点ポイント

ポイント1	単元をつくる・授業をつくる
ポイント2	教材との出会い・学習課題の把握
ポイント3	追究・解決〈計画・方向付け・見通し〉〈個での追究・解決〉
ポイント4	追究・解決〈ペアやグループ・学級全体での話し合い〉
ポイント5	まとめ 振り返り・新たな学び

ポイント5の「まとめ」「振り返り」は、教師の腕の見せ所となる部分です。子どもたちに「学びがい」を感じさせられるように日々の授業づくり、授業実践を進めていきたいですね。



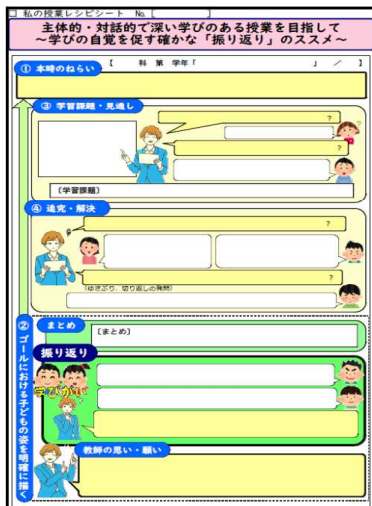
<左ページ：県の各教科の重点と努力事項>

教科	算数(小)
指導の重点事項	努力事項
1 数学的な見方・考え方を明確にして、指導計画や授業展開を考える。	(1) 単元の学習を通して、どのような数学的な見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、それらを活用したり確信して指導計画を作成する。 (2) 児童の実態と教材の価値を踏まえ、確かな児童理解・学習意欲を醸成する観点から、指導計画や授業展開を考へる。
2 問題発見・解決の過程で育成する資質・能力を明確にして、指導計画や授業展開を考へる。	(1) 「数学的な見方・考え方を働かせる方法」を工夫する。 (2) 資質・能力の育成により効果的な場合にICTを活用する。 (3) 現実の世界と数学の世界における問題発見・解決の過程を学習過程に位置付ける。また、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする。 (4) 数学的に表現し伝え合う活動においては、言葉、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を関連付け、より簡潔・明瞭・確かな表現に洗練する対話的な学びの充実を図る。また、説明を記述させる時間を確保し、資質・能力の育成を図る。
3 よさや可能性を見だし、伸ばす学習評価を工夫する。	(1) 育成したい資質・能力を児童の具体的な姿として明確にするなどして、ねらいに沿った評価方法を工夫する。 (2) 記録に残す評価の場面を精選するとともに、指導に生かす評価の場面を設定し、指導と評価の計画を工夫する。

幼・小・中学校のつながり、指導の系統性が見えるように、上下に併記しました。

福島県教育委員会発行「令和5年度 学校教育指導の重点」から小・中学校の各教科の「指導の重点事項」と「努力事項」を掲載しています。

教科	数学
指導の重点事項	努力事項
1 数学的な見方・考え方を明確にして、指導計画や授業展開を考へる。	(1) 単元全体を通して、どのような数学的な見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、それらを活用したりするのかを明確にして指導計画を作成する。 (2) 生徒の実態と教材の価値を踏まえ、確かな生徒理解・教材理解を基に、 数学的な見方・考え方を働かせる方法を工夫する。
2 問題発見・解決の過程で育成する資質・能力を明確にして、指導計画や授業展開を考へる。	(1) 「数学的な問題を見だし力」「問題解決のための構想・見通しを立て実践する力」「統合的・発展的に考察する力」「論理的に考察する力」「数学的に表現する力」「情報を活用する力」など、育成する資質・能力を明確にして指導計画を作成する。 (2) 資質・能力の育成により効果的な場合にICTを活用する。 (3) 現実の世界と数学の世界における 問題発見・解決の過程 を学習過程に位置付ける。また、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする。 (4) 数学的に表現し伝え合う活動においては、言葉、数、式、図、表、グラフなどの 数学的な表現 を関連付け、より簡潔・明瞭・確かな表現に洗練する対話的な学びの充実を図る。また、説明を記述させる時間を確保し、資質・能力の育成を図る。 (5) 学習の効果を高めるために、必要に応じて、 電卓やコンピュータ、情報ネットワークなどを適切に活用する 。特に、「D データの活用」領域において積極的な活用を図る。
3 よさや可能性を見だし、伸ばす学習評価を工夫する。	(1) 育成したい資質・能力を児童の具体的な姿として明確にするなどして、ねらいに沿った評価を行う。 (2) 記録に残す評価の場面を精選するとともに、指導に生かす評価の場面を設定し、指導と評価の計画を工夫する。



「私の授業レシピシート」

1時間の授業を構想するシートです。様々な場面で活用することができます。QRコードからお入りください。

〈活用例〉

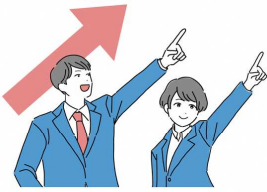
- ・授業づくり
- ・授業の振り返り
- ・授業参観の記録 等



必要に応じて御活用ください。

〔巻末に掲載〕

＜右ページ：学びの自覚を促す「振り返り」のある授業づくりの例＞



ゴールからの授業づくりを意識できるよう、流れに沿った授業づくりの例を示しました。

- ① 本時のねらい
- ② ゴールにおける子どもの姿
- ③ 学習課題・見通し
- ④ 追究・解決

特に②にポイント
を当てて作成してい
ます。



本時で「何を学ばせるのか」は学習指導要領で必ず確認します。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【数学科 中学校 第1学年「文字と式」】 15/18
1辺に●をいくつかさべ正方形を作ったときの●の総数を求める式をつくり、その方法の意味について説明することができる。

③ 学習課題・見通し ●は全部で何個でしょう。
(1)は1個、(2)は4個、(3)は9個、ちがった8個だ。
1辺の●がn個だったら●は全部で何個になるかな？
これまで学んだように文字式で表せばいいのかな？
【学習課題】 ●の総数はどんな式で求められるだろうか。

④ 追究・解決 ※自力解決の後、ペア等で交流し、全員で発表する。
1辺にn個並んでいるから $n \times 4 = 4n$ で4n個かな？ それだと2回数えているから4nが2倍あるよ。角の●も引かないといけいから $(4n - 4)$ 個になると思うよ。
図のように $(n-1)$ のまわりが4つできるから、 $4(n-1)$ 個になりました。
あれ？ Aさんと表し方が違ってるけどいいの？ (Bさん) $4(n-1)$ を計算すると $4n-4$ になるのかもしれない。
Bさんは $(2n+2)(n-2)$ 個と考えました。 Bさんの式を説明できる人はいませんか？ (Aさん) $2n+2 = 2(n+1)$ $(n-2)$ $= (n-2)$ 個ずつ●が並んでいるので、その合計を4にしているからいいと思います。
図のように正方形の横2辺にはn個ずつ、縦2辺には $(n-2)$ 個ずつ●が並んでいるので、その合計を4にしているからいいと思います。

まとめ ●のまわりの作り方によって $4n-4$ や $4(n-1)$ 、 $2n+2(n-2)$ などの式で表すことができます。

振り返り どんなまわりで式を作っても、正しい式ならば計算すると $4n-4$ になることがわかった。
中身の式を見ただけで、●をどう分けて総数を求めたのかを説明することができたのは、すごいと思った。
正方形だけでなく正三角形や正五角形など、他の形でもやってみよう。
他の形に並べると、どんな式になるのでしょうか。家庭学習で挑戦してみてください。次回、みんな発表しましょう。

教師の思い・願い 数学を学ぶ上で、数量関係の一般化や過程の表現といった文字式を用いて表現・処理することのよさを伝える。その後の学習にスムーズにつながる大事な単元である。文字式で表現した文字式を読み取ることを積極的に授業に取り入れていきたい。

POINT 1

「根拠に着目」

根拠を引き出すための、ゆさぶりや問い返しから「本当にそうなのか」を考える場を設定しています。

POINT 2

「まとめ」と「振り返り」

「まとめ」と「振り返り」には、それぞれねらいがあります。各教科等、本時の「まとめ」と「振り返り」がどのようになるか、具体的な言葉・姿として提示しました。

本時で目指すゴールの姿を想定しています。

「ゴールからの授業構想」

子どもの実態を受け、教師が本時1時間をかけて、どのような姿を目指していくのかを明確にもつことが大切です。
教師の「子ども（児童・生徒）観」「教材観」「指導観」が凝縮した形で書かれる重要な部分となります。



【振り返りの視点】(例)

- ・わかったこと、できるようになったこと
- ・自分でがんばったこと
- ・友達ががんばったこと
- ・これからの学習や生活で生かしたいこと

前時（前単元）、次時（次単元）とのつながりを含め、本時の位置付けをとらえ、構想を練ることが大切です。

めあてとまとめの整合性を図ります。

子どもにとって「学びがい」を感じる振り返り（こころごと）とが大切です。

本時で振り返らせたい言葉をイメージします。

教 科		国 語 (小)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1 育成すべき 資質・能力 を明確にした指導計画を作成する。		(1) 単元などを通して育成する資質・能力が、学習指導要領で定められた 指導事項と一致 していることを確認する。 (2) 「教科書の作品」を教える授業ではなく、「教科書の作品」で育成すべき 資質・能力を明確にした授業 の展開、指導計画を構想する。	
2 資質・能力を育成するための 言語活動 や 指導方法 を工夫・改善する。		(1) 言語活動を授業に取り入れることを目的とするのではなく、 資質・能力を育成する手段として、効果的な言語活動 を設定する。 (2) 言葉による見方・考え方 を働かせるために、言葉を投げどころにする言語活動を設定する。	
3 ねらいに沿った適切な 評価 を行い、指導に生かす。		(1) 指導と評価の一体化を図るために、授業で育成する資質・能力と 評価規準を一致 させる。 (2) 評価場面と評価方法 の検討を図り、ねらいに沿った適切な評価を行う。	

教 科		国 語 (中)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1 育成すべき 資質・能力 を明確にした指導計画を作成する。		(1) 単元などを通して育成する資質・能力が、学習指導要領で定められた 指導事項と一致 していることを確認する。 (2) 「教科書の作品」を教える授業ではなく、「教科書の作品」で育成すべき 資質・能力を明確にした授業 の展開、指導計画を構想する。	
2 資質・能力を育成するための 言語活動 や 指導方法 を工夫・改善する。		(1) 言語活動を授業に取り入れることを目的とするのではなく、 資質・能力を育成する手段として、効果的な言語活動 を設定する。 (2) 言葉による見方・考え方 を働かせるために、言葉を投げどころにする言語活動を設定する。	
3 ねらいに沿った適切な 評価 を行い、指導に生かす。		(1) 指導と評価の一体化を図るために、授業で育成する資質・能力と 評価規準を一致 させる。 (2) 評価場面と評価方法 の検討を図り、ねらいに沿った適切な評価を行う。	

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【 国語科 小学校 第3学年「すがたをかえる大豆」 5 / 15 】

説明文の「中」の部分の例示について、なぜこの順序で説明しているのかを考えて話し合うことにより、段落のつながりを意識し、考えを分かりやすく伝えるための工夫を見つけることができる。

③ 学習課題・見通し



今日は「すがたをかえる大豆」の「中」の部分を読みます。筆者は、どんな順序に例を並べて説明していますか？

読み手に考えが伝わるように、筆者は例の並べ方を工夫していますよ。

どうしてこの順序なのかな？

知りたい！知りたい！

【学習課題】 筆者はどうしてこの順序で説明しているのかな。

前に勉強した説明文では「簡単な順」に並んでいました。あれ？今回は違うみたい。

納豆とか、とうふとか、みんなが知っている食べ物の順番でもないみたいだよ。

④ 追究・解決

※ 自力解決と交流の後、全体で共有して練り上げる。



筆者は、どんな順序で例を挙げていたかな。

分かりやすい順です。

いちばん分かりやすい豆まきの豆と煮豆が最初。次に…？

次にきなこ。とうふ、納豆、みそやしょうゆ。そのあと、枝豆ともやし。

本当にこの順序でないとだめかな？先生は違う順序でもいいと思うなあ。(ゆさぶり)

「いちばん」とか、「次に」とか、「また」とか書いているからだめです。

段落の初めに順番を表す言葉があるから、この順序でないと変です。「さらに」や「これらの他に」が最初だったらおかしいと思います。

「いちばん分かりやすいのは」「次に」「まず」「さらに」「これらの他に」があるから、おいしくする工夫の順序が分かるね。

あっ！作り方が簡単なものから、だんだん難しくなっている！ Aさん

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

簡単なものから難しいものの順に並べると、読み手が分かりやすいので、この順序で説明している。

振り返り

つなぎ言葉を使うと段落と段落の順序が分かりやすかったです。



簡単なものから難しいものの順に並べると分かりやすいです。説明文を書く時に、私もこの方法を使いたいと思いました。

Aさんが「だんだん難しくなっている！」と言ったのを聞いて、ぼくも並べ方の工夫に気付くことができましたのでよかったです。



読み手に考えを伝えるために筆者がしている工夫を見つけられましたね。「つなぎ言葉」を使うと、段落と段落がどんな関係で並んでいるか分かりやすいです。みんなも、例の並べ方に注意して、説明文を書けるといいですね。

教師の思い・願い



既習事項と照らして学習課題を見つけ、学級みんなの問いにすることで、子どもが自ら課題の解決に向かえるようにしたい。説明文全体を俯瞰して読んだり、段落相互の関係を捉えて読んだりしながら話し合うことで、「例を挙げる順序」や「順序が分かりやすいように接続語を使う」等、筆者の説明の仕方の工夫に気付かせたい。そして、単元後半に子どもが「食べ物のひみつ教えます」の説明文を書く時に生かせるようにしたい。

教 科	社 会 (小)
指導の重点事項	努 力 事 項
1 資質・能力の育成に向けて、適切な指導計画を作成する。	(1) 単元 など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む 資質・能力 の育成に向けて、 児童の主体的・対話的で深い学び の実現に向けた授業改善を進める。 (2) 各学年の目標や内容を踏まえて、事例の取り上げ方を工夫して、 内容の配列や授業時数の配分 などに留意して効果的な年間指導計画を作成する。 (3) 47都道府県、世界の大陸と主な海洋 の名称と位置について、地図帳や地球儀を使って確認するなどして、小学校卒業までに身に付け活用できるように工夫して指導する。
2 社会的な 見方・考え方を働かせ 、課題を追究したり解決したりする活動や、具体的な体験を伴う学習を推進する。	(1) 地域の実態 を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。 (2) 観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む 具体的な体験を伴う学習 やそれに基づく表現活動の一層の充実を図る。 (3) 多角的に考えたことや選択・判断したことを説明したり議論したりするなど 言語活動 の一層の充実を図る。 (4) 学校図書館や公立図書館、ICT端末、地図帳、地球儀 などの学習環境や教材・教具を活用するように配慮する。 (5) 多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、 有益適切な教材 に基づいて指導する。
3 児童のよさや可能性を伸ばす評価を充実する。	(1) 単元ごとに単元構成や学習過程に沿った 具体的な評価規準 を作成する。 (2) 指導と評価の計画においては、 評価場面を精選 するとともに、評価したことを「 指導に生かす 」場面と「 記録に残す 」場面を明確にする。 (3) 児童の学習状況を把握して指導に生かすために、評価規準に照らして「どのような評価資料から、どのような具体的な姿を捉えるのか」という 評価方法を明確 にする。

教 科	社 会 (中)
指導の重点事項	努 力 事 項
1 資質・能力の育成に向けて、各分野間の関連を図り、適切な指導計画を作成する。	(1) 単元 など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む 資質・能力 の育成に向けて、生徒の 主体的・対話的で深い学び の実現に向けた授業改善を進める。 (2) 小学校社会科の内容との関連 を図るとともに、 各分野相互の関連 を図り、第1学年から第3学年までを見通した指導計画を作成し、全体として教科の目標が達成できるようにする。
2 社会的な 見方・考え方を働かせ 、課題を追究したり解決したりする活動や、作業的で具体的な体験を伴う学習を推進する。	(1) 社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの 言語活動 に関わる学習を一層重視する。 (2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、 学校図書館や地域の公共施設 などを活用するとともに、 ICT端末等 の情報手段を積極的に活用する。 (3) 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、 作業的で具体的な体験を伴う学習 の充実を図る。 (4) 多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、 有益適切な教材 に基づいて指導する。
3 生徒のよさや可能性を積極的に見だし、それらを伸ばす評価を充実する。	(1) 単元や単位時間の評価規準 を明確にし、目標・指導・評価の一体化を図った授業づくりに努め、 目標に準拠した評価の趣旨 が生かされるようにする。 (2) 生徒の学習状況を的確に把握するために、適切な 評価場面を設定 するとともに思考力等を問うペーパーテストなどの 評価方法を工夫、改善 する。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【社会科 中学校 第2学年「日本の諸地域 九州地方」3/5】

火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして行われている九州地方の農業の特色について説明することができる。

③ 学習課題・見通し

資料からどんなことに気が付きますか。

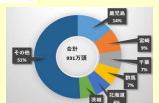
九州の米の生産量(%)

福岡	145,200
佐賀	104,200
長崎	46,800
熊本	156,500
大分	81,400
宮崎	76,000
鹿児島	88,400
沖縄	2,090

九州の土地利用分布



豚の飼育頭数



九州の中でも米の生産量に違いがあるようです。福岡県、熊本県が多いです。



土地利用の分布を見ると北部は水田、南部は畑が多いです。なぜかな？



畜産は鹿児島県と宮崎県が上位を占めています。



鹿児島と宮崎ではなぜ畜産が盛んなのかな？

【学習課題】九州の北部と南部では、どうして農業の特色が異なるのだろうか。

④ 追究・解決

農作物を育てるにはどんな条件がそろっていればいいですか？



暖かいと作物がよく育つと思います。



広い土地が必要だと思います。



暖かくて広いと、どんな作物でも育つのかな？(ゆさぶり)

南部も暖かくて広い土地があると思うけど、なぜ北部のように水田ではなく畑が多いのかな？



前の時間に鹿児島の火山について勉強したけれど何か関係があるのかな。火山灰が農業に影響しているのかもしれない。



※この後、九州南部の農業に着目して追究活動を行う。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

【まとめ】北部は筑紫平野を生かせるので米や小麦をつくることができる。南部は農業に適さないシラス台地が広がっていたので、かんがい設備を整備して茶の栽培や畜産ができるようになった。

振り返り



火山灰が積もったシラス台地を農地に変えたことがすごいと思いました。



九州は気候や土地の違いに合わせて工夫して農業をしていました。自分が住んでいる地域にはどんな特色があるのか調べてみたいです。



農業のどこに着目するかで調べる資料を選びました。他の班の発表は自分たちが使わなかった資料を基にしていたので参考になりました。



温暖な中国・四国地方でも同じような農業が行われているのでしょうか。



教師の思い・願い



本単元は「日本の諸地域」の最初に取り扱うことが多い。したがって本時では農業を捉える基礎として気候や地形が影響を与えていることを押さえたい。具体的には九州では温暖な気候を利用していること、人々の努力により農業が盛んになったこと(シラス台地をかんがい設備等で克服したことなど)を資料を根拠としながら説明できるようにしたい。

教 科		算 数 (小)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1 数学的な見方・考え方を明確にして、指導計画や授業展開を考える。	2 問題発見・解決の過程で育成する資質・能力を明確にして、指導計画や授業展開を考える。	(1) 単元の学習を通して、 どのような数学的な見方・考え方を働かせながら 、知識及び技能を習得したり、それらを活用したりするのかを明確にして指導計画を作成する。	
		(2) 児童の実態と教材の価値を踏まえ、確かな児童理解・教材理解を基に、 数学的な見方・考え方を働かせる方法を工夫する 。	
		(1) 「数学的な問題を見いだす力」「問題解決のための構想・見通しを立てて実践する力」「統合的・発展的に考察する力」「論理的に考察する力」「数学的に表現する力」「情報を活用する力」など、 育成する資質・能力を明確にして指導計画を作成する 。	
3 よさや可能性を見だし、伸ばす学習評価を工夫する。		(2) 資質・能力の育成のため、より効果的な場合に I C T を活用する。	
		(3) 数学的に表現し伝え合う活動においては、言葉、数、式、図、表、グラフなどの 数学的な表現を関連付け、より簡潔・明瞭・的確な表現に洗練する 対話的な学びの充実を図る。また、 発達段階に応じて説明を記述 させ、資質・能力の育成を図る。	
		(4) 問題解決の過程の振り返り や統合的・発展的考察を重視する。	
		(1) 育成したい資質・能力を児童の具体的な姿として明確にするなどして、 ねらいに沿った評価方法を工夫する 。	
		(2) 記録に残す評価 の場面を精選するとともに、 指導に生かす評価 の場面を設定し、 指導と評価の計画 を工夫する。	

教 科		数 学 (中)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1 数学的な見方・考え方を明確にして、指導計画や授業展開を考える。	2 問題発見・解決の過程で育成する資質・能力を明確にして、指導計画や授業展開を考える。	(1) 単元全体を通して、 どのような数学的な見方・考え方を働かせながら 、知識及び技能を習得したり、それらを活用したりするのかを明確にして指導計画を作成する。	
		(2) 生徒の実態と教材の価値を踏まえ、確かな生徒理解・教材理解を基に、 数学的な見方・考え方を働かせる方法を工夫する 。	
		(1) 「数学的な問題を見いだす力」「問題解決のための構想・見通しを立てて実践する力」「統合的・発展的に考察する力」「論理的に考察する力」「数学的に表現する力」「情報を活用する力」など、 育成する資質・能力を明確にして指導計画を作成する 。	
3 よさや可能性を見だし、伸ばす学習評価を工夫する。		(2) 資質・能力の育成により効果的な場合に I C T を活用する。	
		(3) 現実の世界と数学の世界における 問題発見・解決の過程 を学習過程に位置付ける。また、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする。	
		(4) 数学的に表現し伝え合う活動においては、言葉、数、式、図、表、グラフなどの 数学的な表現を関連付け、より簡潔・明瞭・的確な表現に洗練する 対話的な学びの充実を図る。また、説明を記述させる時間を確保し、資質・能力の育成を図る。	
		(5) 学習の効果を高めるために、必要に応じ、 電卓やコンピュータ、情報ネットワークなどを適切に活用 する。特に、「D データの活用」領域において積極的な活用を図る。	
		(1) 育成したい資質・能力を生徒の具体的な姿として明確にするなどして、 ねらいに沿った評価を行う 。	
		(2) 記録に残す評価 の場面を精選するとともに、 指導に生かす評価 の場面を設定し、 指導と評価の計画 を工夫する。	

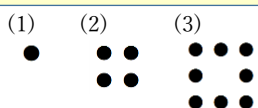
主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【数学科 中学校 第1学年「文字と式」 15/18】

1辺に●をいくつか並べ正方形を作ったときの●の総数を求める式をつくり、その式の意味について説明することができる。

③ 学習課題・見通し



1辺 n 個ずつ●を正方形に並べる。●は全部で何個必要？

●は全部で何個でしょう。

(1) は1個、(2) は4個。
(3) は9? ちがった8個だ。

1辺の●が n 個だったら●は全部で何個になるかな?

これまで学んだように文字式で表せばいいのかな?

【学習課題】 ●の総数はどんな式で求められるだろうか。

④ 追究・解決

※自力解決の後、ペア等で交流し、全体で共有する。

1辺に n 個並んでいるから $n \times 4 = 4n$ で $4n$ 個かな?

それだと2回数えている場所が4カ所あるよ。角の重なりを引かないといけないから $(4n - 4)$ 個になると思うよ。

図のように $(n - 1)$ のまとまりが4つできるので、 $4(n - 1)$ 個になりました。

あれ? Aさんと表し方が違っていいの? (ゆさぶり)

$4(n - 1)$ を計算すると $4n - 4$ になるのでいいと思います。

Bさんは $\{2n + 2(n - 2)\}$ 個と考えました。Bさんの式を説明できる人はいますか? (予想、要約)

$2n + 2(n - 2)$ はどうかな?

図のように正方形の横2本には n 個ずつ、縦2本には $(n - 2)$ 個ずつ●が並んでいるので、その合計を式にしていると思います。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

【まとめ】 ●のまとまりの作り方によって $4n - 4$ や $4(n - 1)$ 、 $2n + 2(n - 2)$ などの式で表すことができる。

振り返り



どんなまとまりで式を作っても、正しく作った式ならば計算すると $4n - 4$ になることがわかった。

文字式を見ただけで、●をどう分けて総数を求めたのか説明することができたのは、すごいと思った。

正方形だけでなく正三角形や正五角形など、他の形でもやってみよう。

他の形に並べると、どんな式になるのでしょうかね。家庭学習で考えてきてください。次回、みんなで解き合ってみましょう。

教師の思い・願い

数学を学ぶ上で、数量関係の一般化や思考過程の表現といった文字式を用いて表現・処理することのよさを感じさせる大事な単元である。その後の学習にスムーズにつなげるためにも、文字式で表すことや文字式を読み取ることを積極的に授業に取り入れていきたい。

教科	理科 (小)
指導の重点事項	努力事項
<p>1 科学的に解決する学習活動を重視した指導計画を工夫する。</p> <p>2 理科の資質・能力を育成する指導法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 児童一人一人の状況を見取り、積極的に支援していくための評価を工夫する。</p>	<p>(1) 日常生活や他教科等との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させたり理科への関心を高めたりすることができるよう地域の実態に応じて単元を構想するなど工夫を行う。</p> <p>(2) 地域の実情に応じた自然の事物・現象を教材化するなど直接体験や科学的に問題解決する学習活動の充実を図ることで、児童が主体的に学習できるように指導計画を工夫する。</p> <p>(3) 基礎的な観察、実験の技能を習得するための時間を確保する。</p> <p>(4) 気象、大地、自然と人間などに関する指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解と判断力の育成が図られるよう留意する。</p> <p>(1) 単元の内容や時間のまとまりの中で育む資質・能力を明らかにして、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。その際、児童がどのような「見方・考え方」を働かせているかを見取り、価値付けることにより、児童の「見方・考え方」が豊かになるよう努める。</p> <p>(2) 児童一人一人が問題を見だし、自分事として捉え、根拠のある予想を基に、解決するための方法を発想し、見通しをもちながら観察、実験を行う。観察、実験の結果を分析・解釈する時間を十分に確保し、合意形成を図りながら結論を導き出すことを通して、問題解決の過程が充実するよう努める。</p> <p>(1) 問題解決の過程において、特徴的な児童を対象に学習状況を確認し、その状況に応じた支援や手立てを行い、指導の改善を図る。</p> <p>(2) 児童全員の観点別の学習状況を記録に残す場面を選定し、児童一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価する。</p>

教科	理科 (中)
指導の重点事項	努力事項
<p>1 科学的に探究する学習活動を重視した指導計画を工夫する。</p> <p>2 理科で目指す資質・能力を育成する指導法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 よさや可能性を積極的に見だし、伸ばす評価を工夫する。</p>	<p>(1) 小・中・高等学校の学習内容の系統性を踏まえるとともに、各学年で扱う内容に関して十分な検討を行い、3年間を見通した綿密な指導計画となるよう工夫する。</p> <p>(2) 日常生活や他教科等との関連を図り、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させたり理科への関心を高めたりすることができるよう工夫する。</p> <p>(3) 生徒や地域の実態を踏まえ、観察、実験などの直接体験や科学的に探究する学習活動の時間を十分に確保できるように工夫する。</p> <p>(4) 放射線やエネルギー資源、自然災害について科学的に理解できるよう、放射線教育や防災教育との関連を指導計画等に明記する。</p> <p>(1) 単元の内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。その際、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなど、科学的に探究する学習活動が充実するよう工夫する。</p> <p>(2) 生徒一人一人が問題を見だし、解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈しながら課題解決が進められるよう学習活動を工夫する。</p> <p>(3) 学習の見通しを立てる活動や学習したことを振り返る活動は、探究の過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程でも行えるよう工夫する。</p> <p>(1) 科学的に探究する学習過程において、生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める。</p> <p>(2) 観点の趣旨を踏まえ、学習状況を的確に把握するための評価方法を明確にし、適切な評価を行い指導の改善を図る。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【理科 小学校 第3学年「音を出して調べよう」 2 / 5】

楽器を鳴らす活動を通して、音が出る時に物が震えていることを理解することができる。

③ 学習課題・見通し



前回の授業でどんなことに気が付きましたか？

他の物でも調べてみたいです！

音楽室なら音が出る物がたくさんあるので、音楽室で確かめたいです！

では、音楽室で確かめてみましょう！

【学習課題】音が出る時に、物は震えているのだろうか？



紙笛の紙が震えていました。紙に触れている唇や指で感じました。



輪ゴムギターの輪ゴムがぶるぶると震えていました。

音と物の震えは関係があるのかな？

④ 追究・解決

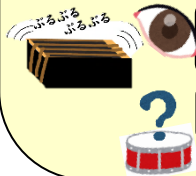
※音楽室での実験後



楽器を鳴らした時に、楽器は震えていましたか？

小太鼓も震えていたよ。

小太鼓について2人の結果が違いますね。小太鼓が震えているかどうかを確かめるにはどうしたらよいのでしょうか？（ゆさぶり・根拠）



輪ゴムギターのように、目で震えていることが分かればよいと思います。でも、小太鼓の震えはよく見えませんでした。

小太鼓の上に何かを置いたら震えが見えると思います。

※この後、小太鼓の上にビーズなどを置いて震えを確認する。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

【まとめ】音が出る時に、物は震えている。

振り返り



たくさんの楽器で確かめたから、音が出る時に物が震えているということがよく分かりました。

震え方が小さい物はビーズ等を使えば震えを目で確かめられることが分かりました。

音が大きい時は震えが大きくて、音が小さい時は震えが小さく感じました。

新たな気付きがありましたね。次の授業では、音の大小と震え方の関係について調べてみましょう。

教師の思い・願い



前時で紙笛や輪ゴムギターを鳴らして気付いたことを基に授業を展開したい。特に、本時では音が出る時には物が震えていることに注目させたい。複数の道具を使って比較していくことで、音が出る時には物が震えているということを実感させたい。その際、音が出る物として音楽室の楽器を使うことで、子どもが主体的に学びに向かえるようにしたい。

教 科	幼 児 教 育
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 幼児が環境に主体的に関わり、発達の時期にふさわしい生活が展開できるような指導計画の作成と改善</p> <p>2 幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びの実現と幼児理解に基づく援助と環境の再構成</p> <p>3 幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の実施</p>	<p>(1) 園の実態や幼児一人一人の発達の実情を踏まえ、長期的・短期的に見通しをもった特色ある指導計画を作成する。</p> <p>(2) 幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図る。</p> <p>(1) 幼児の発達の実情や興味・関心等を踏まえながら、幼児が人やものとの関わりを通して、多様な体験ができるように教材を工夫するとともに、幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成する。</p> <p>(2) 幼児が身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤したり、考えたりする過程を受け止め、幼児同士の関わりが深まるよう援助する。</p> <p>(3) 特別な配慮を必要とする幼児への指導に当たっては、教職員の共通理解の下に、関係機関との連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画等を作成し、活用することに努める。</p> <p>(1) 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性を把握し、指導の改善に生かすようにする。</p> <p>(2) 評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫し、組織的・計画的に行うようにする。</p>

教 科	生 活 (小)
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 児童の思いや願いの実現に向け、意欲や主体性を高めることができるような2年間を見通した指導計画を作成・改善する。</p> <p>2 児童が対象とのやりとりを通して、満足感、成就感、自信、やり甲斐、一体感などを感じ取ることができるような学習の展開を工夫する。</p> <p>3 児童一人一人の思いや願いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。</p>	<p>(1) 幼児期の教育との接続の観点から、幼児との交流や他教科等との関連について、カリキュラム・マネジメントの視点から検討し、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を行う。</p> <p>(2) 学校や地域の実態を生かし、児童が主体的に継続して活動を繰り返すことができるような指導計画を作成する。</p> <p>(3) 時間の保障、空間的な視点、心理的な余裕を大切にし、一人一人がじっくりと活動できるような指導計画を工夫する。</p> <p>(1) 学習の対象との情緒的な関わりを重視するとともに、気付きの質を高め、次の活動へつなげる学習指導を工夫する。</p> <p>(2) 児童の思いや願いを実現し、充実感、達成感、自己有能感、一体感などを感じ取ることができる学習活動を工夫する。</p> <p>(3) 活動を通して獲得した情報を交換し交流する場面、自ら判断し自己決定する場面を位置付けていく。</p> <p>(1) 児童の活動の様子などから、一人一人の内面、活動や体験の広がりや深まり及びその中での気付きなどの進歩の状況を把握し、次の指導に生かせるように工夫する。</p> <p>(2) 児童を多様な方法で多面的、総合的に見取り、一人一人のよさや可能性を把握することに努める。</p> <p>(3) 児童の発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して児童の「思考」を捉える評価に努める。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【生活科 第1学年「たのしいあきいっぱい」 10/21】

秋の自然と関わったことを振り返り、季節の変化や季節の特徴を感じ、気付いたことを伝えることができる。

③ 学習課題・見通し

前の時間、秋を探しに公園に行きました。夏とはどんなところが変わっていましたか？

触ってみたら、夏の草に比べて秋の草はカサカサした感じのものが多かったです。

葉っぱの色が緑から黄色になっていました。

そういえば夏はセミが鳴いていたけれど、この前は鳴いていませんでした。

自分が見つけた楽しい秋を友達におすすめしてみよう。

【学習課題】私の「秋のとおきのおすすめ」は何か？

④ 追究・解決

友達におすすめしたいのは秋のどんなところかな？

ぼくは虫です。

わたしは落ち葉がたくさんあったところです。

ぼくはどんぐりと松ぼっくりです。

どうして「虫」や「どんぐり」、「落ち葉」がおすすめになるのかな？
(問い返し・根拠)

コオロギは黒くて葉っぱの下に隠れていて忍者みたいでした。

葉っぱは赤や黄色など色がついてきれいでした。形も丸やギザギザなどいろいろあっておもしろかったです。

どんぐりはいろいろな大きさや形がありました。固いのでコマみたいにまわして遊ぶことができました。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ



わたしの秋のおすすめは、きれいな色の葉っぱです。ギザギザや丸などいろいろなかわいい形があるからです。



ぼくの秋のおすすめは虫です。葉っぱの下などにいて、見つからないところに隠れているところが格好いいからです。



振り返り



おすすめが決まらなくて困っていたとき、一緒に虫を捕まえた〇〇くんが声をかけてくれてうれしかったです。公園で謎の黒い虫を捕まえたので教室で飼いたいです。



幼稚園のとき落ち葉プールで遊んだらふかふかしてとても楽しかったです。みんなでたくさん葉っぱを集めて僕たちのプールをつくってみたいです。

葉っぱや虫などいろいろな秋を見つけることができましたね。友達におすすめの理由をつけてお話することができました。謎の黒い虫の正体は何か？次の時間は「とおきの秋のおすすめ発表会」の準備をします。みんなはどんな方法で発表したいですか。夏はどんな方法で発表したかな？

教師の思い・願い



公園で活動したときの写真や動画を示したり、落ち葉やどんぐりなど実物を提示したりすることで、子どもたちに公園で感じた秋を思い出させ、追究活動を行わせたい。※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の中の「自然との関わり・生命尊重」とのつながりを意識したい。「あれっ」「そういえば」など子どもの気付きを共有し、教師がコーディネートすることで「確かに」「なるほど」など気付きの質を高めていきたい。 ※ P 81 参照

教 科		音 楽 (小)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1	音楽活動の基礎的な能力を培えるよう、指導計画を改善する。	(1)	小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、各領域及び各分野が バランスよく配置された年間指導計画 を作成する。
		(2)	題材で育みたい資質・能力を明確にし、表現活動（歌唱・器楽・音楽づくり）と鑑賞活動の関連を図る。
2	児童が音楽活動を楽しみ、自ら進んで学習に取り組むような指導方法を工夫する。	(1)	題材の目標に照らし、学習内容を厳選するとともに、楽曲分析を通して 魅力ある教材 を提示し、指導の充実を図る。
		(2)	児童の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、児童の協働的な学習を促し、 音や音楽及び言葉によるコミュニケーション を図る指導を充実させる。
		(3)	我が国や郷土の音楽に対して、児童の興味・関心を高めるために、 和楽器に親しむなどの体験を含めた学習活動 を充実させる。
		(4)	I C Tについては、音楽をつくったり、可視化したりするなど場面に応じて効果的に使用するとともに、自分で演奏したり本物の演奏を聴いたりすることと組み合わせながら活用する。
		(5)	鑑賞は、楽曲全体を味わって聴くことができるように工夫する。
3	児童と音楽との関わりを深め、児童一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	(1)	学校や児童の実態等に応じて、評価の観点をもとに 題材の評価規準及び指導と評価の計画 を作成し、多面的に学習状況を把握する。
		(2)	音楽表現や鑑賞の学習過程において児童一人一人のよい点や成長の状況などを 積極的に評価し、指導改善に生かす 。

教 科		音 楽 (中)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1	音楽活動の基礎的な能力の育成を図るために、指導計画を改善する。	(1)	小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、各領域及び各分野が バランスよく配置された年間指導計画 を作成する。
		(2)	題材で育みたい資質・能力を明確にし、表現活動（歌唱、器楽、創作）と鑑賞活動との関連を図る。
2	生徒が音楽活動の喜びを味わい、主体的・創造的に学習に取り組むような指導方法を工夫する。	(1)	題材の目標に照らし、学習内容を厳選するとともに、楽曲分析を通して 魅力ある教材 を提示し、指導の充実を図る。
		(2)	生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、生徒の協働的な学習を促し、 音や音楽及び言葉によるコミュニケーション を図る指導を充実させる。
		(3)	生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、 音楽の多様性を理解 することができるような指導を工夫する。
		(4)	I C Tについては、演奏や創作、鑑賞など効果的な場面を考えて使用するとともに、実際に演奏する活動や本物の演奏を聴くなど、組み合わせながら活用する。
3	生徒と音楽との関わりを深め、生徒一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	(1)	各題材の目標に対応させて、観点ごとにその実現を確認できる 評価規準及び指導と評価の計画 を作成し、生徒の資質や能力を 多面的に把握 できるように工夫し、活用する。
		(2)	生徒が思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を意識し、その過程において生徒一人一人のよい点や成長の状況などを 積極的に評価し、指導改善に生かす 。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【音楽科 小学校 第2学年「ひょうしをかんじてリズムをうとう おまつりの音楽をつくらう」3/4】

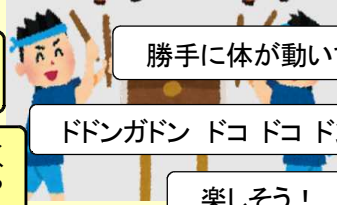
リズムカードの組み合わせを工夫して、反復を生かしたリズムを取り入れたお祭りの音楽をつくることができる。

③ 学習課題・見通し



前の時間にいろいろな太鼓を聴いてどうだった？

みんなお祭りの音楽をつくらってみたいと思いませんか？



勝手に体が動いて楽しかったです。

ドンドコ ドコ ドンって感じだよな！

楽しそう！ やってみたい！

【学習課題】 楽しくなる太鼓のリズムをつくりたいな。

④ 追究・解決

先生も太鼓のリズムを2つ、つくってみたんだけどみんなどう思う？

1回目 ドンドコ ドン (ウン) ドンドコ ドン (ウン) ドコドン ドンドン ドンドコ ドン (ウン)

2回目 ドンドコ ドコドン ドンドコ ドン (ウン) ドンドコ ドコドン ドコドコ ドン (ウン)



1回目も楽しいけれど、2回目のほうが盛り上がるよね。

2回目の方が、楽しい感じがします。

どうして2回目の方が、楽しくて盛り上がるのかな？ (問い返し)

前の時間に聴いた太鼓も、同じリズムがあると盛り上がりました。

「ドンドコドコドン」「ドンドコドコドン」のリズムを、もっと打ちたいな！

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

【まとめ】 同じリズムを打つと、お祭りの楽しい雰囲気ができるよ。

振り返り



同じリズムを打ったら、踊りたくなるようなお祭りの音楽をつくることができました。〇〇さんは私の音楽で楽しく踊っていました。

途中で「ワッショイ！」や「ソレ！」とか「セヤッ！」とかけ声を入れたらもっと盛り上がりました。かけ声も繰り返したら最高に盛り上がりました。

友達の太鼓のリズムとつなげたら、もっと楽しくなると思います。絶対つなげたいです。



同じリズムの時、みなさん盛り上がっていましたね。〇〇さんは楽しそうに踊っていましたよ。かけ声を入れているグループもありました。みなさん、友達とつなげてみたいですか？

教師の思い・願い



子どもはお祭りの踊りたくなるような音楽が大好きである。さらに、反復を生かしたリズムを取り入れると、お祭りの音楽がもっと楽しくなったり、盛り上がったりに気付かせたい。実際のお祭りの音楽づくりでは、リズムカードを組み合わせる中で、反復を生かしたリズムを取り入れ、子どもそれぞれの思いを大切にしていきたい。

教 科	図 画 工 作
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 表現及び鑑賞の活動を通して、児童一人一人が感性を働かせながらつくりだす喜びを味わうことができる指導計画を作成する。</p> <p>2 児童が感性を働かせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を培うことができる授業展開を工夫する。</p> <p>3 自分らしさを自覚し豊かな創造活動ができるように評価を工夫する。</p>	<p>(1) 学校の実態や児童の発達に応じ、幼稚園、中学校との連続性や2学年間の見通しをもち、表現及び鑑賞の活動を通して児童の資質・能力を高めることができるように指導計画を作成する。</p> <p>(2) 表現及び鑑賞相互の活動に関連性をもたせるとともに、各内容を関連付けたり一体的に扱ったりできる幅のある題材を設定し、指導計画に位置付ける。</p> <p>(3) 日々の学習から生まれた作品や親しみのある美術作品等の展示を工夫し、校内における造形的な創造活動の日常化を図る。</p> <p>(1) 育成したい資質や能力を明確にし、個々の児童の思いや願いの具現に向け、自らテーマや材料、方法、手順等を選択、決定できる場や機会を適切に位置付けた題材を計画する。</p> <p>(2) 表現と鑑賞の活動の関連を図るとともに、諸感覚を働かせた能動的な鑑賞となるように活動を工夫し、発達に応じた適切な言語活動を位置付けた題材を設定する。</p> <p>(3) 児童の主体的な学習の中で、対象や事象を造形的な視点で捉え、イメージをもちながら、造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力が育まれる授業展開を工夫する。</p> <p>(4) 形や色、材料などに関わりながら、共に学び高め合う学習や互いのよさを認め尊重し合う学習としての指導の充実を図る。</p> <p>(1) 題材設定時や授業前に、育成する資質・能力が発揮された姿を具体的に思い描き、授業場面での児童の多面的な見取りや価値付けの充実を図る。</p> <p>(2) 目標や内容を具現化する題材に沿って設定されたねらいをもとに、評価場面と評価方法を工夫する。</p>

教 科	美 術
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生徒一人一人に美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てることができる指導計画を作成する。</p> <p>2 生徒が感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることができる授業展開を工夫する。</p> <p>3 生徒一人一人が自分のよさに自信をもち、意欲的・意図的に創造活動に取り組めるように評価を工夫する。</p>	<p>(1) 学校や生徒の実態に応じ、小学校や高校との連続性や3年間の学習の見通しを大切に、育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした指導計画を作成する。</p> <p>(2) A表現の内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理したことを踏まえるとともに、表現及び鑑賞相互の活動に関連性をもたせた指導計画を作成する。</p> <p>(3) 道具や薬品の誤用等による事故防止に向け、学習環境の整備に努めるとともに、安全指導を適切に位置付ける。</p> <p>(1) 育成したい資質・能力を明確にし、造形的な視点を実感をもって理解しながら造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力が育まれる題材を設定したり、授業を展開したりする。</p> <p>(2) 【共通事項】に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることを通して、言語活動の充実を図る。</p> <p>(3) 伝統的な側面と創造的な側面から、生活の中の美術の働きや美術文化について理解を深められるようにする。</p> <p>(1) 題材設定時や授業前に、育成する資質・能力が発揮された姿を具体的に思い描き、授業場面での生徒の多面的な見取りや価値付けに役立てる。</p> <p>(2) 生徒が、自己の感性をもとに自信をもって表現や鑑賞の活動に取り組み、互いの表現のよさや個性などを認め合いながら活動できるように、評価場面と評価方法を工夫する。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【図画工作科 小学校 第2学年「ともだちハウス」立体 4/6】

箱を並べたり積んだりしながら「小さな友達」が喜ぶ家を思い付き、工夫して表すことができる。

③ 学習課題・見通し

友達の作品のどこがすてきな？

【はこのすてき】

- ・ 形 ・ 色
- ・ もよう
- ・ ひらき方
- ・ 大きさ



Aさんの箱を折りたたんで部屋を作っているところがすごい。箱の組み合わせがすてきです。

Bさんがトイレットペーパーの芯を2本で立てて、じょうぶにしているところがすごいです。



【学習課題】材料の形や色を生かして、「小さな友達」が喜ぶわくわくハウスをもっとグレードアップさせよう。

「小さな友達」が喜ぶエレベーターやカーテンを、すてきな色でじょうぶにつくりたいな。



④ 追究・解決

※箱の立て方に戸惑っているCさんに対する働きかけ

箱を立てるのにどうしたらいいと思う？（近くの友達が集まる）



のり代をつくったら、立てられると思うけれど…。

どうしてのり代をつくといいのかな？

「開き技」を使って（板書を指差して）、箱を広げてのり代をつくと、じょうぶに立てられるよ。

のり代に木工用ボンドをうすく付けて立てるとじょうぶになるから、Cさんのエレベーターを動かしても、倒れなくなると思うよ。



まとめ

箱の下の部分を開いてのり代をつかって立てたら、前よりもじょうぶになりました。

箱の模様にあう色を選んでカーテンを作ったら、部屋が明るくて楽しい感じがしました。



② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

振り返り

友達にのり代の作り方を教えてもらって嬉しかった。「小さな友達」を乗せてエレベーターを動かしても、箱が倒れなくなりました。



わたを布でくるんでつくったクッションを、グレードアップしようと思いました。わたが出てこないように、黄色のテープを貼ってみたのですが、布をテープで止めるのは思ったよりも難しかったです。次の時間は、ブランコの色を周りの色に合わせてみたいです。

箱の形や色、模様を生かしたグレードアップがたくさんありますね。つくるのは、あと1時間です。どんなグレードアップが思いつくかな？



教師の思い・願い

表現意欲の喚起を図るために、床に広げた鑑賞コーナーに製作途中の作品を並べ、オリジナルの「小さな友達」と一緒に家の中を見たり、触ったりしながら、表現して楽しかったことを互いに話し合える場を設定する。また、材料の形や色などから発想を広げた作品、箱のつなぎ方を工夫した作品等を意図的に取り上げ、新たな気付きを促していく。



教 科	体育（小）
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 運動領域と保健領域の関連を踏まえること 体育・健康に関する指導につながる健康安全・体育的行事との関連について見通した指導計画を作成する。</p> <p>2 体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視した学習評価を行う。</p>	<p>(1) 児童の実態等を踏まえた指導内容の明確化・体系化を図るとともに、「何を教えるのか」「どのように教えるのか」を整理し、二つの学年を一つの単位として、その中で各種運動種目の単元構成や年間配当、時間配当を工夫して指導計画を作成する。</p> <p>(2) 新体力テスト等の結果を踏まえ、自校における体力・運動能力の課題を解決するとともに、体力を高めるための具体的な解決策（運動身体づくりプログラムの自校化と継続的な実践等）を盛り込んだ体力向上推進計画書を作成し、適切な実施と改善に努める。</p> <p>(3) コロナ禍により運動機会が減少したため、体を動かす時間と質を工夫して、運動・スポーツの心地よさを実感できる授業を推進する。</p> <p>(4) 活用の機会を工夫し、自分手帳の活用を通じた児童の健康マネジメント力の育成に努める。</p> <p>【運動領域】</p> <p>(1) 児童の発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基本的な動きや技能が身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。</p> <p>(2) 運動を苦手と感じている児童や、意欲的に取り組まない児童への指導を工夫するとともに、障がい等のある児童への指導の際に、周りの児童が様々な特性を尊重するように指導する。</p> <p>【保健領域】</p> <p>(1) 健康に関心をもてるように、知識を活用する学習活動を積極的に行い、デジタル教材の活用、実習、実験、課題学習等を取り入れるとともに、養護教諭や栄養教諭等の専門性を有する教職員の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解し、自己の健康の保持増進や回復等のために主体的、協動的に活動していく学習を工夫する。</p> <p>(3) 保健領域と運動領域を関係付けて学習することによって、運動と健康との関連について具体的な考えがもてるようにする。</p> <p>(1) 「いつ何を教え、いつどの観点で、何をを使って評価するか」を明確にし、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2) 評価の観点や課題解決のポイントを明示し、自己評価や相互評価を効果的に行う。</p>

教 科	保健体育（中）
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 単元など内容や時間のまとまりを見通してその中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が図られるように配慮した指導計画を作成する。</p> <p>2 体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的に解決するための指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>3 生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを重視した学習評価を行う。</p>	<p>(1) 生徒の実態等を踏まえた指導内容の明確化・体系化を図るとともに、発達の段階のまとまりに応じ、運動の取り上げ方を一層弾力化した指導計画を作成する。</p> <p>(2) 新体力テスト等の結果を踏まえ、自校における体力・運動能力の課題を解決するとともに、体力を高めるための具体的な解決策を盛り込んだ体力向上推進計画を作成し、学校の教育活動全体や実生活に生かすことができるよう改善を図る。</p> <p>(3) コロナ禍により運動機会が減少したため、体を動かす時間と質を工夫して、運動・スポーツの心地よさを実感できる授業を推進する。</p> <p>(4) 活用の機会を工夫し、自分手帳の活用を通じた生徒の健康マネジメント力の育成に努める。</p> <p>【体育分野】</p> <p>(1) 生徒の発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基本的な技能や知識が身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。</p> <p>(2) 個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法について、学校や地域の実態に応じて適切に設定する。</p> <p>【保健分野】</p> <p>(1) 知識を活用する学習活動を積極的に行い、デジタル教材の活用や実習、実験、課題学習等を取り入れるとともに、養護教諭や栄養教諭等の専門性を有する教職員の参加・協力を推進するなど多様な指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 個人生活における健康・安全に関する内容を科学的に理解し、主体的に自他の健康課題を解決していく学習活動を工夫する。</p> <p>(3) 体育分野と保健分野の関連を図り、指導内容の充実に努める。</p> <p>(1) 「いつ何を教え、いつどの観点で、何をを使って評価するか」を明確にし、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2) 評価の観点や課題解決のポイントを明示し、自己評価や相互評価を効果的に行う。</p> <p>(3) 「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取る部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分（感性・思いやりなど）があることに留意する。</p>

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【保健体育科 中学校 第1学年「ネット型 バレーボール」4/7】

友達と教え合いながら、練習や簡易化されたゲームに取り組むことで空いている場所をつくらない動きを高める。

③ 学習課題・見通し

※1回目の簡易化されたゲーム後



〇〇さんが「空いている場所と定位置」について悩んでいます。同じ気持ちの人はいますか？

空いている場所にすぐにボールを落とされる。定位置と関係あるのかな。



はい。ほくも同じモヤモヤをスッキリさせてラリーを続けたいです。



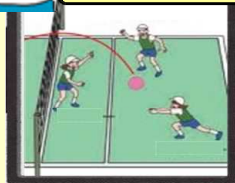
【学習課題】自分のコートに空いている場所をつくらないことと、定位置は関係しているのかな。

④ 追究・解決



では、2班の試合をVTRで見てみましょう。

どうして、みんなは空いている場所が無いって感じるのかな？（問い返し）



そういえば、2班はボールをつないでいたよね。



2班には空いている場所が無い感じがします。



そう！

そう！

そう！空いている場所がないよね。



あっ！自分のプレーが終わったら、すぐ定位置に戻っている！

そうか！私たちは自分のプレーの後すぐに定位置に戻らないから、空いているところがいっぱいできてしまうんだね！練習で確認しよう！



※この後、練習と2回目の簡易化されたゲームを実施

まとめ

【まとめ】 自分のコートに空いている場所をつくらないためには、すぐに定位置に戻る。

振り返り



学びがい



2回目のゲームではチーム全員が定位置に戻ることを意識できました。試合には負けましたが、ラリーが続いたので盛り上がりました。



試合中もみんなで「戻れ！」と声を掛け合って、空いている場所を消す動きができました。定位置のキープは大切だと思いました。



ボールの動きを予測していろいろな場所に動き、友達のカバーをする事ができました。ラリーも続いてアタックもできました。



定位置に戻ることを意識していましたね。素早く空いている場所をカバーするのが、上手になりました。ラリーが続いていましたよ。「予測するといいです。」と考えている人もいました。

教師の思い・願い



小学校では、つないで楽しむラリーを経験をしている。中学校では一歩進んだ1点をもぎ取る白熱したラリーの楽しさを経験させ、よりネット型の特性にふれさせたい。そこで、ルール（ワンバウンドやキャッチが可能）を考えさせながら、単元の前半ではボール操作の技術を高め、単元後半では空いている場所を消すための定位置を意識した動きについて友達と教え合わせながら高めていきたい。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教科	家庭（小）
指導の重点事項	努力事項
1 資質・能力の育成に向けて、2年間を見通した指導計画を作成する。	(1) 題材などの 内容や時間のまとまりを見通して 、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の 主体的・対話的で深い学びの実現 を図るようにする。 (2) 児童や学校、地域の実態を的確に捉えるとともに、内容相互の関連を図り、指導の効果を高めるようにする。その際、他教科等との関連を明確にするとともに、 中学校の学習を見据え、系統性を重視した指導計画 を作成する。
2 生活や社会との関わりを重視した題材を設定し、見方・考え方を働かせた課題の追究・解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。	(1) 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を 考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 を図る。 (2) コンピュータや情報通信ネットワークを学習内容や指導方法において効果的に活用できるように精選する。 (3) 生活の自立の基礎を培う基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために、調理や製作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりするなどの 実践的・体験的な活動を充実 する。 (4) 家庭や地域との連携 を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを 日常生活に活用 できるように配慮する。
3 児童のよさや進歩の状況を積極的に捉えた学習評価を工夫する。	(1) 題材ごとに、評価場面や評価方法等を入れた「 指導と評価の計画 」を作成し、資質・能力が育成されるよう 指導の改善 に生かす。 (2) 指導の前後や学習過程に評価を適宜位置付け、児童のよい点や進歩の状況などを評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

教科	技術・家庭（家庭分野）
指導の重点事項	努力事項
1 資質・能力の育成に向けて、3年間を見通した指導計画を作成する。	(1) 題材などの 内容や時間のまとまりを見通して 、その中で育む資質・能力の育成に向けて、 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現 を図るようにする。 (2) 生徒や学校、地域の実態を的確に捉え、小学校家庭科及び高等学校家庭科との連続性と系統性を重視した指導計画を作成する。各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開できるよう適切な題材を設定して計画を作成する。
2 生活や社会との関わりを重視した題材を設定し、見方・考え方を働かせた課題の追究・解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。	(1) 衣食住などに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて 考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 を図る。 (2) コンピュータや情報通信ネットワークを学習内容や指導方法において効果的に活用できるように精選する。 (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得 し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、 実践的・体験的な活動を充実 する。 (4) 生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する学習活動を充実 するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮する。
3 生徒のよさや進歩の状況を積極的に捉えた、学習評価を工夫する。	(1) 題材ごとに、評価場面や評価方法等を入れた「 指導と評価の計画 」を作成し、資質・能力が育成されるよう 指導の改善 に生かす。 (2) 指導の前後や学習過程に評価を適宜位置付け、児童のよい点や進歩の状況などを評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにする。

教科	技術・家庭（技術分野）
指導の重点事項	努力事項
1 資質・能力の育成に向けて、3年間を見通した指導計画を作成する。	(1) 題材などの 内容や時間のまとまりを見通して 、その中で育む資質・能力の育成に向けて、 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現 を図るようにする。 (2) 各項目及び各項目に示す事項については、 相互に有機的な関連を図り、総合的に展開できるような適切な題材 を設定して計画を作成する。
2 生活や社会との関わりを重視した題材を設定し、見方・考え方を働かせた課題の追究・解決につながる指導方法の工夫・改善に努める。	(1) ものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて 考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実 を図る。 (2) コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用 して、情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫する。 (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得 し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、 実践的・体験的な活動を充実 する。 (4) 生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する学習活動を充実 するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮する。
3 生徒のよさや進歩の状況を積極的に捉えた学習評価を工夫する。	(1) 評価の内容や方法を改善し、 具体的な題材ごとの指導計画と評価規準 を作成する。 (2) 指導の前後や指導の過程に適宜評価を位置付け、 生徒のよい点や進歩の状況を積極的に捉え、生徒の主体的な学習活動を促す評価 となるようにする。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【家庭科 小学校 第5学年「クッキングはじめの一步」 1/8】

野菜を食べやすくするための調理の仕方があることに気付くことができる。

③ 学習課題・見通し

このアンケートから気付くことはありますか？



野菜が好きではない。

野菜が好きではない人が多いことが分かります。

野菜は栄養のバランスのために大切なのは分かるけれど、食感や味が苦手です。

そういえば、昼の放送で給食委員が、野菜は一食当たり両手一杯分を食べる必要があると話していました。

え！？こんなにたくさん食べるにはどうしたらよいのかな？

それでは、給食やみなさんの家庭の料理では、野菜を食べやすくするためにどのような工夫をしているかを調べてみましょう。

【学習課題】野菜を食べやすくするには、どんな調理をしたらよいだろう？

④ 追究・解決

みなさんが撮影した食卓の様子から気付いたことをあげましょう。



野菜いためにすると、見た目の量（かさ）が半分くらいに減っています。

そうだね。量（かさ）が減ると一度にたくさん食べることができるね。

そうか！野菜を食べやすくするには生よりもいためるといいんだね。

いため以外にも、ほうれんそうのおひたしのように野菜をゆでも量（かさ）が減るよ。

もしかして、野菜をあたためるといいんじゃないかな。

本当にあたためるといいのですか？（ゆさぶり）



そういえば、昨晚食べたみそ汁のはくさいがやわらかくて食べやすかったです！

他にもあたためる調理方法があるんじゃないかな？他の料理では、どんな調理をしているかを給食の献立で調べてみたいです！

※この後、給食の献立を見ながら調理方法の違いについて班ごとに調べる。

まとめ

【まとめ】野菜を食べやすくするには、熱を加える調理をするとよい。

振り返り



学びがい

野菜に熱を加えると量（かさ）が減るので、たくさん野菜を食べられることが分かりました。

給食や家庭の料理から、いため、ゆでる、煮る、蒸すなど様々な調理方法があることが分かりました。

実際に野菜を調理して、量の変化や味の変化を調べてみたいです。



野菜を食べやすくする方法が分かってきました。次の時間からは、野菜を調理して実際に食べやすくなるかどうかを確かめるための実習計画を考えていきましょう。

教師の思い・願い



日頃、給食で野菜の残菜が多いことが気になるので、アンケートをとると「野菜は好きではない」とか「家では野菜をほとんど食べない」という実態が分かってきた。このアンケートを基に、野菜を食べやすくする調理の仕方について児童が考える場面を設定したい。その際、タブレットで自宅の料理を撮り、その写真を基に気付いたことを共有させることで自分事にさせたい。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

教 科		外 国 語 (小)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1	外国語科の目標と趣旨を的確に捉え、児童や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、目標の実現を図るよう系統的な指導計画を作成する。	(1) 小・中の連携や小学校同士の連携により、 中学校への円滑な接続 を図るとともに、設定する単元の位置付けや単元と単元との関連を踏まえ、系統性のある指導計画を作成する。 (2) 児童や地域の実態に応じて、指導内容や活動等を自校化し、外国語科の目標と趣旨に沿ってそれらを位置付けるとともに、他の教科等との 相互の関連を図る 。 (3) 実施上の課題等の把握や指導計画作成は、 全職員の共通理解 のもと学校全体で取り組むとともに 校内研修を充実させる 。 (4) 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定 し、単元等を通して英語を使って「何ができるようになるのか」を明確にする。	
2	外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を創造する。	(1) 単元や題材等 内容や時間のまとまりの中で授業を設計 し、単元や授業で育成する資質・能力を明確にして、単元構成・授業構成を工夫する。 (2) 教師自身が英語力の向上に努め、クラスルーム・イングリッシュを計画的に使用し、児童が 英語に触れる時間を増やす 。 (3) 「目的や場面、状況などを理解する」「見通す」「学び合う」「振り返る」学習活動を重視し、 主体的・対話的で深い学びの実現を図る 。 (4) 学習意欲が高まる 「身近で簡単な事柄」 について課題を設定する。	
3	指導と評価の一体化を図る。	(1) 5領域で「何ができるようになるのか」という観点から 「CAN-DOリスト」 の形で学習到達目標を設定し、指導と評価、授業の改善に努める。 (2) 外国語科の目標と趣旨を踏まえ、児童や地域の実態に応じて 単元や授業のねらいを明確にし 、指導と評価の計画を作成する。 (3) 単元や授業のねらいに沿って、評価規準とともに児童の状況を適切にとらえる 評価の場面、方法等を設定する 。 (4) 自己評価や相互評価等を活用し、児童の状況を分析するとともに、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど 指導の改善に生かす 。	

教 科		外 国 語 (中)	
指導の重点事項		努 力 事 項	
1	外国語科の目標と趣旨を的確に捉え、生徒や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、目標の実現を図るよう系統的な指導計画を作成する。	(1) 小学校や高等学校における指導との接続 を図るとともに、小学校外国語活動及び小学校外国語科の内容や成果等を踏まえ、系統性のある指導計画を作成する。 (2) 各単元に授業時数を効果的に配当し、領域ごとの活動やそれらを統合的に活用する活動を適切に位置付け、年間を通して バランスのとれた5領域の総合的な育成を目指す 。 (3) 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定 し、単元を通して英語を使って「何ができるようになるのか」を明確にし、目標や評価規準を設定する。	
2	外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を創造する。	(1) 単元や題材等 内容や時間のまとまりの中で授業を設計 し、単元や授業で育成する資質・能力を明確にして、単元及び授業構成を工夫する。 (2) 生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保し、授業全体を英語を使った 「実際のコミュニケーションの場面」 とするため、 授業は英語で行うことを基本とする 。 (3) 「目的や場面、状況などを理解する」「見通す」「学び合う」「振り返る」学習活動を重視し、 主体的・対話的で深い学びの実現を図る 。 (4) 学習意欲が高まるような 「日常的な話題」 や 「社会的な話題」 について課題を設定する。	
3	指導と評価の一体化を図る。	(1) 5領域で「何ができるようになるのか」という観点から 「CAN-DOリスト」 の形で学習到達目標を設定し、指導と評価、授業の改善に努める。 (2) 単元（授業）の目標、学習内容・活動、評価規準、評価の場面や方法、評価結果に基づく支援の 整合性 を図る。 (3) 単元目標や内容等に応じて指導と評価の重点化を図る場合でも、年間を通じて、 各観点、評価規準及び言語活動をバランスよく評価する 。	

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【外国語科 中学校 第3学年 Unit 1 Sports for Everyone
Unit Activity ぴったりのおもてなしプラン 8/9】

ALTの母親に喜んでもらえるように、彼女の経験や希望を基に、県内のおすすめプランを作ることができる。

③ 学習課題・見通し

※次の時間に、アメリカに住むALTの母親にメール文を書く設定



I got a sudden mail from my mom last night. She will come to Fukushima this summer. It'll be her second visit. She wants to enjoy sightseeing and good food this time, too. But I don't know good places and food well. Do you know? Please help me!

ALT

Do you have any idea?

I think Lake Inawashiro is good.



Our town has many hot springs.



何が好きなんでしょう？



【学習課題】ALTのお母さんに喜んでもらうためには、どんなプランを作ればよいのだろうか？

前回日本に来たときにどんな経験をしたのかな。
Has she ever～?で聞いてみよう。



※ 紹介したい場所が同じ友達と班を作り、話し合うようにする。

④ 追究・解決

※ALTとのやり取りから得た情報を基に、考えを整理し、メモを作成する。



Has she ever been to Lake Inawashiro?

Yes, she has.



How about Aizuwakamatsu?



No, she hasn't.



It's near Lake Inawashiro. She can see a beautiful castle and learn its history.

Oh, I see.



Has she ever tried *ramen*?

No, she hasn't. But I think she wants to try it.

そのプランで、ALTのお母さんは本当に喜んでくれるかな？(ゆさぶり)



Does she like painting?



Yes, she does.



How about painting *Akabeko* toys?

She likes painting.



② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

※子どものメモより

- visit Aizuwakamatsu
 - learn history, a beautiful castle
 - paint Akabeko toys → fun!
- visit Kitakata
 - ramen → delicious



- visit Iizaka
 - many hot springs → famous!
 - Kyu Horikiri-teji
 - shrines and temples
 - enban gyoza, peaches



振り返り



自分の好みでおすすめるのではなく、相手の経験や希望をよく理解することが大切だと思いました。自分の考えを整理できたので、おすすめプランを早く伝えたいです。



Has she ever ~?を使って経験を尋ねることができました。ALTの答えを聞いて、思いついたことをその場で質問し、会話を続けることができました。



相手の状況を踏まえて、おすすめプランを作るために考えを整理することができましたね。次回は、メモを基におすすめプランをメール文で書いてみましょう。

教師の思い・願い



本単元で、子どもは主に現在完了形を学んできている。これらを統合する段階（2時間扱い）においては、子どもが、日常的な話題について、自分の考え、気持ち等を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにしたい。そのため、ALTの母親に喜んでもらえるようなおすすめプランを作るために（目的）、彼女の経験や希望を踏まえ（状況）、現在完了形等を使ってALTと会話をして情報を集める場面を設定する。文章を書くことに対する抵抗感をもつ子どもが多いため、本時では、すぐに文章で書くのではなく、ALTから必要な情報を聞き出し、メモすることで自分の考えを整理できるようにする。次時では、メモを基にALTの母親に向けたメール文を書くことができるようにする。

教 科	特別の教科 道徳 (小・中)
指導の重点事項	努 力 事 項
<p>1 児童生徒や学校、地域の実態を踏まえた実効性のある全体計画及び指導計画を作成し、全教師が協力して学校全体で取り組む推進体制を確立する。</p> <p>2 道徳教育の「要」としての道徳科の役割を踏まえ、多様な指導方法・指導体制等を工夫するとともに、家庭や地域との積極的な連携を図る。</p> <p>3 児童生徒の成長を受け止めて認め、励ます評価を個人内評価として記述式で実施する。</p>	<p>(1) 校長の明確な方針を基に、道徳教育推進教師を中心として、全教師が共通理解し協力して、全体計画及び指導計画を作成する。</p> <p>(2) 児童生徒の発達の段階や特性を踏まえ、指導内容を重点化した全体計画を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒や学校、地域の実態を踏まえ、学校における重点目標を設定するとともに、指導内容の重点化を図る。 ○ 全体計画に加える「別葉」を全教師の共通理解の基、作成する。作成に当たっては、学校における重点目標との関連を図るとともに、各教科等における道徳教育の指導の「内容と時期」が分かりやすくなるように工夫して、その活用を図る。 ○ 「学校いじめ防止基本方針」や各種教育の目標及び全体計画と道徳教育の関連性や整合性を明確にする。 <p>(3) より活用しやすい指導計画を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主題の設定と教材の配列を工夫し、「自校ならでは」の指導計画の具現化を図る。作成に当たっては、「ふくしま道徳教育資料集」等の地域教材を効果的に位置付け、積極的な活用を図る。 <p>(1) 「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を目安にしながら、多様な指導方法を工夫し、自己を見つめる時間を重視する。</p> <p>(2) 教師同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組み、学年内、学校内で共通認識をもつことを積極的に行う。</p> <p>(3) 保護者や地域の人々が授業を参観する機会を積極的に位置付ける。また、保護者や地域の人々が参加、協力する指導体制を工夫する。</p> <p>(1) 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める。</p> <p>(2) 評価の視点や方法、評価のために集めておく資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもつようにする。</p> <p>(3) 保護者や地域の人々に、道徳科の授業や評価について説明する機会をもつなど、円滑な実施に向けて学校の説明責任を果たす。</p>

教材名「500人の大家族」(ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集：福島県教育委員会)

【あらすじ】

大震災発生の翌日、被害が少なかった温泉旅館が被災者を無料で受け入れる決断をする。原発事故の混乱がいつまで続くかの見通しが全くつかない中、温泉旅館の娘である主人公の「私」は、被災者を受け入れることに不安や抵抗を感じていた。そんなある日、気持ちが進まないまま手伝いをしていた「私」は、被災者であるおばあさんから、「おじょうちゃんも毎日大変だね。いつもありがとうね。」と声をかけられ、後ろめたい思いをする。また、タオルを運ぶことでお返しをしたいというおばあさんの温かな手や思いにふれることで、「私」の心も温められる。さらに、受け入れを決めた父の思いを知ること、思いやりの心を相手に向けることの大切さを実感し、「私も」という思いから進んで食事を運び始めるという話である。

参考：ふくしま道徳教育資料集



第Ⅰ集



第Ⅱ集



第Ⅲ集

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【道徳科 中学校 第2学年「相手のことを考えて」 B思いやり、感謝
教材「500人の大家族」(ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集)】

東日本大震災の被災者を受け入れた旅館の娘である「私」の気持ちを考えることをとおして、周囲の人への思いやりや感謝についての考えを深め、相手のことを考えて行動しようとする態度を育てる。

③ 学習課題・見通し

※校外学習や講演会で「震災」に触れた経験を生かす。

校外学習で震災遺構の「請戸小学校」へ行き、どんな感想をもちましたか？

津波の恐ろしさを感じました。

震災の被害が大きな地域を見て、当時の大変さを想像しました。

講演会で〇〇さんが、震災の時に、後輩やデイサービスの人に手を差し伸べた高校生の話をしました。話を聞いてどう思いましたか？

避難している途中でも、相手のことを考えて声をかけていたところがすごいと思いました。どうして、そんなことができたのだろう。自分だったら難しいです。

【学習課題】相手のことを考えるって、どういうことなのだろう。

④ 追求

多面的・多角的に考える

おばあさんのしわしわの手のぬくもりが、「私」の手に、いつまでも残っていたのはどうしてだろう？

「いつもありがとうね。」と言われて、おばあさんの優しさが心に響いたからです。

感謝されて嬉しいけれど、その分私たちが大変だし、疲れると思っています。後ろめたさを感じたからです。

でも、やりたいことをがまんしているのだから、「私」も相手のことを考えているよね。それなのに、どうして後ろめたさを感じるのかな？ (ゆさぶり)

おばあさんは自分も大変なのに、優しく声をかけています。でも「私」は、自分のことで精一杯で、宿泊客のことを考えているとは言えないからです。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

振り返り

自己を見つめる

深い学びの目指すべき答えは、子ども一人一人の中にあります。

今までの自分は、相手のことを考えて、どんなことができていたのだろう？

ぼくは、雪がたくさん降った時に、隣の家の雪かきをしました。

どうして雪かきをしようと思ったの？ (問い返し)

高齢なので、雪かきをするのが大変だと思いました。そして、ぼくが小さい時に優しくしてもらったので、できることをしたいと思ったからです。

私は、どんなことができていたのかを考えていくうちに、自分がしてもらっていることの方が多いと感じました。職場体験に行った時に、担当の人は私が安心できるように笑顔で丁寧に接してくれました。説明を聞きながら、私は相手の気持ちを考えることが足りないのかもしれないと思いました。これから…

学びがい

実感

教師の思い・願い

導入では、校外学習で「請戸小学校」や「東日本大震災・原子力災害伝承館」へ行ったこと、講演会で震災当時のエピソードについて聞いた経験を生かすことで、教材を身近なものとして捉えさせたい。また、「自己を見つめる」ことで自分事としたうえで、終末で「震災当時に周囲の人に助けられて嬉しかった保護者の体験」についても紹介することで、支え合いの中で生きていることを実感させたい。

外国語活動（英語・小）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

指 導 の 重 点	努 力 事 項
<p>1 外国語活動の目標と趣旨を的確に捉え、児童や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、目標の実現を図るよう系統的な指導計画を作成する。</p> <p>2 外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を創造する。</p> <p>3 指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>(1) 小・中の連携や小学校同士の連携により、小学校高学年や中学校への円滑な接続を図るとともに、設定する単元の位置付けや単元と単元との関連を踏まえ、系統性のある指導計画を作成する。</p> <p>(2) 児童や地域の実態に応じて、指導内容や活動等を自校化し、外国語活動の目標と趣旨に沿ってそれらを位置付けるとともに、他の教科等との相互の関連を図る。</p> <p>(3) 実施上の課題等の把握や指導計画作成は、全職員の共通理解のもと学校全体で取り組むとともに校内研修を充実させる。</p> <p>(1) 単元や題材等内容や時間のまとまりの中で授業を設計し、単元や授業で育成する資質・能力を明確にして、単元構成・授業構成を工夫する。</p> <p>(2) 教師自身が英語力の向上に努め、クラスルーム・イングリッシュを計画的に使用し、児童が英語に触れる機会を増やす。</p> <p>(3) 「目的や場面、状況などを理解する」「見通す」「学び合う」「振り返る」学習活動を重視し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。</p> <p>(4) 学習意欲が高まる「身近で簡単な事柄」について課題を設定する。</p> <p>(1) 外国語活動の目標と趣旨を踏まえ、児童や地域の実態に応じて単元や授業のねらいを明確にし、指導と評価の計画を作成する。</p> <p>(2) 単元や授業のねらいに沿って、評価規準とともに児童の状況を適切にとらえる評価の場面、方法等を設定する。</p> <p>(3) 自己評価や相互評価等を活用し、児童の状況を分析するとともに、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど指導の改善に生かす。</p>

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイント

ポイント1 児童の実態と教材の価値を踏まえた指導計画の作成

- 単元の特徴を把握するとともに、各学年における各単元の意義や位置付け、単元と単元とのつながりを意識した上で、児童の発達段階や興味・関心等の状況、学校の実態等に応じて、単元の目標を設定し、教材やALTの活用等を工夫して計画的、系統的にコミュニケーションを体験させる計画を作成する。
- 言語や文化について体験的に理解を深めたり、日本語と外国語の違いに気付いたりすることを通して外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを深められるよう、計画的に活動を位置づける。

ポイント2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- 「目的や場面、状況など」を明確にするとともに、児童が「聞きたい」「話したい」という意欲が高まるように題材や活動等を工夫する。
- 外国語教育の特性に応じて、児童が物事を捉え、思考する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせるような工夫を行う。
- 単なる繰り返し活動や、いわゆる「ドリル学習」のような単調な学習に終始したり、語句や文を機械的に暗記させたりして、コミュニケーションへの意欲や興味・関心を減じることのないように留意する。
- 言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャー等を取り上げ、その役割を理解させるようにする。

ポイント3 言語活動の位置付け

- 授業のねらいにあわせて、「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」の活動をバランスよく設定する。
- 児童の発達段階や学習段階を踏まえ、「言語の使用場面」や「言語の働き」を意識しながら、「相手意識」や「目的意識」のある活動を組み立てる。

ポイント4 評価の工夫・改善

- 外国語活動の目標⇒単元のねらい・内容の設定⇒評価規準の設定⇒活動・評価の場面・評価方法の設定⇒評価等の計画を練り、評価の生かし方等と併せて、目標－指導－評価の一体化を図る。
- 単元や授業のねらいについて、「分析」や「点検」等、評価の意図を明確にし、指導の改善に生かす。自己評価を活用する場合は、授業のめあてに対する自分の学びの振り返りとなるよう工夫する。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【外国語活動 小学校 第4学年 Unit 7

What do you want? ほしいものは何かな? 2/5】

自分のこだわりのパフェを作るために、相手が欲しい食材は何か、いくつ欲しいのか等を尋ねたり、答えたりすることができる。

③ 学習課題・見通し

※お店で、自分のパフェに載せたい果物を購入する設定



Do you like parfaits?

Let's make your original parfait.

Yes!

わあ、やってみよう。大好きなサクランボを載せてみたい。

【学習課題】 友達とどんなやり取りをすれば、自分のこだわりのパフェを作れるかな。

歌の中にあったWhat do you want?やHow many?が使えるかな。

④ 追究・解決



Hello. What do you want?

I want strawberries, please.



上手に言うことができましたね。もし、何と言えばよいか分からない時は、どうすればよいのかな? (問い返し)



別の言葉で言ったり、ジェスチャーを使ったりするとよいと思います。

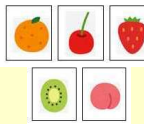
Hello. What do you want?

(あれっ、サクランボは何て言うんだっけ?)うん…。Red, please.

店員C

Red? Oh, strawberries?

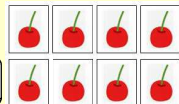
No, no!



Oh, cherries?

Yes! Cherries!

How many cherries?



Eight cherries, please.

※店員と客の役割を交換して、再度活動を行わせる。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

What do you want?を使って尋ねることができました。

I want strawberries, please.と文で答えることができました。

なんとかCherriesが言えて、欲しい数も言うことができました。

How many?を使って、いくつ欲しいのか尋ねることができました。

振り返り



単語が分からなくても、英語で色を言ったり、ジェスチャーを使ったりしたら、通じてうれしかったです。英語でもっと話してみたいです。

Dさんは、サクランボを8個も買って驚きました。サクランボが大好きなんだなと思いました。サクランボがたくさん載ったパフェを食べたいです。



お店屋さんらしくHello.やThank you.を笑顔で言うことができました。

友達の欲しい物を尋ねたり、自分がいくつ欲しいのか答えたりできるようになりましたね。次の時間は、自分のこだわりのピザを作ってみましょう。

教師の思い・願い

子どもはこれまで、数、形、色、食材の名前や、何が欲しいのか、いくつ欲しいのかという表現に慣れ親しんできた。本時では、子どもが自分のこだわりのパフェを作るため、果物を手に入れる場面を設定し、店員と客とのやり取りに必然性をもたせた。目的や場面、状況が明確な言語活動をとおして、コミュニケーションを行う楽しさを味わわせたい。

総合的な学習の時間 (小・中)

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

指 導 の 重 点	努 力 事 項
<p>1 地域や学校、児童生徒の実態等に応じ、特色ある全体計画や指導計画を作成する。</p> <p>2 学校の創意工夫を生かした探究的な学習活動を展開する。</p> <p>3 児童生徒の主体的な学習を支える評価に努める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 総合的な学習の時間の目標を設定するにあたっては、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、各学校の教育目標を踏まえて設定する。 (2) 総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を、児童生徒の実態に即して設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力等を明確にする。 (3) 地域の素材や学習環境を生かしながら直接体験（自然体験やボランティア活動など）を取り入れ、地域の人々の協力を得るなど指導体制の工夫を図るとともに、効果的にICTの活用を図る。 (4) 年間指導計画の作成においては、全体計画を踏まえた上で、各教科等との関連、発達の段階や学習経験、校種間の接続等に配慮し、弾力的な年間指導計画を作成する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 探究のプロセスを重視した学習を繰り返し展開できるように学習過程を工夫する。特に、「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を重視する。 (2) 問題の解決や探究活動の過程に、体験活動や言語活動を適切に位置付けるとともに、他者と協働して課題を解決する学習活動を設定する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習して学んだこと、感じたこととともに、自分自身の変容や今後の取組等について、児童生徒が自ら振り返ることができるよう学習評価を工夫する。 (2) 活動や学習の過程、報告書や作品、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、一人一人のよさや学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価する。

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイント

ポイント1 児童生徒の実態と教材の価値を踏まえた指導計画の作成

- 児童生徒や学校、地域の実態等に応じて、**探究的な見方・考え方**を働かせ、教科等の枠を超えた**横断的・総合的な学習**や児童生徒の興味・関心に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図る。
- 年間や単元を見通して、その中で育む**資質・能力の育成**に向けて、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにする。
- 体験的な学習に配慮しつつ探究的な学習となるよう充実を図る。
- **各教科等で身に付けた資質や能力を、実社会や実生活で活用**していくことができるような単元や教材を開発したり、精選したりする。

ポイント2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- **探究のプロセス「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」**を単元や授業の中で**繰り返し設定**していく。特に「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組に配慮する。
 - ① 【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
 - ② 【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
 - ③ 【整理・分析】 収集した情報を整理したり分析したりして思考する
 - ④ 【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する
- **探究的な学習の過程**においては、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動（**比較する、分類する、関連付ける**などの「考えるための技法」）を活用する学習活動）などが行われるようにする。

ポイント3 評価の工夫・改善

- 各学校の目標や内容に沿った評価の観点や評価規準を設定し**指導と評価の一体化**を図る。
- 評価の観点を基に、単元の目標、資質や能力及び態度を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童生徒の姿を想定し、具体的な評価規準を設定する。
- 評価の信頼性を高めるために、活動過程での評価を多面的・多角的な資料と多様な評価方法を用いて行い、指導改善に役立てる。

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい

【総合的な学習 中学校 第3学年「ふるさとに貢献しよう」 1/35】

これまでの地域学習や職場体験、生活経験等の振り返りを通して、地域のよさや課題、自分たちとの関わりについて考え、地域に貢献しようという意識をもつことができる。

③ 学習課題・見通し

※1、2年時の探究活動について振り返りを行う。

1年「ふるさとを知ろう」
2年「ふるさとに学ぼう」
3年「ふるさとに〇〇〇」

1年生では産業や文化について施設を訪問して話を聞きました。

2年生では企業で職場体験しました。

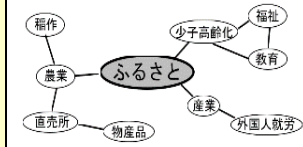
これまでの探究活動でどんなことを感じましたか？

当たり前感じていたことでも、話を聞いたり、体験したりして、新たに分かったこともありました。

【学習課題】 私たちのふるさととはどんなところだろう。

④ 追究・解決

※各自で「ふるさと」についてマッピングし、その後共有する。



農業が盛んで、直売所などに人が集まっています。

おいしいお店がたくさんあります。

工場では、外国の人も働いています。

高齢者が元気に活動していて楽しそうです。

よいところがたくさん出てきましたね。十分住みやすいということですか？（ゆさぶり）

住みやすいけれど、もっとよい町にしたいです。

みんなにとってよい町とはどのような町なのでしょう。（問い返し）

高齢者が住みやすいのはもちろん、子育てしやすい町になるとよいと思います。

みんなが生き生きと安心して暮らしていける町になってほしいな。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

【まとめ】 私たちのふるさとには、産業や福祉、国際交流など多方面でよさや強みがある。

振り返り

家庭科の保育実習で、子育てや福祉について詳しく知ることができそうです。保育実習がより楽しみになりました。

職場体験で訪問したスーパーの店長に聞いた商店街の取組を知って、その努力や思いに感動したのを思い出しました。

地域のよさや強みがたくさんあったので、もっと詳しく調べてみんなに知ってもらいたいです。

もっとよい町にするために、自分たちもできることがありますね。これから考えていきましょう。

教師の思い・願い

3学年となり、これまでの学びを生かしてまちづくりに係る取組や人々の思いを多面的に捉え、ふるさとに自分がどのように関わっていくのかを考え、行動できるようにしたい。そして、自分たちが住むふるさとのために、自ら積極的に貢献しようという意識や態度を育みたい。

特別活動（小・中）

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の（人間としての（中学校））生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

指導の重点	努力事項
<p>1 目指す資質・能力を明確にした指導計画の工夫改善に努める。</p> <p>2 資質・能力を育成するための指導内容の重点化を図り、指導方法の工夫改善に努める。 〔各内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級活動 ○ 児童会・生徒会活動 ○ クラブ活動（小学校） ○ 学校行事 <p>3 よさや可能性を積極的に認め、資質・能力の評価を工夫する。</p>	<p>(1) 各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図り、全教職員の協力の下、調和のとれた全体計画と年間指導計画の工夫改善に努める。</p> <p>(1) 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けるようにする。</p> <p>(2) 指導内容を精選・重点化し体験的な活動の充実を図るとともに、特別活動の特質を生かし、道徳的な実践の指導の充実を図る。</p> <p>(1) 学級活動(1)(2)(3)の特質を踏まえ、学級活動(1)の充実を図る。</p> <p>(2) 学級活動(3)は、特別活動がキャリア教育の要であることの趣旨を踏まえ、見通しを立て、振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うようにする。</p> <p>(1) 異年齢集団による交流のよさを一層重視して、自己肯定感・自己有用感が高まるよう適切な指導に努める。</p> <p>(2) 児童生徒のリーダーシップの育成に努める。</p> <p>(1) 異年齢集団の中で自発的、自治的な活動が活発に展開されるよう指導に努める。</p> <p>(1) 自校の実態に即した内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなどして精選し、教師の指導を中心とした児童生徒による自主的、実践的な活動が助長されるよう工夫する。</p> <p>(2) 幼児や高齢者、障がいのある人々との触れ合いや異年齢集団による交流、自然体験、社会体験、ボランティア活動などの活動を充実させる。</p> <p>(1) 特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が評価の観点を定める。</p> <p>(2) 学級担任以外の教師が指導することも多いことから、評価体制を確立し共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価する。</p> <p>(3) 児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるような「キャリア・パスポート」などを活用して、自己評価や相互評価ができるよう工夫する。</p>

学習指導要領の趣旨を踏まえた活動改善のポイント

ポイント1 指導計画作成（カリキュラム・マネジメントの確立に向けて）

- 各活動・学校行事の目標やねらいが十分に達成できるように、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な時数を充てる。
- 低学年では、学級活動(2)の内容が多くなるが、**学年が上がるにつれて、学級活動(1)を十分確保**できるように配慮する。中学校では、小学校の経験を生かして取り組むよう配慮する。

ポイント2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- 実態や、自己の現状に即して、自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるよう授業改善を図る。
- 課題を見だし、解決するために**合意形成**を図ったり、**意思決定**したりする中で、話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりするように授業改善を図る。
- 課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉え、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくように授業改善を図る。

ポイント3 評価の工夫・改善

- **活動の結果**だけでなく、**活動の過程**における児童生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童生徒のよさを**多面的・総合的に評価**したりする。
- 観察による教師の評価と併せて、**児童生徒による評価を参考**にすることも考えられる。
- 一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する。一年間の学校行事を見通して重点化を図ることも考えられる。

ポイント4 各種指導資料等の活用（文部科学省、国立教育政策研究所教育課程研究センター）

- **みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編**（リーフレット、指導資料）
- **学級・学校文化を創る特別活動中学校編**（リーフレット、指導資料）

主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して ～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～

① 本時のねらい 【学級活動(1) 中学校 第1学年「小学生に中学校のよさを伝えよう」】

これから入学してくる6年生に向けて、中学校入学が楽しみになるような学校紹介をするために何をどう伝えるかについて、友達に寄り添いながら話し合い、決めることができる。

③ 議題の確認 ※事前に計画委員会で議題を選定し、提案者と一緒に活動計画を作成しておく。

第⑩回学級会の議題と提案理由の確認をします。

【議題】小学校6年生に向けて、中学校入学が楽しみになるような学校紹介をしよう。

提案理由を提案者の〇〇さんお願いします。

学級会コーナー 第⑩回 振り返り

第⑩回 小学校6年生に向けて、中学校入学が楽しみになるような学校紹介をしよう。

事前アンケート
伝えたい内容を記入
12日(木)まで
計画委員に提出

決まっていること
・1月20日(金)13:30～ 体育館にて実施
・1年生で使える時間は20分

新入生説明会で学校紹介の時間があります。内容は私たちに任せられました。6年生に伝えられるのは私たちしかいません！代表だけで決めるのではなく、学級みんなで考えて、来年入学する6年生をみんなで迎えたいです。そのために、6年生が安心してきて、楽しみになるような学校紹介をしたいと思い、提案しました。

④ 話し合い ※事前アンケートで意見を出し合い、話し合いは比べ合うことから始める。

司：5つの案が出ました。このあとどのように決めますか。

A：どれも6年生に伝えたいけれど、時間が足りません。

B：でも、みんなの考えも分かるし、多数決にしくはありません。

C：生活の時間は表示で分かると思います。自分もそんなに困らなかったし、私たちにしかできないことを紹介した方がいいと思います。

A：提案理由に「安心してきて、楽しみになる」とあるから…。

C：合唱コンクールはどうですか？初めて先輩の合唱を聴いた時は驚いたな。あんなふうに歌えるようになりたいと思いました。

D：私はウォークラリーを紹介したい。行く前のイメージと違って楽しくて、今でも友達と思い出して笑い合えるし、私達の中学校だけの行事だからです。

B：賛成です。その時の楽しさは、私達にしか伝えられないと思います。

E：「ウォークラリー」と「合唱コンクール」という考えが多いようですが、この2つに決めていいですか？

F：部活動のことも伝えたいです。今、自分にとってがんばれるモチベーションになっているし、楽しみにして入学してほしいです。

司：時間内に紹介できるでしょうか。

D：「ウォークラリー」と「合唱コンクール」は、言葉で伝えて、「部活動」は写真とか文章で伝えるのはどうかな？それを渡すか、掲示するのはどう？

いいね！

※このあと、柱②について話し合う。

話し合いの柱① 伝える内容

話し合いの柱② 比べ合うこと

話し合いの柱③ 伝えたい理由

話し合いの柱④ 伝えたい方法

話し合いの柱⑤ 伝えたい相手

話し合いの柱⑥ 伝えたい時期

話し合いの柱⑦ 伝えたい場所

話し合いの柱⑧ 伝えたい方法

話し合いの柱⑨ 伝えたい相手

話し合いの柱⑩ 伝えたい時期

話し合いの柱⑪ 伝えたい場所

話し合いの柱⑫ 伝えたい方法

話し合いの柱⑬ 伝えたい相手

話し合いの柱⑭ 伝えたい時期

話し合いの柱⑮ 伝えたい場所

話し合いの柱⑯ 伝えたい方法

話し合いの柱⑰ 伝えたい相手

話し合いの柱⑱ 伝えたい時期

話し合いの柱⑲ 伝えたい場所

話し合いの柱⑳ 伝えたい方法

話し合いの柱㉑ 伝えたい相手

話し合いの柱㉒ 伝えたい時期

話し合いの柱㉓ 伝えたい場所

話し合いの柱㉔ 伝えたい方法

話し合いの柱㉕ 伝えたい相手

話し合いの柱㉖ 伝えたい時期

話し合いの柱㉗ 伝えたい場所

話し合いの柱㉘ 伝えたい方法

話し合いの柱㉙ 伝えたい相手

話し合いの柱㉚ 伝えたい時期

話し合いの柱㉛ 伝えたい場所

話し合いの柱㉜ 伝えたい方法

話し合いの柱㉝ 伝えたい相手

話し合いの柱㉞ 伝えたい時期

話し合いの柱㉟ 伝えたい場所

話し合いの柱㊱ 伝えたい方法

話し合いの柱㊲ 伝えたい相手

話し合いの柱㊳ 伝えたい時期

話し合いの柱㊴ 伝えたい場所

話し合いの柱㊵ 伝えたい方法

話し合いの柱㊶ 伝えたい相手

話し合いの柱㊷ 伝えたい時期

話し合いの柱㊸ 伝えたい場所

話し合いの柱㊹ 伝えたい方法

話し合いの柱㊺ 伝えたい相手

② 決まったこと

決まったことの確認を、記録者の〇〇さんお願いします。

決まったことは「ウォークラリー」「合唱コンクール」「部活動」を伝えることです。伝え方は…。(話し合いの柱ごとに、決まった内容を確認する)

振り返り 話し合いのめあてや活動の目標に向かってがんばっていた人はいましたか。

学びがい 計画委員が事前にアンケートを取っていたので見通しをもてました。

部活動のことを伝えたいと思った時に、Dさんに写真や文章で伝えるという考えを出してもらえて、とても嬉しかったです。

友達の意見をよく聞いて、思いを受けとめながら話し合いができました。部活動のことを伝えたいという友達の思いに寄り添い、写真や文章で伝えようと提案できたこともすばらしかったです。当日まであと少しです。よい説明会になるように、このあとも協力して準備しましょう。

教師の思い・願い

自分の経験や思いを生かして発言したり、互いに考えを傾聴したりしながら合意形成する中で、子ども一人一人に「自分にはよいところがある」「自分にもみんなのためにできることがある」と感じさせたい。また、話し合いのよさや友達のよさを子ども自身に気付かせたい。互いに認め合い高め合う雰囲気醸成するために、子ども一人一人のよさやがんばる姿を意図的に価値付けるようにしたい。

ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

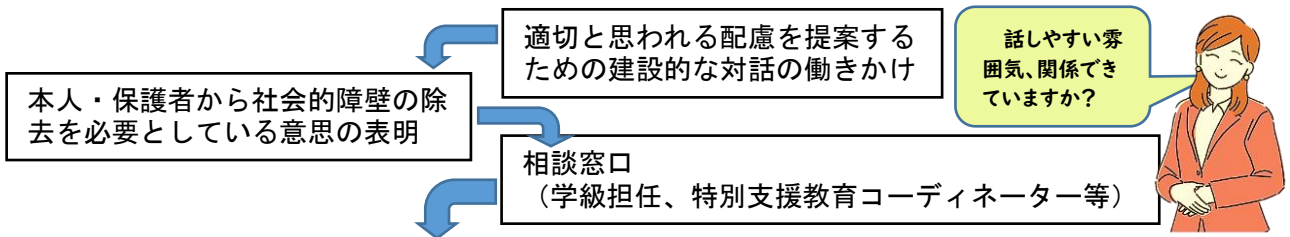
(3) 特別支援教育

特別支援教育(小・中)

障がいについての基本的な理解のもとに、障がいのある子どもと障がいのない子どもが可能な限り共に学ぶことのできる校内体制整備の充実を図る。また、本人・保護者との合意形成のもと合理的配慮を提供し、児童生徒一人一人に対して充実した指導・支援を行う。

指導の重点	努 力 事 項
《学校全体》	
<p>1 校内の支援体制を整備し、全教職員で指導・支援を行う。</p> <p>2 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導・支援を行う。</p>	<p>(1) 安心な学校づくりと分かる授業づくり等の予防的な支援や特別な支援が必要な児童生徒の早期発見に努める。</p> <p>(2) 校長のリーダーシップの下、児童生徒の実態を学習面や生活面など多面的に把握し、全教職員の共通理解を図り、適切な指導・支援に当たる。</p> <p>(3) 校内研修の実施や外部の研修会へ積極的に参加し、全教職員の特別支援教育に関する基本的な知識・技能の向上を図る。</p> <p>(4) 特別支援教育コーディネーターが中心となり、校内委員会やケース会議を開催し、支援の必要な児童生徒の実態把握、支援内容・方法等の検討、(実践、)評価、改善を行う。 必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援学校の地域支援センターや特別支援教育アドバイザーの活用を図る。</p> <p>(5) 障がいのある子どもと障がいのない子どもの交流及び共同学習(特別支援学級と通常学級、特別支援学校と小・中学校、居住地校交流)を学校全体で計画的かつ継続的に取り組み、全教職員が交流及び共同学習の目的や内容等を共有する。</p> <p>(6) 学校だよりや保護者会等を活用し、継続して家庭や地域に特別支援教育の理解啓発を図る。</p> <p>(1) 児童生徒の教育的ニーズを3つの観点(①障がいの状態等、②特別な指導内容、③教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容を踏まえて整理し、自立と社会参加を見据え、その時点で最も必要な教育を提供する。</p> <p>(2) 家庭との共通理解を図るとともに、医療、福祉、保健の関係機関と連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行う。</p> <p>(3) 一貫した指導・支援を行うために、本人・保護者との合意形成により合理的配慮を提供するとともに、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、活用を図る。</p> <p>(4) 交流及び共同学習においては、児童生徒の教育的ニーズを十分に把握し、豊かな人間性を育むとともに、教科等の目標が達成できるように努める。</p> <p>(5) 学びの場の連続性を重視した対応として、知的障がいのある子どものための各教科等の目標や内容を、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理し、就学前機関や学校間とのつながりに留意する。</p> <p>(6) 長期入院児童生徒や病気療養児の学習の機会を保障するとともに、在籍校は保護者や医療機関等の関係機関と連携を図る。</p>
《通常の学級》	
<p>1 児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、学校、家庭、地域及び医療等関係機関との連携を図る。</p> <p>2 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を工夫する。</p>	<p>(1) 特別支援教育コーディネーターや管理職等の校内資源を十分に活用しながら、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握する。また、支援や配慮の必要な児童生徒については、個別の教育支援計画の作成・活用に努める。</p> <p>(2) 入学時や進級・進学時には関係機関と連携し、ケース会議等において個別の教育支援計画を活用しながら適切な引継ぎを行う。</p> <p>(1) 前述の小・中学校の教育内容を十分に踏まえるとともに、個別の教育支援計画に明記した合理的配慮を提供しながら、支援を必要とする児童生徒一人一人へ具体的で分かりやすい指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 個別の教育支援計画や各教科等の年間指導計画を基に、個別の指導計画を作成・活用し、日々の指導・支援に当たる。</p> <p>(3) 落ち着いた教室環境の整備や児童生徒がお互いの存在を認め合える学級経営について、学校全体で検討し実践する。</p>

各学校における合理的配慮の提供プロセス(例)



本人・保護者及び学校との協働的な取組

調整

- 実態把握
- 合理的（必要かつ適当な変更・調整）かどうか
- 過重な負担はどうか
 - * 場合によっては、基礎的環境整備として市町村教育委員会外部機関等に相談することも考えられます。
- 合理的配慮の検討（代替案の検討を含む）
 - 一方の主張で決定されるものではなく、調整事項に従って、今、できる合理的配慮を協働的に考えていくことで、自然に互いに「合意形成」へとつながります。

「傾聴・受容・共感」のカウンセリングマインドを大切に「こんな方法を考えてみました!」などの一緒に考え、作成していく姿勢が重要です。

なぜ、合意形成が必要なの？

合理的配慮の内容を合意形成することにより、本人（保護者）が自分の特性や、自分にとって必要な支援を知り、申し出ることによって必要な支援を受けることができます。そのため、進級、進学、就職など環境やかかわる周囲の人が変わっても、自分で必要な支援である合理的配慮を伝えることができるようになることが大切となります。

決定 個別の教育支援計画等への明記
(作成)

切れ目ない支援の提供のために作成します。ケース会議などでも活用できます。

提供 合理的配慮の提供

評価 定期的な評価

見直し 柔軟な見直し

転校・進学等で、基礎的環境整備が異なる環境に変われば、合理的配慮の提供内容も変わります。

合意形成の方法例

どのような場面で？

- 家庭訪問
- 教育相談週間（全校児童生徒対象）
- 随時教育相談（担任・児童生徒）
- 三者相談（担任・生徒・児童保護者）
- 来校時の会話

どのような方法で？

- 連絡ノートの活用
- 保健健康調査の活用
- 個別の教育支援計画の活用
- 電話連絡
- 情報共有シートの活用

本人や保護者とかかわる全ての機会が合意形成のチャンス!

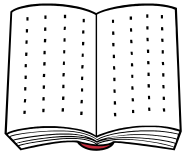
本人・保護者との合意形成 ここが大切!

- 合理的配慮の内容や本人・保護者の理解の状況に応じて、適切なタイミングにより対話を重ねて合意形成を図りましょう!
- 小学校の段階から、合理的配慮の目的や内容について、本人が理解できる言葉や方法で伝えたり、児童の思いや意思を確認したりすることが、中学校、高等学校での提供の充実につながります!
- 本人が、合理的配慮の提供を受けることで、学びやすさや必要性を感じられたかなど、本人の様子から効果を捉えるとともに、本人、保護者の思いや考えを把握し、丁寧な対話を重ねながら進めましょう!
- 本人の成長や、環境の変化について定期的に話し合いながら、合理的配慮の提供内容を見直すことが大切です!

《特別支援学級・通級による指導》

- | | |
|--|--|
| <p>1 児童生徒一人一人の障がいの状態に応じて、適切な教育課程を編成する。</p> | <p>(1) 学校教育法施行規則第138条及び第140条の規定に基づき、特に必要がある場合は、児童生徒の障がいの程度や学級の実態等を考慮の上、自立活動を取り入れた特別の教育課程を適切に編成し、児童生徒一人一人の力を最大限に伸ばできるように努める。</p> |
| <p>2 児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、目標を立て、課題を明確にして年間指導計画を作成・活用する。</p> | <p>(1) 年間指導計画は、児童生徒一人一人の実態や教育的ニーズに応じ、「小・中学校学習指導要領」の趣旨を踏まえながら、「特別支援学校学習指導要領」及び「同解説」等を参考に適切に作成する。</p> <p>(2) 年間指導計画の作成に当たっては、児童生徒一人一人の障がいの状態、各教科等の既習事項や習得状況等について十分に実態把握をし、各教科等の教育の内容を選択し、授業時数の配当及び指導内容の組織をして作成する。</p> <p>(3) 個別の指導計画のもと、自立活動の時間における指導はもとより、学校の教育活動全体を通して、児童生徒が障がいによる学習上又は生活上の困難さを主体的に改善・克服することができるように自立活動の充実に努める。</p> |
| <p>3 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、社会的・職業的自立に向けた教育活動を展開し、授業の充実に努める。</p> | <p>(1) 特別支援教育コーディネーターや管理職、学年主任、交流学級担当教員等の複数の教職員により、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成・活用する。</p> <p>(2) 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立を見据え、長期・短期の指導のねらいや方針を明確にして、必要な資質が養われるようにキャリア教育の充実に努める。</p> <p>(3)① 特別支援学級では、通常の学級との積極的な交流及び共同学習を推進し、集団活動の場を計画的、継続的に確保する。実施に当たっては、交流及び共同学習におけるねらいを明確にして、個別の教育支援計画に明記された合理的配慮を提供するとともに学びの充実に努める。</p> <p>② 通級による指導では、個別の教育支援計画、個別の指導計画等を活用して、児童生徒の在籍学校・学級の教職員と連携し、積極的に情報を共有する。通級による指導での学習内容と関連を図ることにより、在籍学級における指導の効果を一層高めるようにする。</p> <p>(4) 特別支援学校の地域支援センターや特別支援教育アドバイザーを積極的に活用し、特別支援学級や通級による指導における個に応じた指導・支援の充実に努める。</p> |
| <p>4 指導と評価の一体化を図る。</p> | <p>(1) 児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導内容や児童生徒の特性に応じて、単元や題材等の内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。</p> <p>(2) 各教科等の指導に当たっては、個別の指導計画に基づいて行われた学習状況を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるように努める。</p> |

自立活動の指導のための個別の指導計画



- 自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。(特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より)



自立活動は「個々の幼児児童生徒の実態に応じて」目標を立て、指導していくものです。

自立活動の指導にあたっては、「個別の指導計画」を作成することが重要になります。

「個別の指導計画」の作成にあたって、まずは、実態把握が大切になります。この実態把握に基づいて指導目標を設定し、具体的な指導方法を考えていきます。



○実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ

例：集団の中における感情や行動を自分でコントロールする力を高めるための指導

1 個々の実態を的確に把握する

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

- ・学級のルール等について、内容は理解しているものの実際の場面になると、自分がしたいことを優先してしまう場合が多い。
- ・教科学習の理解はよく、習得も速いが、出し抜けに答えたり、友達に伝えたりしてしまう。また、テストでは解答欄を間違えるなどのうっかりミスが多い。
- ・昆虫など小動物が好きで、校庭で見つけると捕まえてくるが、突然、友達の目の前に突き付けて驚かせる。
- ・遊びやゲームなどを面白くする工夫やルールを提案することが得意だが、唐突にルールを変えようとする傾向がある。

まずは、子どもの実態について思いつくことを記入していきます。

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・前向きで活動的であるが、最近少しできない自分を責めるような発言が見られる。	・他者のために役に立ちたい、他者と関わりたいという気持ちは強い。	・聞くより見る方が理解しやすい。	・人や物にぶつかる、道具を使用することが苦手など、意識的に身体操作することに困難がある。	・相手の立場を意識することが難しく、自分の興味・関心を優先してしまふ。

得た情報を自立活動の内容の6つの区分で整理します。整理に悩む場合はコーディネートハンドブックP.198を参考にしてください。

収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理

- ・保護者は、衝動的な言動により、高い理解力を生かし切ることができないことや、また、友達との距離が離れてしまうことを心配している。(心、人)
- ・叱責や失敗体験が成功体験を上回ると、学習や生活に対する意欲や自信が低下することが考えられる。(心、人)
- ・本人の特性に応じた配慮が続けられれば、中学校に行っても本来持っている力を発揮することができるだろう。(人、環)

期間を区切り、例えば、卒業までにどのような力をどこまで育むとよいかを想定しながら整理します。

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

- ・落ち着いた状況であれば、相手の表情や口調等から適切な判断ができることが多く、取組を認められると熱心に取り組むことから、衝動的な言動をコントロールできたときにすぐに褒めることにより、徐々に自分の言動をコントロールできるようになることが期待できる。
- ・視覚的な情報からルールを守ることの大切さを知るとともに、ルールを守ったり衝動的な言動を減らしたりすることで楽しい活動ができる経験を多く積み、自分の身体をコントロールすることで気持ちを安定させる方法を学ぶなどして、衝動的な言動を自分でコントロールする力を高める。

課題同士の関連を考えることで課題となる行動背景、原因が予測できます。それが障がいによる困難さであり、改善・克服できる課題であれば、指導すべき課題となります。

実態把握

目標設定

3 今、指導すべき目標として

・通級による指導の場において、成功体験を実感することのできる学習環境の中で、衝動的な言動をコントロールしながら、望ましいコミュニケーションや円滑な集団参加ができる。

指導すべき課題から、本人の実態及び自立活動の指導場面によって、今、指導すべき目標を決定していきます。

4 指導目標を達成させるための必要な項目選定（6区分27項目）

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

自立活動の内容の6区分27項目のどの項目が関連しているかチェックしていきます。チェックがつかない項目もあります。

具体的な指導方法

指導内容	・小集団において、ルールを守ることや負けた時の対応方法などを身に付けるため、簡単なルールのあるゲーム等に取り組む。	・学校の中で起こる様々な場面をビデオや絵で見て、その場面を、登場人物の気持ちを考えながら演じたり、ビデオ撮影等で自分の言動を客観的に見たりしながら、適切な行動を、その理由と共に話し合う中で理解する。	・気持ちを安定させるために、身体を自分で適切にコントロールできるようにする。
場面指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体
評価			

指導内容との関連を図り、線でつなぎます。

指導内容が、一つ、二つの場合もあります。記入欄が不足する場合は追加してください。

授業時間を設定して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても自立活動と密接な関連を図る必要があります。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より一部抜粋
特別支援教育センター発行コーディネートハンドブック〔2020年版〕より一部抜粋



「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」では、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例や事例が示してあります。



さらに、特別支援教育センター発行
コーディネートハンドブック〔2020年版〕に記入例等が詳しく掲載されています。特別支援教育センターホームページからもダウンロードできます。

戦略3 各種教育の指導の重点

生徒指導

※は参考文献等

〔県北域内の実態〕

- 子どもたちの問題行動の要因や背景は複雑化・多様化している。特に不登校の児童・生徒は増加傾向にある。
- 子ども一人一人の個性の伸長を図りながら、自己指導能力を育成する必要がある。

〔令和5年度の指導の重点〕

多様性やよさを生かした支援

～適時称賛から互いに認め合う関係づくりへ～



1 学級経営がすべての基盤 ～教師の励まし、称賛ですべての子どもに幸せを～



生徒指導提要が
新しくなりました。



※文部科学省
生徒指導提要

自己指導能力育成のための4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を常に意識した学級づくりをしましょう。そのためには、先生がまず、子どものよいところを意識して見つけ、伝えていくことが大切です。「よいところノート」を自作し、一人一人を見つめる取組をしている先生もいます。

特別活動の充実も有効です。集団で問題を解決していく力が育まれたり、学び合う学級の雰囲気がつくられたりします。このことが自己肯定感と自己有用感を高め、生徒指導上の問題行動を未然に防止します。ある中学校では、学級活動（1）を積み重ねていく中で、互いに聴き合う関係が育まれ、信頼を土台とした学級づくりにつながっているという話も伺いました。



2 自校の実態に応じた指導計画の作成と機能的な指導体制の確立

- 自校の課題を踏まえて、目指す子ども像、指導理念、共通実践事項などを明確にし、自己肯定感を高めることや社会性の育成等のための具体的な指導計画に改善する。
- 明確な役割分担により一貫した指導ができる指導体制を確立したり、個別に支援計画を作成したりするなどして、日常的に機能するように改善する。

【支援計画例】

※「ふくしまサポードガイド～ふくしまのすべての子どもたちのために～」
アセスメントシート P23～P24参照



3 教育活動全体を通じた積極的な生徒指導の推進

- 教育活動全体の中で、実践上の4つの視点（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を意識した指導を推進し、子ども一人一人の主体的な生活態度の育成に努める。
- 子ども一人一人の思いや心情を捉えて個に応じた指導に努め、人間的な触れ合いのある温かい学級の雰囲気醸成する。
- 地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流、集団宿泊活動や職場体験活動、奉仕体験活動、自然体験活動、文化芸術体験活動などの豊かな体験活動を通して、規範意識や思いやりなどを育成するとともに、人間としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力の育成に努める。
- 生徒指導委員会、教育相談部会等の校内組織を生かし、教員間の連携の強化、全教職員の共通理解、同一歩調の指導に努める。

4 問題行動等の未然防止と早期発見

- アンケート等のみで頼ることなく、日常の観察や対話による実態把握に努めるとともに、問題行動の未然防止や児童虐待等の早期発見、早期対応、早期解決に努める。また、問題行動が起きた場合の初期対応や重大事態が生じた場合の緊急体制を確立し、全教職員で組織的に対応する。
- 学校いじめ防止基本方針のもとに、いじめ対策のための組織を機能させ、「いじめはどの子どもにも、どの学校でも起こりうるもの」との視点で、未然防止、早期発見、早期対応に努める。また、法律に定められたいじめの定義に従って、子どもの立場に立った積極的な「いじめの認知」に努める。

○ 「新たな不登校を出さない」との認識のもと、過去の子どもの欠席や遅刻・早退の状況の把握に努め、以前に不登校傾向を示した子どもが連続して欠席した場合は「不登校」と捉え、初期対応の体制を整える。また、不登校の状態にある子どもへの支援について、短期的・長期的な視点をもってチームで対応する。

○ スマートフォン等の取扱いについて、学校における指導方針を明確にするとともに、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪、違法・有害情報の問題を踏まえ、発達段階に応じた情報モラルの指導の充実を図るとともに保護者への啓発に努める。

○ 家庭や地域、近隣校、関係機関との連携を図り、地域ぐるみの補導活動などを通して、問題行動の未然防止、早期解決に努める。



※「ふくしまサポートガイド～ふくしまのすべての子どもたちのために～」P 6～P 9 参照

4 早期発見・早期対応・未然防止

学習の遅れ、生活上の課題、不登校等の課題を抱えた児童生徒への的確な援助をするためには、児童生徒が抱えている課題等を早期発見すること、そして早期対応を図ることが重要です。他にも日頃から未然防止の視点を持ち、児童生徒の変容を見逃さないことも重要となります。

早期発見 日常の児童生徒観察等から

普段と色が違うような… 授業に集中していないような 元気がない

目が腫れている。泣いてきたのかな いつもより異常に明るい感じだな “ちょっとした違和感”を見逃さないことが重要です。

「『SOSの出し方に関する教育』を推進しましょう」リーフレット内の「2 日常の児童生徒観察で自殺予防」に掲載のあるチェックリスト等を活用する事も効果的です。

早期対応 個に応じた援助方針の実践

教職員間で情報を共有し、個に応じた援助方針を検討します。学校でできること、家庭に協力を求めること等、「何を、いつまでに、誰が」を明確にした支援計画を策定します。アセスメントシートを活用してみましょう。

未然防止 安心して学べる環境の整備

児童生徒のニーズに応じた特別な教室等を整備することも考えられます。

早期発見・早期対応・未然防止のPoint

- ◆ 「いつもと少し違うような気がする」という“違和感”のようなものを感じた際には、一人で抱えず組織的に対応を心がけましょう。
- ◆ 原因追及よりも、取り組める部分から積極的に児童生徒に関わる事が重要です。

5 早期発見・早期対応～援助の進め方～

児童生徒が抱える課題等を全て把握する、ということよりも、まずは捉えた課題等への早期対応が重要です。以下に示す対応のプロセスを参考に、個々に応じた援助を行いましょう。

普段の生活 日常の児童生徒観察

- 学級担任等が気になる児童生徒の状況を記録する。
- 記録した情報は必要に応じて共有できるよう、保管・累積する。

欠席当日 児童生徒の状況確認

- 保護者からの欠席連絡があり、明確な理由が述べられていたとしても、夕方には家庭へ電話連絡をし、可能であれば本人と話し、状況を確認する。

欠席2日目 児童生徒の状況再確認

- 本人の様子を再確認するため、保護者からの欠席連絡を受ける際には可能な限り学級担任や学年主任につなぐ。
- 管理職と状況を共有し、必要に応じて家庭訪問をする。

欠席3日目 家庭訪問 アセスメントシートの作成に着手

- 連続欠席が3日となった際には、管理職に報告し、家庭訪問を実施する。
- アセスメントシートの作成を開始する。

その後 連続欠席7日目以降、援助チーム会議

- 児童生徒本人の希望や保護者の考え等を踏まえ、SCやSSWも含めた援助チームを構成し、組織的な援助ができるよう、方針を決定する。

家庭訪問のPoint

- ◆ 滞在時間よりも訪問回数を重ねる方が効果的な場合もある。
- ◆ 結果を出そうとせず、児童生徒本人の事を知るプロセスを大事にする。
- ◆ 児童生徒本人には、「クラスのみんなが待っているよ」という言葉よりも、教師自身がどのように思っているのか、「私はあなたがどうしているか知りたい」と思っているよ」等を伝える。
- ◆ 「時間」は子どもにとって重要。短く切り上げることも大切。

5 教育相談の充実

- 子どもとの日常的な触れ合いを通して、信頼関係を築き、個々の教員がカウンセリングマインドをもって相談に応じる。
- 教育相談コーディネーター等が中心になって、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を活用し、教員間の連携を深め、学校が一体となって個に応じた支援を行うことができるよう、チームでの対応力を高める。
- 子ども心のケアに留意し、教育相談の知識や技能を高めるために、関係機関やスクールカウンセラー等との連携を図りながら、研修の充実に努める。
- 「スクールカウンセラースーパーバイズ」の積極的な活用に努める。



このような時に、スーパーバイザーを派遣します！

- ・ 対応が困難なケース等についての、スクールカウンセラーや学校に対する助言及び指導
- ・ 校内研修会等における教職員に対する助言
- ・ 教育講演会や学校保健委員会等での講話及び助言

スペシャルサポートルームについて(特別な教室等)

※ 設置の目的は子どもの居場所づくり、自己実現及び子どもが抱える課題や多様なニーズへの援助のためです。

県北域内においてスペシャルサポートルーム(特別な教室等)のよさを取り入れ、子どもの社会的自立に向けた実践を行っている学校が増えてきました。自分で時間割を作り、学習するという自己決定を促すよい機会にしています。

家庭・学校・教室をつなぐ“特別な教室”のイメージ



“特別な教室”運営のPoint

- ◆ 全校児童生徒及び保護者に対し、“特別な教室”が設置されていることを周知する。(全校集会や学校便り等)
- ◆ 児童生徒用の玄関と特別な教室の玄関を可能な限り分ける。(例：保健室等からの入室も認める)
- ◆ “特別な教室”の環境は、児童生徒が落ち着いて生活できるようなレイアウトになるよう、工夫をする。(合理的配慮の検討) [③、④ページへ](#)
- ◆ 登校した児童生徒に、プリント学習をさせるだけといった対応はしない。
- ◆ 登校することに慣れてきたら、過ごし方や時間割を自己選択させる。
- ◆ 学級担任は必ず1日1度は顔を出し、児童生徒との信頼関係を構築する。
- ◆ “特別な教室”は複数の教員で担当する等の工夫が考えられる。
- ◆ 教室内は児童生徒のみで過ごす時間をつくらない。
- ◆ SCと連携したカウンセリングを意図的に計画する。

福島県教育庁事業「安心して学べる環境づくり事業」 スペシャルサポートルームより

キャリア教育

1 子ども、学校、家庭及び地域の実態把握と指導計画の作成・改善

- 各学校や子どもの実態に応じて、キャリア教育における基礎的・汎用的能力の具体化、重点化等を行い、自校の目指す子どもの姿（目標）を明確にする。

* キャリア教育における基礎的・汎用的能力

- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・課題対応能力
- ・キャリアプランニング能力

- 特別活動の学級活動をキャリア教育の要としながら、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習など、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図る。
- キャリア教育全体計画の作成にあたっては、学校における全ての教育活動をキャリア教育の視点でつなぎ、教育課程に位置付ける。
- 「社会に開かれた教育課程」の観点から、子どもの主体的な活動を指導する具体的な方策や、自校の実践を地域社会と共有していく。
- 家庭・保護者の役割やその影響の大きさを考慮し、家庭・保護者との共通理解を図りながら進める。

2 キャリア教育の推進組織・体制づくりと共通理解に立った指導

- 校務分掌でキャリア教育担当者の役割を明確にして、学校全体で取り組む体制を整える。
- 学級活動の内容「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」では、子どもに共通した問題を取り上げ、意図的、計画的に指導し、話し合い等を通して一人一人の考えを深め、実践につなげることを重視する。なお、学級活動では、以下の内容をいずれの学年においても扱う。

小学校	中学校
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	ウ 主体的な進路の選択と将来設計

- キャリア教育の要となる特別活動や各教科の特色に応じて、学んだことと将来の生活や社会とを関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。
- 「キャリア・パスポート」（子どもが活動を記録し、蓄積する教材等）を作成及び活用することによって、子どもの発達段階を踏まえた系統的なキャリア教育を推進する。
- 学校と地域や産業界等との連携を深め、小学校からの起業体験や中学校の職場体験活動を促進するなど、発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進する。
- 学級活動(1)(2)もキャリア形成の基盤となる大切な内容であることを踏まえ、特質に合わせた指導を工夫する。

3 学校、家庭、地域社会や関係機関等との連携の強化

- 「将来の夢」などについての家庭での会話や、家事の手伝いなどを通して、将来の夢や希望を育むとともに、集団生活に参加しようとする意欲・態度を養う。(小)
- 家庭での役割の理解と遂行、保護者や身近な大人の職業等の理解を通して、社会の一員としての自覚を高めるとともに、将来の生き方や進路への希望を育む。(中)
- 地域の行事への参加や職場見学など学校を中心とする地域とのかかわりを通して、自分と地域とのつながりについて理解することができるようにする。
- 地域社会における職場見学、職場体験や地域の行事への参加などを通して、地域の一員としての自覚を得ることができるようになるとともに、将来の生き方、進路を考える契機とする。

1 情報化に対応した教育の推進と指導体制の充実

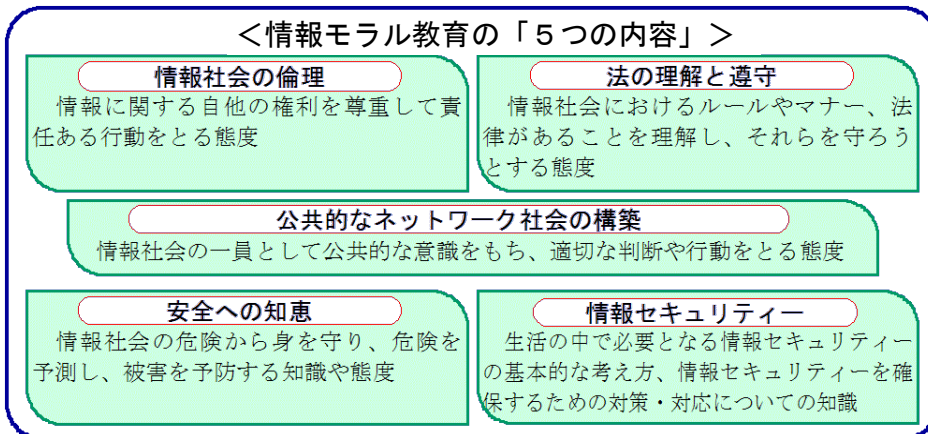
- 学校教育全体において情報教育を推進するために、教育の情報化を推進する組織を位置付け、計画的に研修を行うなど校内の指導体制の確立を図る。
- 情報活用能力を構成する資質・能力を育成するため、各学校において日常的に情報技術を活用できる環境を整え、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じ、情報技術を適切に活用した学習活動の充実を図る。
- ICT機器等の基本的な操作の習得やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力を育むため、教科等横断的な教育課程を編成する。

2 主体的な学習活動を支援するコンピュータ等の活用

- 様々なメディアを活用した情報収集・発信のルールやマナーを身に付けさせるとともに、発信する情報や情報社会での行動に責任をもたせ、子どもが主体的に情報を選択・活用する能力の育成を図る。
- 各教科等においては、1人1台端末等のICT機器を適切な場面で活用するとともに、学習意欲や学習効果の向上を図る。

3 情報モラル教育の充実

- 情報モラルの指導においては、「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」「安全への知恵」「情報セキュリティー」「公共的なネットワーク社会の構築」を道徳科や総合的な学習の時間を中心として教科等横断的に指導するとともに、家庭との連携を図る。また、流行のアプリなど、最新の情報を把握しながら、様々なトラブルが自分にも起こり得ることを自覚できるよう工夫する。



※「福島県SNSいじめ等研修会報告書」（平成27年6月 福島県教育庁義務教育課HP）

※「次世代のためのメディアリテラシー育成事業 情報モラル教育指導資料」（令和4年3月 福島県教育庁義務教育課HP）

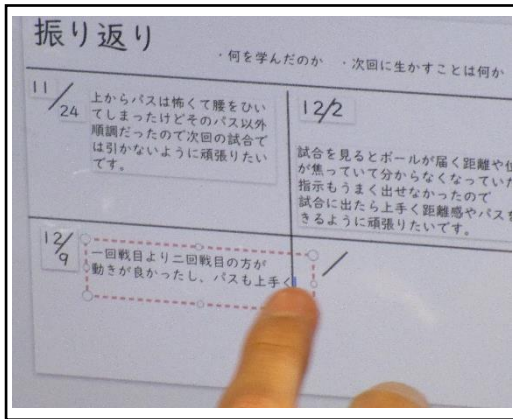
※「情報モラル教育の充実等」
児童生徒向け啓発資料、教員向け指導資料等（文部科学省）

※「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」
（令和2年3月 文部科学省 初等中等教育局情報教育・外国語教育課）

ICT 機器の活用場面



1人1台端末等のICT機器を適切な学習場面等で活用していきたい。
 ※「教育の情報化に関する手引（追補版）第4章より」（令和2年6月文部科学省）



○ 学習履歴の蓄積

授業の振り返りをクラウド上に保存している。そのため、いつでもどこでも学びを振り返り、自己の成長を実感することができる。
 また、振り返りを含めた様々な学習活動でICT機器を活用することで、テキストボックスを操作したり、文字入力をしたりする基礎的なICT活用能力の向上につながっている。

○ 協働的な活用場面

クラウド上で協働的に1枚のスライド制作を行っている。同時に作業をすることで、イメージを共有しながら短時間で制作を行うことができる。また、分からないことを瞬時にインターネットで検索し、情報収集を行い、資料づくりに反映させている。
 役割分担をしながら協働的に学ぶよさを実感することができる。



情報モラル教育の広がり

1人1台端末やゲーム・スマホ等端末の普及により、情報モラル教育の必要性がますます高まっている。全教員がどの教科等の授業でも指導ができるように指導力向上に努めたい。



○ 誰でも情報モラル教育

情報モラルの指導力向上のために、校内研修等を実施する学校が増えている。また、私たちが活用できる情報モラル教育を行うための資料や教材も充実してきている。「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」（文部科学省）では、動画と連動した指導資料等がウェブサイトに掲載されている。各自治体や企業等も、そのまま使用できる教材を多数紹介している。
 誰もが自信をもって指導できるよう、研修や情報交換をしていきたい。

○ どの教科等でも情報モラル教育

総合的な学習の時間に「地域の歴史と自慢を発信しよう」をテーマにした動画づくりをする授業の一場面。子どもたちは、肖像権や著作権、見る相手を意識した動画撮影などを前時に学習した。その学びを生かして、情報の発信者としての注意点を意識しながら動画づくりを行った。
 学級活動、道徳科だけでなく各教科等で1人1台端末を活用する場面において、情報モラルについて指導することができる。



～指導場面例～

- 【検索する】情報の信頼性を考える
- 【作成する】著作権に配慮する
- 【発表する】誤解を受けない言い回しをする
- 【共有する】セキュリティについて考える

など

図書館教育

※は参考文献等

1 学校図書館の活用を図った指導計画の作成・改善

- 各学校の実態に応じて、各教科等の学習、読書活動、その他の教育活動と学校図書館との関連を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、多様な指導の展開を図る。
- 各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、子どもが主体的に学習活動や読書活動に取り組むことができるようにする。
- 図書の読み聞かせや子どもによる図書紹介、必読書や推薦図書を定めるなど、子どもの発達段階及び学校の実態に応じた読書活動充実のための取組を推進する。



2 学校図書館の機能や役割を生かすための整備充実

- 子どもの情報収集や学習活動に役立つ図書館資料、新たなニーズに応えられる図書館資料の整備充実及び適切な廃棄・更新を進めるとともに、環境整備に努める。
- 読書センターや学習センター、情報センターとしての機能を備えた学校図書館の整備を進め、より一層の利活用が図られるようにするとともに、司書教諭と学校司書の連携、公共図書館、地域ボランティアなどの関係機関や各種団体との連携を図る。

子どもの発達段階に応じた読書活動の主な取組

発達段階の特性		乳幼児期	小学校期	中学校期	高校期
読書推進の役割		・ 周りからの言葉かけや会話により言葉を獲得する。 ・ 読み聞かせなどにより絵本や物語に興味を持つ。	・ 一人で本を読むようになる。 ・ はやく読めるようになり、多くの本を読むようになる。 ・ 読書の幅が広がり始める。	・ 多読の傾向が減少する。 ・ 共感したり感動できたりする本を選んで読む。 ・ 読書を将来に役立てようとする。	・ 目的や資料の種類に応じて適切に読むことができるようになる。 ・ 知的興味に応じ、一層幅広く多様な読書ができるようになる。
		楽しむ読書	調べる読書	考える読書	
保育所 幼稚園 認定こども園等	・ 遊びや読み聞かせなどを通して本に親しむ機会を提供し、子どもの本に親しむ習慣を形成する。	読み聞かせ 図書館環境の整備 保護者への啓発・家読			
小学校 中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校	・ 一斉読書や読み聞かせなどの取組と多様な読書経験などを通して読書習慣を形成する。 ・ 公立図書館、ボランティア等との連携を図り、読書に親しむ機会を提供する。		読み聞かせ・一斉読書 友人同士の関わりを通じた読書への動機付け ブックトークなど 子ども司書など	読書コンシェルジュなど	
学校図書館	・ 必要な資料を収集・整理し、児童生徒及び教員の利用に供する。 ・ 児童生徒の自主的・自発的な読書活動を促す。		図書館環境の整備 読書相談・レファレンス 児童・生徒への啓発 授業サポート		公立図書館等との連携
家庭	・ 子どもへの読み聞かせや本に親しむ環境を整え、読書習慣を形成する。	読み聞かせ	家読	図書館等の利用	読書関連事業への参加
		ブックスタート	どくしょスタート*		

※ 「第四次福島県子ども読書活動推進計画」(令和2年2月 福島県教育委員会)

<令和6年度までに到達したい数値目標>

本を1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合

小学校 → **100%** 中学校 → **100%**

本を読まない子がいない
県北を目指します!!
(R5年度読書に関する調査)

県北地区ほとんどの小中学校では、全校一斉読書に取り組んでいます。1か月に1冊も読まない子どもの割合も(不読率)は年々減少しています。そして、平均読書冊数も伸びてきています。



1 体験活動を中心とした問題解決的な学習を位置付けた指導計画の作成

- 各教科等の目標やねらいを踏まえ、各教科等と環境教育との関連を明らかにし、教科等横断的な教育課程を設定する。
- 「身に付けさせたい能力や態度」及び「環境を捉える視点」を具体的に位置付けるとともに、ESDやSDGsの視点との関連を明らかにする。
- 発達や学年の段階に応じた体験活動や問題解決的な学習を効果的に設定する。
- 地域の環境の特色を生かしたり、環境に関わる学習対象の重点化を図ったりする。
- 家庭や地域社会と積極的に連携し、学校で学んだことを家庭や地域での生活に生かす場面を設定する。

2 子どもが主体的に考え判断し、行動できる資質・能力を高める指導方法の工夫・改善

- 問題の解決に向けて学習したり、行動したりできるようにするという視点で、指導方法を工夫改善する。
- 自分の言葉で聞き手に分かりやすく伝える力の育成を図るなど、言語活動の充実に努めたり、インターネットやメディア等の映像や記事などの資料を収集・活用したりする。
- 環境問題、環境保全に対する問題意識や認識をもたせるため、「ふくしまゼロカーボン宣言」事業や環境に関する作品応募等への積極的な参加を促す。
- 地域で活躍する人材やNPO法人等の専門家を、ゲスト・ティーチャーとして活用する。



※ 「先駆けの地における再生可能エネルギー教育推進事業推進校指導事例」(福島県教育庁高校教育課HP)



※ 環境教育副読本 (県生活環境総務課HP)



※ 環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】 (平成26年10月 国立教育政策研究所)



※ 環境教育指導資料【中学校編】 (平成28年12月 国立教育政策研究所)

1 児童生徒の実態を踏まえ、学校の特色及び地域の特性を生かした指導計画の作成

- 各教科等の指導において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るとともに、少人数によるきめ細かな指導体制の構築や遠隔合同授業等による学びの充実のための取組に配慮した指導計画にする。
- 地域素材の教材化や地域人材の活用、他学年や他校との交流学习などの体験的な学習を工夫し、家庭や地域社会と連携しつつ、少人数のよさを生かした弾力的な指導ができる指導計画にする。

2 児童生徒一人一人の特性を生かした教育活動の展開と授業の充実

- 情報機器を適切に活用することにより、集団思考の場や児童生徒主体の話し合い活動等を取り入れ、思考力、判断力、表現力等の育成を重視した学習活動を展開する。
- 少人数の特性を生かした体験的な学習や問題解決的な学習により、学ぶ楽しさや成就感などを体得させる中で、主体的に問題を解決していく力を育てるための学習過程を工夫する。
- 複式学級の学習指導においては、間接指導を個性や能力に応じて主体的に学習できる場として捉え、個に応じた補充・発展学習や課題別学習等を取り入れ、充実を図る。

※子ども一人一人が輝く複式指導（福島県教育センター）

【はじめての複式学級編（5分）】



【授業づくりの基本編（7分）】



【授業づくりワンランクアップ編（6分）】



3 児童生徒の自己実現を図る評価の工夫

- 児童生徒一人一人の学習状況を的確に評価し、補充的な学習や発展的な学習、個別指導など個に応じたきめ細かな指導に生かすようにする。
- 観点別学習状況の評価等により、指導と評価の一体化を図る中で多様な活動を評価の対象とし、多面的・多角的な評価を行う。

国際理解教育

※は参考文献等

1 学校や地域の実態等に応じた特色ある指導計画の作成

- カリキュラム・マネジメントの視点から、国際理解教育のねらいを踏まえ、学校や地域の実態等に応じて、各教科等との関連を図った全体計画、年間指導計画を作成する。
- 特別の教科 道徳や総合的な学習の時間で実施する場合は、学習指導要領に示す内容や目標を踏まえて指導計画を作成する。
- JICA、国際交流協会及び海外の提携姉妹校等との連携を図るなど、県内外の関係機関や人材を有効に活用する。
- 全校的な視野で定期的に評価を行い、指導の改善に生かす。

※小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）

第4章 第1節「指導計画作成上の配慮事項」①

同 第2節「内容の取扱についての配慮事項」(8)

※小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年7月）

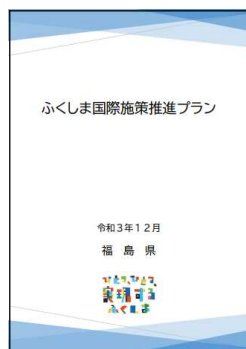
第4章 第3節「指導の配慮事項」7

2 未来を拓く主体性のある日本人としての自覚を高める

- 我が国や郷土の伝統と文化を理解し、尊重できる態度の育成に努める。
- 世界と我が国とのかかわりに対する関心を高め、異なる文化や価値観をもつ人々を理解し尊重する態度を養うとともに、世界の中の日本人であることの自覚を高め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し、未来を拓く主体性を養うように努める。
- 帰国児童生徒や外国人児童生徒、外国につながる児童生徒については、社会情勢を十分に考慮するとともに、外国における生活経験を生かすなど指導の充実を図る。

3 国際社会で活躍できるグローバル人材の育成

- 外国語指導助手や地域の外国につながる人々等との交流活動の設定に当たっては、会話演習等のみを目的とするのではなく、国際理解教育のねらいを踏まえて活動内容を工夫する。
- 自分の考えをしっかりと持ち、対話力を高めるための表現活動や場面を意図的に設けるとともに、インターネット、電子メールや文通等を通して海外の学校等の情報を得たり、発信したりすることにより、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。



※ふくしま国際施策推進プラン（令和3年12月 福島県）

健康教育

※は参考文献等

1 健康を保持増進するための実践力の育成【保健】

- 本県独自の「自分手帳」を活用することにより、自らの健康を適切に管理し改善する健康マネジメント能力を育むとともに、課題解決的な学習プロセスと教科等横断的な視点を重視した学習活動を実施する。
- 「薬物乱用防止教室」については、関係機関の専門家や学校薬剤師との連携を図り、中学校においては学校保健計画に年1回以上開催するよう位置付ける。小学校においても地域の実情に応じて開催に努める。
- 「がん教育」については、がんについて正しく理解し、自他の健康と命の大切さ等について主体的に考えることができるよう、健康教育の一環として学校教育活動全体で行うとともに、外部講師を効果的に活用した指導を工夫する。
- 「性に関する指導」については、県版「性に関する指導の手引」を活用し、子どもの発達の段階や実態に応じて、情報を正しく選択して適切に行動できるよう組織的、計画的に指導し、集団指導と個別指導の関連を図って進めるようにする。



※ 性に関する指導の手引（平成24年9月 福島県教育委員会）
令和5年度内に改訂予定

2 健康相談・個別指導の充実【保健】

- 県の健康課題（「肥満」「う歯」「こころ・性」「視力」）及び自校や地域の健康課題については、家庭、関係機関及び学校医等の専門家、地域との連携を図り、学校保健委員会等の保健組織活動を活用して健康課題解決に努める。
- 学校全体で組織的な健康相談・個別指導を行い、養護教諭や学級担任等が相互に連携し、校内で共通理解を確実に行うとともに、子ども一人一人が健康課題を自ら解決するために、個に応じた指導・支援をきめ細かに行う。

3 安全に関する資質・能力の育成【安全】

- 学校事故対応に関する指針に基づき、学校安全計画及び危険等発生時対処要領の検証・定期的な見直しや周知徹底を図るとともに、緊急時に適切に対処できるよう実践的・実効的な安全教育を実施する。
- 学校における事故の発生要因を分析し、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるよう、教科等横断的に具体的な安全対応策を計画に組み入れて指導する。
- 学年の発達段階に応じて、「福島県自転車条例」を理解させるとともに、危険予測学習や体験的な学習を通して、正しい自転車運転の指導を充実する。

（損害賠償保険加入やヘルメット着用の促進）

- * 小学校においては、登下校防犯プランに基づく通学路の緊急合同点検の結果を地域や関係機関と共有し改善を図るとともに、学校安全体制の強化に努める。

4 「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」の育成【食育・学校給食】

- 子どもの食に起因する健康課題を把握し、その解決を図るために、県教委健康教育課HPにある「食に関する指導の全体計画①、②」を作成し、チーム学校として確実に推進する。
- 栄養教諭や食育推進コーディネーターを中心に指導体制を確立するとともに家庭と地域を巻き込んだ推進体制を確立する。
- 給食の時間については、地場産物の活用などの観点から、学校給食を生きた教材として活用し、教科等における指導内容との関連を図りながら年間を通じて計画的、継続的に指導を行う。
- 「学校給食衛生管理基準」を遵守し、異物混入の防止や食中毒の絶無、食物アレルギー対策の徹底に努め、食の安全の意識を高める。



※ ふくしまの食育—ふくしまっ子食育指針—（平成28年3月【平成30年10月一部改編】福島県教育委員会）

防災教育

※は参考文献等



1 地域や子どもの実態に応じた指導計画等の作成・改善

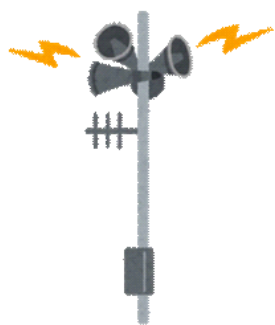
- 防災教育に関する事項を、各教科等との関連を図りながら学校安全計画や各種指導計画に確実に位置付け、教育活動全体を通じて防災教育に取り組みめるようにする。
- 地域の地理的・歴史的背景を踏まえた実状や子どもの発達の段階に応じて、特に重点的に指導すべき災害に焦点を当て、地域の実態に即した指導計画を作成する。
- 関係機関等との連携を図った「学校安全計画」「危険等発生時対処要領」の改善に努める。

2 主体的に考え判断し行動する態度及び能力を高める指導の充実

- 「放射線・防災教育指導資料」や「実践事例集」等を活用し、特別活動や道徳科、総合的な学習の時間及び理科、社会科、技術・家庭科、保健体育科等の教科において、災害に関する基本的な知識と防災に対する意識を高めるための学習活動を工夫し実践する。
- 幼稚園・小学校・中学校等や、家庭・地域、関係機関等と連携しながら、時間や場所、状況等地域や学校の実状に応じた避難訓練を実施したり、地域防災マップづくりをしたりすることを通して、より実効的な防災教育を推進する。
- 地域のハザードマップ等、具体的な資料を活用して、登下校中や在宅時等、学校以外で災害に遭った場合の避難の仕方、家族との集合場所や連絡方法等、多様な場面を想定した防災教育を実践する。

3 安全で安心な社会づくりに貢献する態度を身に付ける指導の工夫

- 地域や自治体等と合同での避難訓練、避難所設営、防災学習等、実践的な場の設定を通し、発達の段階に応じて、自分の役割を理解した行動ができるようにする。
- 自助・共助・公助の視点から地域社会の安全・安心に視野を広げ、地域の人々との幅広い交流やボランティア活動など、社会貢献や社会参加に関する活動の場を工夫する。



【参考文献等】

- ※ 放射線教育・防災教育実践事例ホームページ（令和3年3月 福島県教育委員会）
- ※ 放射線教育・防災教育実践事例集（平成31年3月 福島県教育委員会）
- ※ ふくしま放射線教育・防災教育指導資料 **活用版**（平成29年3月 福島県教育委員会）
- ※ 防災教育指導資料第1版～第3版（福島県教育委員会）
- ※ 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち・ひろめるぼうさい」（平成27年 日本赤十字社）

放射線教育

※は参考文献等

1 学校や地域の実状及び子どもの実態に応じた指導計画及び指導内容の工夫と実践

- 本県における放射線教育の重要性を踏まえ、学校安全計画や学校保健計画及び各教科等の指導計画に指導内容を位置付けるとともに、放射線教育の全体計画を作成するなどして学校全体で組織的、計画的に取り組む。
- 子どもの発達段階を考慮し、学級活動や道徳、総合的な学習の時間、各教科等で放射線等に関する内容にふれるなど、教科等横断的な視点から、様々な機会を捉えて時間を確保し、繰り返し実践する。
- 各学校の取組を家庭や地域へ向け積極的に発信し、放射線教育の必要性について理解を広め、家庭や地域及び関係機関との連携を図った具体的で実効性のある指導を工夫する。

2 放射線等の基礎的な知識や身の回りで行われている復興への取組を基にした、自ら考え、判断し、行動する力を育む指導方法の工夫

- 県教育委員会発行の放射線等に関する指導資料及び国や県、市町村教育委員会作成の資料を効果的に活用して、客観的な立場から指導する。
- 放射線の利用や影響について、科学的な根拠を基に考えたり、判断したりする態度の育成に努める。中学校卒業時点で、他者に科学的な根拠を基に情報発信できる力を身に付けさせるよう努める。
- 放射線等の性質について理解を深め、身の回りで行われている食品の安全管理や健康調査、除染作業等の復興に向けた取組についての理解を深める学習の充実に努める。
- これまでの放射線教育実践協力校の取組事例及び研修の機会等を活用して、教師自身が放射線に関する基礎的な知識を獲得するよう努める。



- ※ 放射線教育用学習教材（動画教材）
（令和3年9月 福島県教育委員会）
- ※ 放射線教育・防災教育実践事例ホームページ
（令和2年3月 福島県教育委員会）
- ※ 「放射線教育・防災教育実践事例集」
（平成31年3月 福島県教育委員会）
- ※ 「ふくしま放射線・防災教育実践事例パンフレット」
（平成29年3月 福島県教育委員会）
- ※ 「ふくしま放射線教育・防災教育指導資料【活用版】」
（平成29年3月 福島県教育委員会）

3 放射線から身を守り、健康で安全な生活を送ろうとする意欲と態度の育成

- 放射性物質を体に取り込まないようにするための方法や、放射線から身を守る方法を確実に身に付けさせ、普段から実践できるようにする。
- 放射性物質を扱う施設等で事故が起きた場合の放射性物質に対する防護や避難の仕方について身に付けさせる。

人権教育

※は参考文献等

1 人権を尊重する意識を高める教育の推進

- 人権教育の具体的な目標を設定するとともに、「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育や各教科等との関係を明確にした計画を作成し、教育活動全体を通じて人権意識を高める効果的な指導の充実を図る。
- 人権教育に関わる内容を明確にし、全ての教職員が計画的に、継続的に学校の教育活動全体を通じて働きかけるとともに、それぞれの教育活動の特質を生かした指導方法や内容を工夫する。
- 「性同一性障害、性的指向・性自認」「インターネットによる人権侵害」「いじめ」及び「新型コロナウイルス感染症にかかる差別」等の今日的な人権課題を含め、全ての教職員が人権尊重の理念を共有して指導できるよう、計画的な研修の実施に努める。

2 人権感覚を磨く教育活動の展開

- 教師自身が子ども一人一人のよさを認め、個に応じた学習活動を展開したり、自我の確立を支援したりする等の環境づくりに努めることで、子どもが自分及び他者が認められていると実感することができるようにする。
- 子ども同士が互いのよさや違いを認め合う場や機会を設定することで、思いやりに満ちた望ましい集団づくりに努める。
- いじめは人権に関わる重大な問題であり、人間として絶対に許されないという自覚を教職員自身がもつとともに、子ども一人一人の自覚を促す、心に響く指導を充実する。
- 教育環境としての教師の存在の重要性を踏まえ、教師の言動が子どもの人権感覚の醸成につながるものとなるようにする。

3 指導の効果を高める評価の工夫

- 人権尊重の視点から、学校教育における諸活動を評価する機会を設けるとともに、保護者や地域からの評価を取り入れる工夫をし、指導方法・内容や時期等の改善に生かす。

[参考資料等]

- ① 「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」（平成20年3月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm
- ② 「人権教育に関する特色ある実践事例」（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/jirei/1384040.htm
- ※ 「みんなで築こう男女共同参画社会公開授業実施報告書」（平成22年3月 福島県教育庁高校教育課）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/koukoukyoiku38.html>
- ※ 「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（平成27年4月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFiles/afielddfile/2016/04/01/1369211_01.pdf



①人権教育基礎資料



②人権教育に関する特色ある実践事例



主権者教育

※は参考文献等

1 系統的・計画的な指導計画と校内指導体制の整備

- 教科等横断的な視点から、児童生徒の実態や発達段階に応じた年間指導計画を作成する。
特に、児童生徒にとって身近な社会である学校生活の充実と向上を目指す児童会活動、生徒会活動やボランティア活動の一層の充実を図る。
- 年間指導計画の作成に際しては、文部科学省小・中学校向け主権者教育指導資料『主権者として求められる力』を子供たちに育むために」や義務教育課資料「主権者意識を育むために～指導の手引き【改訂版】～」等を活用し、実際の活用場面を想定しながら、学校の教育活動全体で資質・能力を育成することができるよう配慮する。
- 各教科等において、話し合いや討論などを行うことを通して、児童生徒が自らの考えをまとめていくような学習の充実を図る。

2 国家・社会の形成者として求められる力の育成

- 以下の力を身に付けられるようにする。
 - ・ 学校教育全体を通じて育むことが求められる論理的思考力
 - ・ 現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
 - ・ 現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決する力
 - ・ 公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

3 政治的中立性を確保した具体的で実践的な指導

- 学校の所在地や自分たちの住む市町村の政治、経済並びに地方自治など、地域の関係諸機関と連携した学習の充実を図る。
- 政治的、社会的事象を模擬的に取り上げたり、議論を通して多面的・多角的に考えさせたりするなど、児童生徒の発達段階に応じた取組の充実を図る。
- 児童会活動や生徒会活動、ボランティア活動などを通して、児童生徒が、学校生活の充実と向上に主体的に参画することを促す。

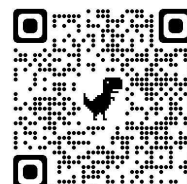
4 家庭や地域の関係団体などとの連携・協力

- 機会を捉えて、学校の方針を保護者やPTAなどに説明・共有することを通じ、家庭や地域の関係団体などとの連携・協力を図る。



※主権者意識を育むために

福島県教育委員会サブサイト
主権者教育関連情報についてより



資料・付録編

〈令和4年度幼稚園等新規採用教員研修の振り返りより（一部抜粋）〉

1回目の園内研修（参観研修）で、活動の振り返りをしている姿を見て、自分の保育でも活動の振り返りをするようになった。振り返りをすることで、自分が楽しかったことや頑張ったことをクラス全体で共有することができ、友達によさに気付ける時間となった。また、最初は恥ずかしがって話せなかった幼児も、回数を重ねるごとに自信をもって話せるようになり、成長を感じる事ができた。

園児が主体となり、遊びを通して学んでいけるようにするためには、保育教諭が先取りしたり、口を出し過ぎたりせず、「どうしてかな」「どうしたらいいかな」「これはなんだろうね」などの言葉をかけ、園児自身が考えて、気付けるようにすることで、挑戦しようとする気持ちや、失敗から試行錯誤する経験につながっていくと実感させられた。

「幼児の育ちつつある面や、よさに目が向けられていると、自然に関わりが温かいものになり、その園児の行動を信頼して見守ることができるようになること」や、「保育教諭が温かい目で見守っていると、園児は安心して自分らしい動きができ、様々な物事への興味や関心が広がり、自ら何かをやってみようとする意欲や活力が高まること」を学んだ。園児を肯定的に見ることが出来る保育教諭でありたいと思った。

成長し続ける子どものために、
自分自身も学び続けていかなければ
ならないと実感した。



幼児教育と小学校教育の「育ち」と「学び」をつなぐために

育みたい資質・能力 3つの柱

知識及び技能

思考力, 判断力, 表現力等

学びに向かう力, 人間性等

高 校
中 学 校
小 学 校

つ
な
ぐ

育みたい資質・能力の3つの柱が、幼児教育と小学校教育でしっかりと接続されることが大切です。(実効性のある「スタートカリキュラム」の作成) 「10の姿」を受けて、育った姿が発揮できるように工夫をし、幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていきます。



育みたい資質・能力 3つの柱

知識及び技能の基礎

思考力, 判断力, 表現力等の基礎

学びに向かう力, 人間性等

幼 稚 園
保 育 園
こ だ も 園

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・
規範意識
の芽生え

社会生活
との
関わり

思考力
の芽生え

自然との
関わり・
生命尊重

数量や図
形, 標識や
文字等への
関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感
性と表現

幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したのではないことに注意が必要です。



5領域

健康

人間関係

環境

言葉

表現

幼児教育では以下のような点を意識しながら5領域を通して、10の姿を目指し、資質・能力の育成を進めています。

項 目	意識していること	
保育の充実	健康	「幼児期運動指針」を踏まえながら、体を十分に動かし、楽しめる遊びの内容・方法・場を工夫している。(毎日合計60分以上) 教師、子ども同士と一緒に楽しく食べる雰囲気づくりをしている。 健康で安全に生活できる環境整備や施設・設備の工夫をしている。
	人間関係	自分の力で行動することの充実感を味わわせる遊びを設定している。 身近な人と親しみ、関わりを深める支援をしている。
	環境	発見を楽しんだり、考えたりすることができる身近な環境に関わらせる機会を充実させている。 物の性質や数量、文字などに対する興味・関心を引き出す場を設定している。
	言葉	自分の気持ちを言葉で表現する機会を得るための関わりを工夫している。 想像する楽しさを味わわせる絵本、紙芝居などによる読み聞かせ等を充実させている。
	表現	豊かな感性を養う直接的な体験活動を充実させている。
		感じたことや考えたことを絵、音、動きなど様々な方法で表す遊びを設定している。
特別支援教育の充実	「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」等を作成・活用したり、関係機関との連携を図ったりしながら、教職員の共通理解の下、子どもの実態に応じた指導内容・方法を工夫している。	

高等学校、そしてその先の未来へ

義務教育を終えた中学生のうち、一体どのくらいが高校に進学しているのでしょうか？ 『令和4年度学校基本調査』によると、県内中学生の高校進学率は**98.2%**。100人のうち実に98名が高校で学びを継続しているのが現状です。

多くの子どもたちにとって、どの学校に進学するかを選択する最初の機会が高校入試です。本来、自らの興味・関心や将来の夢・目標などを踏まえ、その分野と関わりが深い高校に進学することが、夢の実現や主体的な学びを継続していくために大切であることは言うまでもありません。しかし、将来の夢や目標が不明確という理由で、成績に見合った高校に機械的に進学していく生徒は少なくありません。

「子どもたちが充実した学校生活を送り、次のステージ、そして未来へはばたいて欲しい」。この思いは、保護者はもちろん校種を問わず教員共通の願いです。一方で、高校に進学した生徒の中から、毎年様々な理由で中途退学や転学を選択する生徒が現われます。義務教育ではない高校の悲しい現実です。

子どもたちが自らの進路を納得して選び、充実した高校生活を送り、そしてその先の未来（夢）に向かってはばたいていくために、私たち教員が心掛けておかなければならないことは何でしょうか？ ここからの4ページが、皆さんを新たな気付きやヒントへと導くきっかけとなれば幸いです。

(1) 県北地区には魅力的な高校がたくさんあります・・・！

※ ここでは、令和5年度以降も生徒募集を継続する県北地区の県立高校について主に紹介します

- 2つの課程 … 全日制（14校） 定時制（2校） ※ 通信制（郡山萌世）で学ぶ生徒もいます。
- 3つの学科 … 普通科 専門学科 総合学科
 - ・ 普通科（福島・橘・福島西・福島東（・福島南）・川俣・伊達・安達・本宮・ふくしま新世）
 - ・ 専門学科（福島商業・福島明成・福島工業・福島南・二本松実業・本宮）
 - ・ 総合学科（福島北）
- 3つの統合校 … 伊達・二本松実業（令和5年度）、ふくしま新世（令和4年度）

Q u i zです。次のキーワードが示す学校はどこでしょう？ 答えはぜひ調べてみてください・・・！

「地域探究未来学」 「SSH」 「ユネスコスクール」 「文理・国文・情会」
「4つの『自』」 「最新PC機器240台」 「夕間部・三修制・おいしい給食」
「県エプライド」 「高大連携・保育士を目指すなら」 「文武両道・進学指導重点校*1」
「デザ科」 「地域協働・コミュニティスクール」 「家庭系専門学科新設！」
「ミライラボ・包括連携協定」 「ジュニアマイスター特別表彰・実務代替」 「農力」

なるほど その1 普通科ってどんな学科・・・？



普通科とは「普通教育を主とする学科」で、県北地区の高校の中でも設置校数、在籍生徒数ともに最多の学科です。進学指導に力を入れる高校、就職支援に力を入れる高校、地域連携に力を入れる高校などその特徴も様々です。令和4年度から、普通科の特色化を目的に、一部の県立高校に「コース制（教育プログラム）」を導入しています。同一の進路希望をもつ生徒を対象に授業や長期休業中に体験学習や特別講座・講演会等を実施しており、大学等と連携した取組を行うことで、生徒の職業観・進路意識の醸成を目指しています。県北地区における導入状況は次のとおりです。

医学コース 福島 保健・医療コース 橘 教員養成コース 橘・福島東

なるほど その2
高校について知ることは・・・とても楽しいこと



「生徒や保護者への進路指導が実は苦手・・・」と思っている先生方はいませんか。教員になりたての頃に、自分より年上の保護者と接する場合はなおさらです。経験豊富な先生でも、「あの時の進路指導は適切だったのか・・・？」と振り返る機会はあるはずです。

進路指導の成否は当然合否だけではありません。生徒の興味・関心や将来の夢、友人関係や本人の特性、家庭の事情など様々な状況を踏まえ、生徒にとって最適な学校を紹介したいと思うものです。そのために教員側に必要なことは何でしょう？

高校説明会や体験入学（オープンスクール）、公開文化祭など、生徒や教員が高校について知ったり、その雰囲気を感じたりする機会はたくさんあります。各校の学校案内やHPからも学校の様子や特徴は伝わるものです。おすすめは、各校の「教育課程」に目をとおすこと。学校生活の大半を占めるのは日々の授業です。教育課程表をとおして、その高校では3年間で何を学べるのかや、選択科目の設定状況から生徒の進路希望の実現をどのように支援しようとしているかが見えてきます。充実した進路指導のためには、それぞれの高校の特徴を知ることが不可欠です。そして、高校を知る過程で、自分の高校時代の懐かしい記憶がよみがえるかもしれません。

(2) いま高校は大きな変化の中にあります

- ① 高校在学中に生徒は「**成人**」となります*2！
→ 学校教育全体で消費者教育や主権者教育に力を入れています。
※ 選挙権は引き続き18歳で付与されます。

【新たに認められること】

- ・親の同意なしでの契約（クレジットカード、スマートフォン、ローン、賃貸契約など）
- ・国家資格の取得（公認会計士・司法書士など）
- ・10年有効のパスポート取得
- ・性別変更の申し立て（性同一性障害）
- ・裁判員への選出（辞退も可能）

② 令和4年度から新教育課程に年次進行で移行しています

変化の一例

- ・ 社会科（地理歴史科・公民科）における必修修教科の変化
地理歴史科 世界史A → 歴史総合・地理総合 公民科 現代社会 → 公共
- ・ 情報教育の改変
必修修教科として**情報 I**が新設され、プログラミング等の学習が必修化
- ・ 探究的な学びの重視
複数教科に探究科目が創設され、総合的な学習の時間が総合的な**探究**の時間に移行
- ・ 3観点に基づく学習状況評価の導入
授業のねらい・評価規準の明確化 → 生徒の学習改善、**教師の授業改善**
- ・ **1人1台端末**の導入
推奨端末等は高校が合格者に通知し、入学に合わせて準備

いっしょに！
成人になるための準備はいつから・・・？



「成年年齢の引下げ」によって新たに認められた権利を正しく理解し、行使するための準備は、当然高校3年生になってからでは間に合いません。知識だけなら高校3年間で十分かもしれませんが、しかし、自己理解に基づく人生観や職業観の育成、責任感や主権者として社会で合意形成やルールづくりに参画するための力を育むためには、日々の授業はもちろん、小学校や中学校から続く児童会や生徒会活動、学級活動や学校行事などの特別活動での経験の積み重ねが大きな役割を果たすのではないのでしょうか。

*1 育成を目指す資質・能力を明確化・具体化し、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開するため、県立高校（全日制課程）を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア教育推進校」「地域協働推進校」「職業教育推進校」のいずれかに位置付けました。 *2 2022.4.1に「民法の一部を改正する法律」が施行されました。

なるほど その3
大学入試も変化しています！



- ※令和2年度から現行の大学入学共通テストに移行
- ・**思考力・判断力を重視**した作問へ（グラフ・地図・文章等の**読解問題が増加**）
→ 試験時間も一部の教科・科目で変わります

国語	80分	→	90分	数学	数学② ^{*3}	60分	→	70分
-----------	-----	---	-----	-----------	-------------------	-----	---	-----
 - ・**令和6年度（令和7年度入試）**から大学入学共通テストが新教育課程下の科目に再編
→ **「情報」が出題科目に採用**（※旧教育課程履修者のための経過措置導入も決定）
 - ・**「推薦入試」の定員枠が増加**（後期選抜の廃止や定員の減少）
※ 推薦入試は、「総合型選抜」（旧AO入試）と「学校推薦型選抜」（旧推薦入試）の2種類。出願要件や試験内容は、選抜方式や大学・学部によって異なります。面接（プレゼンテーションや口頭試問など）や小論文（レポート）が課されるのが一般的です。

(3) 高校卒業後の進路はいま？

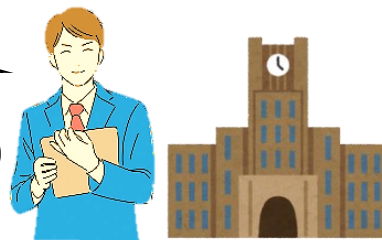
- ① 県内高校生の大学進学率は48.8%で**過去最高を更新しました！**^{*4}
※ 進学先は大学以外に短期大学（短大）や専門学校などがあります。
短大や専門学校、高等専門学校（高専）から大学に編入することもできます。
- ② 高校を卒業した生徒の多くが**地元福島を支えています！**
県北地区内の県立高校生の約3割が、高校卒業後に就職しています。
そのうち**8割以上**の卒業生が県内企業・事業所に就職しています！（大半が区内）

なるほど その4
進学は「普通科」以外からでもできます！

福島商業から約6割、福島工業から約5割、
福島明成から約4割の卒業生が進学しています。（令和3年度卒業生）

※ **普通科** 普通教科の学習 → 進学
専門学科 専門教科の学習 → **資格取得** → 進学

専門学科から進学した生徒は、専門的・実務的な力を基に大学での学びをスタートさせます。
専門学科の卒業生には、**国公立大学に進学した生徒や公務員に就職した生徒も多くいます！**



～経済的な支援で学びたい気持ちを応援します～

- ☆ 令和2年4月より、日本学生支援機構による給付型奨学金制度が創設されました。
給付型奨学金の対象者は、大学・専門学校等の授業料・入学金等も免除又は減額されます^{*5}。
 ①世帯収入等の要件を満たし、②**進学先で学ぶ意欲がある**こと。この2つを満たす全員が対象です。

給付型奨学金の支給月額

（住民税非課税世帯〈第1区分〉の場合）

区分	給付月額	
	自宅通学	自宅外通学
大学・短期大学・専門学校	国立	29,200円 (33,300円)
	私立	38,300円 (42,500円)
高等専門学校 (4年・5年)	国立	17,500円 (25,800円)
	私立	26,700円 (35,000円)

免除・減額の年額

（住民税非課税世帯〈第1区分〉の場合）

	国立		私立	
	入学金	授業料	入学金	授業料
大学	約 28万円	約 54万円	約 26万円	約 70万円
短期大学	約 17万円	約 39万円	約 25万円	約 62万円
高等専門学校	約 8万円	約 23万円	約 13万円	約 70万円
専門学校	約 7万円	約 17万円	約 16万円	約 59万円

① 生活保護世帯で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人は、カッコ内の金額となります。② 「入学金」の免除・減額を受けられるのは、入学後3か月以内に申請して支援対象となった学生等です。夜間部や通信教育課程の場合は、これとは別の額になります。

『学びたい気持ちを応援します』（高校生等対象リーフレット・日本学生支援機構のHPに掲載）より

- ☆ 保育職や介護職、看護職、その他医療系職種等への従事を希望する場合、
条件付き^{*6}で返還免除となる修学資金貸付制度があります。
- ☆ 成績優良者に独自の特待生制度を適用する大学等も増えています。

貸与型奨学金は返済義務の伴う借入金です。しかし、条件を満たせば実質的に給付型奨学金と同様に利用することが可能です。給付型奨学金や特待生制度も含めた修学支援制度を、それぞれの特徴や条件を理解した上で活用すれば、**経済的な理由で将来の夢を諦める必要はありません！**

『将来の夢応援ガイドブック』（福島県保健福祉部こども未来局こども・青少年政策課）→



(4) 子どもたちが充実した高校生活を送り、未来にはばたくために・・・!

気になる生徒の情報を共有しましょう! ～「受験の壁」や「学校の垣根」を越えて～

「AさんとBさんが同じ高校に進学するのか。同じクラスになるのはまずいよな・・・。」「Cさんとの接し方や支援の仕方について伝えておいた方がいい気がする・・・。」「やはりDさんは高校生活に適應できなかったか・・・。」「高校からEさんについて問合せがあったけれど、学年の先生方の多くがもういない・・・。」

こんな不安や葛藤を感じたことがある先生も多いはず。「でも、高校には連絡しにくい・・・。」実は高校側も同じ思いをもっています。お互い声をかけたいけれどそのための一歩が出ない。行動した時には状況が深刻化していることも少なくありません。

高校には、進路変更(中途退学・転学)という選択肢が、中学校に比べより現実的なものとして存在します。高校1年生は、入学段階では「中学4年生」に近い存在です。進路変更や不登校の生徒は、一般に学年が下がるほど多い傾向にあります。子どもたちが高校生活をとおして成長し、胸を張ってその先の未来にはばたいていくためには小・中学校と高校の連携は欠かせません。高校にとって、生徒たちを思う先生方からもたらされる情報は、とても貴重でかけがえのないものです。

なるほど その5

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする高校生の割合は・・・?

「学習面又は行動面で著しい困難を示す」**2.2%** (小・中学校 8.8%)

「学習面で著しい困難を示す」1.3% (小・中学校 6.5%)

「行動面で著しい困難を示す」1.4% (小・中学校 4.7%)

「学習面と行動面ともに著しい困難を示す」**0.5%** (小・中学校 2.3%)

これは、令和4年12月13日に文部科学省が公表した調査結果^{*7}です。この調査では、「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」(上記の「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒を対象に、「授業時間内に教室内で個別の配慮・支援を行っているか^{*8}」を調査しました。その結果は以下のとおりです。

「行っている」18.2% (小・中学校 54.9%) 「行っていない」**80.7%** (小・中学校 43.2%)



いっしょに!

個別の教育支援計画の引継ぎ率 100%をめざして・・・



第7次福島県総合教育計画では、**幼・小・中・高**における個別の教育支援計画の引継ぎ率を、令和12年時点で100%にすることを目標に掲げています(令和2年度時点では71.2%)。一人の子どもの成長、そしてその配慮や支援の記録を次の学校に引き継ぐことは、特別な教育的支援が必要な子どもたちにとって、合理的かつ必要不可欠な配慮です。

※ 高校においても令和4年度入学生より適用となる学習指導要領(新教育課程)において、通級による指導の導入と個別の教育支援計画の作成に努めることが明示されました。

※ 令和5年度の県立高等学校入試より、県立高等学校から県立特別支援学校への出願先変更が認められるようになりました(学校教育法施行令第22条の3の障がい有し、事前に特別支援学校の教育相談を受けることが条件)。

未来にはばたく子どもたちのために、私たち教員が連携すべきことはたくさんあります。

*3 数学①は大学入学共通テスト導入時に試験時間が70分に変更されています。*4 『令和4年度学校基本調査』より。

*5 進学希望先の大学等が制度の対象かどうかは文部科学省のHPで確認が必要です。

*6 一定期間(貸与期間と同期間、3年間、5年間・・・)貸付先の関連施設等で勤務するなど。

*7 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」。令和4年1月から2月にかけて調査が実施され、1,800校88,516人のうち、1,627校74,919名から回答を得ました。

*8 特別支援教育支援員による支援を除きます。個別の配慮・支援とは、座席位置の配慮、コミュニケーション上の配慮、習熟度別学習における配慮、個別の課題の工夫など。

特別支援教育「交流及び共同学習」に取り組む際に



特別支援学級と通常の学級での「交流及び共同学習」が、うまくいかないのですが…

特別支援教育センターのコーディネートハンドブックに【交流及び共同学習連携シート】の活用について提案していますよ。



【交流及び共同学習連携シート】例

令和〇〇年度 小学4年生										
交流予定について (○交流できる △一部交流できる ・今後交流を進めていきたい)										
氏名 / 交流教科等	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	総合	特活
福島太郎		○		○	△	○	○	△	○	△
交流及び共同学習における本人の目標										
◎身近な教師や友達に自分の思いを伝えながら、一緒に活動したり、自分でできることを増やしたりすることで、集団の中でも自分の力を発揮することができる。										
☆児童生徒の実態と配慮事項について、(社会、理科、音楽、体育、学活の例)										
教科等	○学習における実態 ●予想される困難さ ◎配慮や支援									
社会	○歴史については、とても興味を示し、意欲的に学習に取り組むことができる。 ●指示を受けて資料集などから必要な部分を探すことに時間がかかる。 ◎今見るべき場所を、個別に指さしもしくは隣の席の友達から教えてもらうとできる。									
理科	○実験にとっても興味があり、意欲的に学習に取り組む。 ●実験が楽しすぎて、説明をよく聞かなかったり、理解できない時がある。 ◎どんな実験をするか、もう一度、本人と確認すると確実に取り組むことができる。									
音楽	○歌を歌うことが好きで、習った歌やアニメなどの歌やフレーズを口ずさむ。 ●鍵盤ハーモニカは、不器用なために、一斉指導のペースでは難しい時がある。 ◎鍵盤ハーモニカについては、確実な学習の定着を図るために、状況に応じて〇〇学級で個別に指導し、確実な定着と本人の“できる”気持ちを育む。発表等の時に交流する。									
体育	○体を動かすことは好きで活動が分かれば楽しく活動することができる。 ●今までやったことがない活動に対しては取り組もうとしないことがある。 ◎新しい活動の場合は、事前に教えてもらうことで、〇〇学級で練習や見通しがもてるように指導する。									
特活	○お楽しみ会や行事関係は一緒に活動することを楽しみにしている。 ●気持ちが盛り上がりすぎて、約束やルールを破ることがある。 ◎自主活動の時間で、社人間関係やルール等を守りながら楽しく活動できるように指導している。									

通常の学級で学習する時の特別支援学級の児童生徒の実態や学習上の困難さが見えるようになってきているんですね。児童生徒の目標や手立て、かかわり方を共有することが大切なのですね。



シート1枚になっていると分かりやすいですね。僕も(通常学級担任)も見通しをもって、安心して授業の中で配慮や支援をすることができるようになりますよ。



支援員・介助員さんとの連携についても書いてあると、さらに安心できますね。



「交流及び共同学習」に取り組む際に(様式もダウンロードできます。)

【交流及び共同学習の目的・意義】

障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。

また、このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、障害のある子供にとっては、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながるのと同時に、障害のない子供にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながると考えます。

小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。

交流及び共同学習は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、この二つの側面を分かちがたいものとして捉え、推進していく必要があります。

※ 交流及び共同学習ガイド(2019年3月改訂) 文部科学省

「交流及び共同学習」とは、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があります。教科のねらいが明確なことも大切なことです。



特別支援教育の充実のために ～webコンテンツ等～

国立特別支援総合研究所、福島県特別支援教育センターのwebコンテンツ、県北教育事務所で実施している「切れ目のない支援体制整備事業」等を有効に活用し、特別支援教育の充実を図る。

合理的配慮実践事例



<実践事例データベース>

- ・ 障がい種別、校種、学級種ごとに、「合理的配慮」の実践事例が、約590件公開されている。
 - ・ 「相談コーナー」が開設されており、都道府県、市町村、学校からの「インクルーシブ教育システム構築」に関する相談を受け付けている。
 - ・ 「関連情報」には、「インクルーシブ教育システム構築」に関する様々な情報が掲載されている。
- (リンク先 URL) <http://inclusive.nise.go.jp>

指導・支援 Q&A



<指導・支援>

- ・ 子どものつまづきを「学習面」「行動面」「社会性」の側面からQ&Aで説明している。
 - ・ 発達障がい等の特性を踏まえ、子どもを理解して指導・支援する方法を紹介している。
- #### <研修講義>
- ・ 発達障がいのある子どもの教育的支援に必要な基礎的な内容について、研修等で活用できる講義動画が配信されている。
 - ・ 研修講義を活用して想定される校内研修のモデルと、実際の研修講義の活用事例について紹介している。

授業づくり・学級づくり 等

地域で共に学び 共に生きる教育を推進する

福島県特別支援教育センター

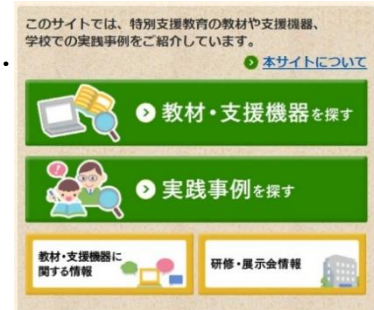
〒963-8041 福島県郡山市富田町字上ノ台 4-1
TEL(024)952-6497 FAX(024)952-6599
相談専用 TEL(024)951-5598
代表メールアドレス special-center@fcs.ed.jp

<コーディネートハンドブック>

- インクルーシブ教育システムを推進するために必要な情報を、各学校の実状に向き合い、「読みやすい」「実施しやすい」をコンセプトに作成されている。
- ・ 多様な学びの場の理解を深めるコーディネートアイデア
 - ・ 気付き、つながりを助けるコーディネートアイデア（ケース会議の進め方など）
 - ・ 「障がいの児童生徒等への配慮」各教科等コーディネートアイデア等

教材の活用

特別支援教育センターの教材・支援機器ポータルサイト、さらに同サイトより国立特別支援教育総合研究所のサイトへリンクしている。



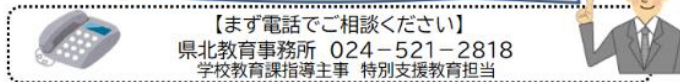
<特別支援教育教材ポータルサイト>

- ・ 障がい種別、ニーズ、教科等ごとに教材支援機器を検索することができ、同様に実践事例に関しても検索することができる。

相談・研修支援の申し込み

特別支援教育に関する相談・研修支援要請について

「切れ目のない支援体制整備事業」
をご活用ください！



【まず電話でご相談ください】
県北教育事務所 024-521-2818
学校教育課指導主事 特別支援教育担当

◎ 学校等からのニーズに応じて、地域支援センター（特別支援学校設置）担当教員等を派遣

<支援の内容について>

- ・ 発達、学習、行動面で気になる子どもへの対応に関する助言（ケース会議による支援策、合理的配慮の検討など）
- ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用
- ・ 授業づくりに関する助言
- ・ 特別支援教育に関する教員の研修

特別な支援を必要とする子どもに関する進学時の引継について(例)

本例は、ある中学校区で行われている引継の実践、関係法令、文献等を基に作成しました。

1 引継のねらい

- (1) 中学校進学に際し、本人・保護者の理解と承諾の得られた特別な支援を必要とする児童について、小学校から中学校に必要な情報を引継ぐことにより、切れ目のない学びと支援を提供できるようにする。
- (2) 本人、保護者の中学校における生活に対しての不安等を丁寧に聞き取り、必要に応じて学校見学や中学校での教育相談を実施し、見通しをもち、安心して中学校進学を迎えられるようにする。

2 引継に関する留意点

- (1) 小学校及び中学校の校長は相互に連携を図り、特別な支援を必要とする児童に関する引継を確実、丁寧に行えるよう年間計画に位置付ける。
- (2) 校長の指示の下、小学校及び中学校の特別支援教育コーディネーター(Co)を中心に準備し、実施する。
- (3) 特別支援学級及び通級による指導教室に在籍する児童に関しては、本人、保護者の理解と承諾の下、引継を行う。引継には、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」、記録等を活用するよう努める。
- (4) 通常の学級に在籍する児童で、特別な支援を必要とする児童に関しては、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の有無に関わらず、本人、保護者の理解と承諾の下、引継を行う。
- (5) スクールカウンセラー(SC)を適宜活用する。
- (6) 引継に際して、保護者の同席などについても、臨機に対応する。

3 引継日程及び役割等について…別紙(次項)

<関係法令・通知等>

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について
(平成30年8月27日付け30文科第756号文部科学省初等中等教育局長通知)
- 教育と福祉の一層の連携等の推進について
(平成30年5月24日付け30文科初第357号・障発0524第2号文部科学省初等中等教育課長及び厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長連名通知)

<引用・参考文献等>

- ※ 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編
- ※ 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編
- ※ 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン
(平成29年3月 文部科学省)

引継日程及び役割等について

月・日程	○小学校が行うこと	■中学校が行うこと
1学期初 夏季休業 2学期初	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・承諾・評価・見直し ○日程、内容等の打合わせ <p style="text-align: center;">6年生ケース会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■日程、内容等の打合わせ <p style="text-align: center;">Co・SC等の参加</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等を基に行う <p style="text-align: center;">進学に向けての教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別懇談週間、普段の懇談等を活用 ○本人・保護者の不安等の確認 ○中学校参観・中学校での教育相談希望確認 <p style="text-align: center;">本人・保護者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■児童の実態を把握する ■中学校での情報共有 <p style="text-align: center;">小学校での授業参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ■授業を参観しての児童の見取り ■小学校との情報共有 ■Co・SC等による ■中学校での情報共有 <p style="text-align: center;">学校見学 教育相談</p>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ○場合によっては担任等同行 <p style="text-align: center;">6年生ケース会議</p>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の評価・見直し ※合理的配慮の確認を確実に行う ○引継ぎ資料の作成 <p style="text-align: center;">担任・Co参加</p>	<p style="text-align: center;">引継会</p>
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」、記録等による引継 ○中学校からの依頼を受け、ケース会議等に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ※新しい学びの場で提供可能な合理的配慮の再検討・引継 <p style="text-align: center;">校内での情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ケース会議等に参加を依頼するなど、必要に応じて小学校と連携

これが今の私

今の自分を、見つめてみませんか。
令和5年度の自分が考えていたこと、感じていたこと…。



記入日：令和 年 月 日

[得意なこと・好きなこと]



[好きな言葉]

[最近心に残った本]

[目標にしたい人]

[今、夢中になっていること]

[私の夢]



[最近感動したこと]

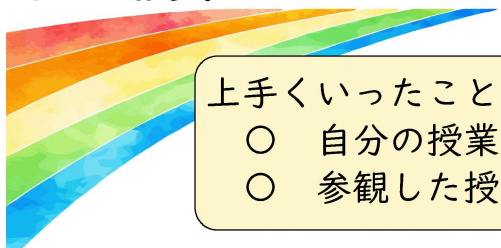
[大切にしていること]

[自分の「いいな」と思うところ]



[]

私の授業プラス日記 No. _____



上手くいったことを書き留めてみませんか。
 自分の授業
 参観した授業



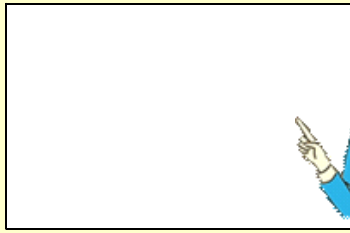
	月 日 (曜)	教科等名	授業を振り返って (上手くいったこと等)	
1	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
2	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
3	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
4	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	
5	月 日 () [授業者] ・ 自分 ・ _____ 教諭		<input type="checkbox"/> 学習課題 <input type="checkbox"/> コーディネート <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> 振り返り	

**主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～**

① 本時のねらい [科 第 学年「 」 /]

[Blank area for lesson objectives]

③ 学習課題・見通し



[Blank area for learning tasks and overview with student icons and question marks]

[学習課題]

④ 追究・解決



[Blank area for inquiry and problem-solving with student icons and question marks]

(ゆさぶり、切り返しの発問)

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く

まとめ

[まとめ]

振り返り



[Blank area for reflection with student icons]

教師の思い・願い



[Blank area for teacher's thoughts and wishes]



道徳教育全体計画（別葉）
形式例（Word版）



私の授業レシピシート



私の授業プラス日記



あゆみ先生



きづき先生



わかば先生

